平成２８年度

研究報告書

研究テーマ

「児童生徒の生きる力を育み、自立や社会参加を目指した肢体不自由教育における小・中・高１２年間を見通した指導の在り方」

～知的障害を併せ有する子どもへの国語及び算数・数学の指導における授業改善の取組～

平成 29 年３月

長崎県立諫早特別支援学校

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・1
知的障害を伴う子どもの教科の学びを保障する　・・・・・・・・・・・・2

Ⅰ　取組の概要
　１　取組の目的　・・・・・・・・・・・・3
　２　教育課程改善に向けた取組　・・・・・・・・・・・・8
　３　教育課程と日々の教育実践とのつながり　・・・・・・・・・・・・9

Ⅱ　全校研究の取組
　１　平成２８年度の全校研究　・・・・・・・・・・・・12
　２　グループ研究の実際
　　Ａ国語：注意・やりとりグループ　・・・・・・・・・・・・17
　　Ｂ国語：役割グループ　・・・・・・・・・・・・24
　　Ｃ国語：習慣グループ　・・・・・・・・・・・・30
　　Ｄ算数・数学：注意・やりとりグループ　・・・・・・・・・・・・37
　　Ｅ訪問教育の研究　・・・・・・・・・・・・43
　３　全校研究の成果と課題　・・・・・・・・・・・・53

Ⅲ　自立活動の取組
　１　自立活動の指導について　・・・・・・・・・・・・55

Ⅳ 取組の総括　・・・・・・・・・・・・69

Ⅴ　資料
　資料１　「身に付けさせたい力」マトリクス　・・・・・・・・・・・・71
　資料２　通常教科の目標・内容の系列一覧　・・・・・・・・・・・・78
　資料３　知的教科の目標・段階・内容の系列一覧　・・・・・・・・・・・・80
　資料４　学習指導案について　・・・・・・・・・・・・81
　資料５　研究授業指導案集　・・・・・・・・・・・・86
　資料６　国語学習内容表（注意・やりとりグループ）　・・・・・・・・・・・・110
　資料７　算数・数学学習内容表（算数・数学：注意・やりとりグループ）　・・111
　資料８　評価規準の設定例（国語：習慣グループ）　・・・・・・・・・・・・112
　資料９　教育課程編成に向けてのアンケート　・・・・・・・・・・・・121
　資料１０校内研究アンケート　・・・・・・・・・・・・124
おわりに　・・・・・・・・・・・・127

はじめに

本校では、これまで、小学部から高等部までの１２年間を見通して、子どもたちにどのような力を身に付けさせていくのか、いつ、何をどのようにして教えていくのかを明らかにしてきました。また、個々の目標を達成するためには、児童生徒の心身の発達に応じて、教育内容、授業時数等との関連において総合的に組織した教育計画が必要であることから、日々の教育活動をもとに、実践、評価、改善し、その授業実践の評価を学校教育の総体である教育課程の改善に取り組んでいるところです。

国においては、平成２７年１１月より特別支援教育部会で具体的な学習指導要領等の改善･充実の方策についての議論が開始され、平成２８年８月には審議のとりまとめがでました。特別支援学校においては、知的障害者である子どもたちのための各教科の目標・内容について小学校等の各教科の目標・内容との連続性・関連性を整理すること。また、一人一人の学習状況を多角的に評価するため、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を導入し、学習評価を基に授業評価や指導評価を行い、教育課程編成の改善･充実に活かすことができるＰＤＣＡサイクルを確立することが必要であると、まとめられています。

本校では、教育課程を大きく分けると、小学校、中学校、高等学校の各教科･科目等によって編成される教育課程、下学年や下学部の各教科の目標及び内容によって編成される教育課程、特別支援学校（知的障害）の各教科等によって編成される教育課程で行っています。

知的障害特別支援学校の各教科等によって学んでいる児童生徒については、合わせた指導の根拠の明確ではないことや、教科の指導の系統性、連続性等が明確でないといった課題もありました。

そこで、昨年度から「児童生徒の生きる力を育み、自立や社会参加を目指した肢体不自由教育における小･中・高１２年間を見通した指導の在り方」というテーマを掲げ、知的障害者を併せ有する子どもへの国語及び算数・数学についての授業改善へ取り組んできました。

この２年間の知的障害特別支援学校の国語と算数・数学に視点を当てた取組を通して、教科の系統性および小学校等の国語、算数・数学の教科との連続性・関連性について整理してきました。また、障害の特性等に配慮した授業改善、指導評価を行い、教育課程編成の改善・充実に活かすことができるＰＤＣＡサイクルを動かしながら進めてきました。

この２年間の取組はまだ十分とはいえませんが、多くの皆様にご一読いただき忌憚のないご意見ご批評をいただければ幸いに存じます。

平成２９年３月

長崎県立諫早特別支援学校校長　池田　孝之

知的障害を伴う子どもの教科の学びを保障する

福岡教育大学　　一木　薫

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会，2016）では、次期学習指導要領に向けた特別支援学校（知的障害）の各教科に関する改訂の方向性が示されました。小学校等で通常の各教科を学び、特別支援学校（知的障害）へ進学する子どもが増加する現状、すなわち、通常の各教科と知的障害の各教科を学ぶ子どもが増加する現状を鑑み、双方の各教科の目標・内容の関連について整理が図られる方向です。また、中学部の内容に２段階を新設し、これまで学部共通で示されていた目標を内容の各段階ごとに設定する、通常の各教科同様に観点別の評価を導入する方向性も示されました。

知的障害の各教科を学ぶ子どもにも、教科の学びを通して「何ができるようになるのか」、学びに向かう姿勢や思考力・判断力・表現力、知識や技能を習得した姿を具体的に想定し、その達成状況を的確に把握することが一層求められることを意味します。

従来、知的障害を伴う子どもに対する教科指導は、多くの場合、領域・教科を合わせた指導として展開されてきました。その際、指導を担う教師が教育内容と指導形態を混同し、結果として、授業で扱う教育内容の自覚が不十分な実践が少なくない現状にありました。同答申では、特別支援学校（知的障害）に在籍する子どもが「当該各部の各教科における段階の目標を達成しているなど、特に必要がある場合には、個別の指導計画に基づき、当該各部に相当する学校段階までの小学校等の学習指導要領の各教科の目標・内容等を参考に指導できるようにすることが適当」と示されました。今後、特別支援学校には、自校で選択した教育内容の学びを十分に保障するために最適な指導形態を選択することを改めて認識した上で、教育内容に照らした個々の子どもの学習評価についていつでも説明できることが一層求められます。

今年度、諫早特別支援学校では、知的障害を伴う子どもの教科の学びについて実践研究に取り組まれました。国語や算数・数学の学びを通して「何ができるようになるとよいのか」、知的障害に肢体不自由をあわせ有する子ども一人ひとりから「どのような姿を引き出せるとよいのか」、その姿を引き出すには「どのような授業展開や手だての工夫を図るとよいのか」。研究を通して検討・整理された授業づくりの手続きと実践の蓄積は、今後、知的障害の各教科の指導を担う特別支援学校や特別支援学級の先生方が、個々の子どもの学びの成立を図る授業づくりに臨む際に必要な示唆を提供するものと思います。知的障害の各教科を学ぶ子どもは、全ての特別支援学校と特別支援学級の多くに在籍しています。諫早特別支援学校からの実践知の発信と、さらなるブラッシュアップに期待いたします。

Ⅰ　取組の概要

１　取組の目的

本校では、小学部から高等部までの１２年間を見通して、児童生徒にどのような力を付けさせていくのかを明確にするため児童生徒に卒業までに「身に付けさせたい力」のマトリクスを作成した。（資料P71～「身に付けさせたい力」マトリクス参照）

また、各学部が卒業までに身に付けさせたい力を整理したうえで、教育課程の改善を図ってきた。教育課程については、児童生徒の実態に即し、きめ細かな指導を行うため、下記に示す４つに分けて編成している。

Ⅰ課程：小中学校及び高等学校の学習指導要領に準じた教育課程
Ⅱ課程：教科の目標･内容の一部を下学年・下学部に替えた教育課程
Ⅲ課程：知的障害特別支援学校の教科に代替した教育課程
　Ａ類型：知的障害特別支援学校の当該学部段階の各教科の内容
　Ｂ類型：知的障害特別支援学校の下学部段階の各教科の内容
　Ｃ類型：自立活動の内容と知的障害特別支援学校の下学部段階の各教科の内容
Ⅳ課程：訪問教育による教育課程

日々の教育活動を展開する中で以下の課題が出てきた。

① 同じような内容を繰り返し学力が着実に積み上がっていない。そのため、発展的、系統的な指導となっていない。
② 知的障害特別支援学校の教科と小・中・高等学校の教科の目標、内容は違うが、小・中学校の通常学級や特別支援学級から転入学してくる児童生徒に対して、連続的な学びを行っていくことを考えると、関連性と系統性を整理する必要はないのか。
③ 知的障害特別支援学校の教科等を合わせた指導において、学習内容を明確にしているのか。学習を通して何を学んでいるのか明確にしているのか。
④ 小学部から中学部、中学部から高等部の教科の系統性はつながっているのか。

そこで、知的障害を併せ有する児童生徒への国語及び算数・数学の指導における授業改善に焦点を当て、自立活動の指導、教育課程編成の改善と関連させながら、下記の具体的な内容で実践研究を進めていった。

① 知的障害を併せ有する児童生徒への国語及び算数・数学の指導の授業改善とは、知的障害特別支援学校の国語、算数・数学の系統性とともに、小・中・高等学校の各教科との関連、系統性について整理していくこと。
② 教育課程の改善とは、肢体不自由のある児童生徒の身体の動きの困難さからくる感覚や認知の特性と、それら障害特性からくる経験の不足などの学習上の困難さに配慮した授業改善と学習評価を行い、その学習評価、指導評価を教育課程編成の改善・充実に活かすことができるPDCAサイクルを行っていくこと。
③ 自立活動の指導との関連については、特別支援学校の特色といえる自立活動の指導についても障害特性に応じた指導及び教科との関連について見直しを図っていくこと。

このように、各教科、自立活動との関連を図りながら、教育課程編成の改善・充実が図られれば、児童生徒の「身に付けさせたい力」を育むことにつながると考える。

２　教育課程改善に向けた取組

教育課程編成の基本として、特別支援学校学習指導要領解説に則り、以下のような手順で行った。

（１）教育課程の編成に対する学校の基本方針

（基本方針、学校の姿勢、共通理解）

年度はじめに「長崎県立諫早特別支援学校　教育課程編成　基本方針」を作成することを全校に周知し、学校教育目標―めざす学校像・めざす児童生徒像・めざす教師像―各部目標―教育課程編成―授業という流れを確認した。基本方針には、類型の説明や各部目標だけでなく、本校が当面している課題をその年度の教育課程編成において本校で基本とする考え方として箇条書きで記すようにし、全職員が理解をした上で編成作業に取り組めるようにした。

（２）教育課程の編成のための具体的な組織と日程を決める

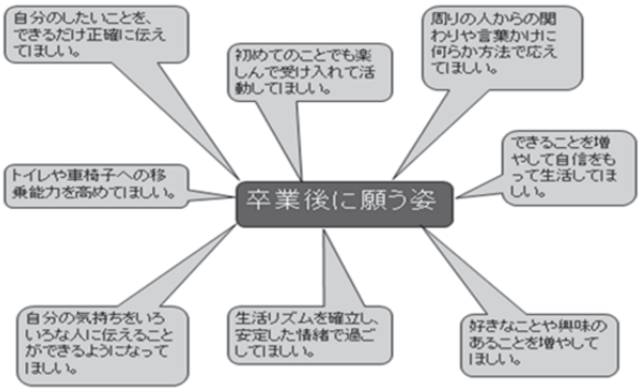
（編成のための組織、職務分担、役割、相互関係）

教育課程に関する取組の計画や運用の推進役として、教育課程検討プロジェクト（教育課程担当部主事、部主事、各部教務主任、研究主任、自立活動部主任）を編成し、年間計画を立案した。この年間計画表は、教育課程に関する業務だけではなく、個々の教員の業務や関係校務分掌の業務も示し、教育課程を考えることと教育活動全体との関連が分かるようにしている。また、平成 28 年度からは、全校研究や部会とのつながりも見える形に工夫をした。(P７～平成 28 年度　諫早特別支援学校　日々の教育活動と授業改善・教育課程改善をつなげるための取組　年間計画を参照)

（３）教育課程の編成のための事前の研究や調査をする

（研究や調査、国や教育委員会の基準、学校の実態や諸条件、保護者や地域住民の意向、児童生徒の障害の状態及び発達の段階や特性等、実施中の教育課程を検討し評価）

教育課程の編成にあたっては、教育課程検討プロジェクトにおいて、関係法令や学習指導要領解説と本校で編成している教育課程と照らし合わせを行った。



また、本校は、「通いたい学校、通わせてよかった学校、信頼される学校」をビジョンとして、児童生徒・保護者・教職員が一体となって学校教育活動を推進している。このビジョンを実現するためには、個別の教育支援計画を踏まえ、長期的かつ多角的な視点で就学前から学校卒業後までを見通した学校教育を行うことが不可欠である。この中で重要なことは学校卒業後の自立や社会参加に向けた姿を児童生徒本人や保護者、学校、関係機関等で語り合うことである。とりわけ本人や保護者の願いが重要である。本校では、個別の教育支援計画を作成していく中で明らかになった、在籍している児童生徒の３年後のめざす姿を集約し、その傾向や達成度を分析して、未来の諫早特別支援学校児童生徒が活用できる資料としている。上の図

は、高等部重複学級に在籍している保護者がわが子に卒業後にこうあってほしい、と願っている姿を整理したものである。こういった資料を基に、「個別の指導計画」を作成し、どの児童生徒にとっても「分かる授業」を展開できるように努めている。年間を通して、保護者と担任との個別面談、授業参観時の部主事との学部懇談などを計画的に実施し、授業や活動の意図を説明・共有できるようにしている。

（４）学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める

（学校教育の目的や目標、教育課程の基準、当面する教育課題）

本校の学校教育目標は、『教育基本法、学校教育法等の人間尊重の精神を基調として、児童生徒一人一人の特性や課題に応じてきめ細やかな一貫した教育を行うことにより、「生きる力」を育み、自立し社会参加を目指す健康で心豊かな人間の育成に努める。』である。この目標を達成するための具体的な姿として、『めざす学校像』『めざす児童生徒像』『めざす教師像』を示している。教育課程を考えるにあたっては、『めざす児童生徒像』を取り上げ、本校を卒業するまでに児童生徒に身に付けさせたい力を明らかにし、その習得に向けた授業を展開する必要があると考えた。そこで、平成２２年度の校内研究において、実際に指導している児童生徒の実態や成長過程を考慮しながら各部修了段階の「めざす姿」を具現化する作業を行い、児童生徒の実態別に４つのマトリクスとして整理した。（P71～　資料１「身に付けさせたい力」マトリクス）このマトリクスは、年度ごとに所属する児童生徒の実態に合わせ文言等の修正を行いながら活用してきている。平成２５年度からは個別の教育支援計画に学校で「身に付けさせたい力」を明記し、児童生徒の３年後の姿を学校、保護者、関係機関等で共有している。

マトリクスは、以下の表を目安に教育課程の類型別に対応させている。

表１　教育課程の類型と対応するマトリクス

<table>
<tr><th>課程類型
学部</th><th>Ⅰ課程</th><th>Ⅱ課程</th><th>Ⅲ課程Ａ類型</th><th>Ⅲ課程Ｂ類型</th><th>Ⅲ課程Ｃ類型</th></tr>
<tr><td>高等部</td><td rowspan="3">マトリクス１</td><td rowspan="3">マトリクス２</td><td>マトリクス２
マトリクス３</td><td rowspan="3">マトリクス４</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td rowspan="2">マトリクス３</td></tr>
<tr><td>小学部</td></tr>
</table>

※訪問教育は、在籍する児童生徒の実態に応じたマトリクスを活用する。平成２８年度に在籍している児童生徒は全てマトリクス４を活用している。

（５）教育課程を編成する

（各教科等間の指導内容相互の関連、系統的な指導ができるような指導内容の配列・組織、合科的・関連的な指導、授業時数の配当、年間授業時数・単位数、１単位時間）

平成２８年度は、（１）～（４）の現状を踏まえ、学校全体の教育課程に関する課題として

①教育内容と指導形態の検討を同じレベルでしてしまう傾向にあること

②知的教科を扱う教育課程の指導形態の設定や指導内容、指導時数の整合性について検討が不十分であること

③全校研究で整理したことや明らかになったこと、教科会や各教科等を合わせた指導担当者会で協議されたことが教育課程に反映されていないこと

の３点を挙げ、その改善に向けて取り組むこととした。

平成28年度　諫早特別支援学校　日々の教育活動と授業改善・教育課程改善をつなげるための取組　　年間計画

	教育課程編成・検討・改善	全校研究	学部会	各教師（日々の教育活動）	教務部	研究部	自立活動部	進路指導部	教育支援部
3			学部会⑰	高3以外寄宿舎・家庭との教育支援計画めざす姿に向けた成果等の確認					本校児童生徒と関係している機関の把握
				高3以外学年末の保護者との面談 次年度の申し送り記載	次年度の個別の指導計画（教科）作成・運用に向けて	研究推進委員会	次年度の個別の指導計画（自立活動）作成・運用に向けて	次年度の個別の移行支援計画作成・運用に向けて	次年度の個別の教育支援計画作成・運用に向けて
					教室配置作成				
4	本校の教育課程編成の基本方針、自立活動と教科の手続きの違い 本校における個別の教育支援計画・個別の指導計画の位置づけについて		学部会① 学部会②	児童生徒についての引き継ぎ 担当する児童生徒の前年度までの学びの確認	時間割作成 個別の指導計画（教科）の趣旨及び運用説明	研究推進委員会（今年度のテーマ、取組の概要）	個別の指導計画（自立活動）の趣旨及び運用説明	進路指導年間計画の検討 社会体験学習の評価シート検討 高3社会体験学習の要項検討	個別の教育支援計画の趣旨及び運用説明
				学期はじめ保護者との面談（個別の教育支援計画（Ⅰ）の確認、1～3年後のめざす姿の聞き取り、必要な関係機関の確認）			研修①（個別の指導計画の作成）	進路希望調査の実施	
		研究会①（今年度の全校研究について）		自立活動チェックリストの実施 学習到達度チェックリストの実施 学習指導要領に照らし合わせた目標・段階の把握	めざす姿・目標設定会議日程提案	研究授業・授業計画年間計画提案	学習会①（身体の触れ方、動かし方、姿勢のとらせ方）	進路指導年間計画の周知 教員向け進路研修会の実施	
				実態及び関係機関等におけるサービス内容をふまえた個別の支援計画における皆でめざす姿の原案作成 PTA総会日を基点とした保護者との教育支援計画の記載事項の確認（保護者に押印：原本は保護者、学校はコピー保管） 教科及び自立活動の目標設定				保護者向け進路研修会の実施 高3社会体験学習に向けた打ち合わせ	本校児童生徒と関係している機関の集約
5			学部会③	めざす姿・目標設定協議				進路希望調査結果の集計 卒業生等からの情報収集の内容・方法の検討	関係機関への情報共有の依頼
		研究会②（グループ研究）		めざす姿・目標設定協議 寄宿舎指導員との目標の共有			研修②事例検討（パワーアップシートの作成）		
	第1回教育課程検討委員会（29年度編成に向けた年間計画）			めざす姿・目標設定協議 寄宿舎指導員との目標の共有			学習会②（見え方についてのアセスメント①）	高3社会体験学習（2W） 社会体験学習先にいる卒業生等からの情報収集	
	昨年度末の児童生徒の学習到達水準の集約して資料作成			個別の教育支援計画運用開始（必要に応じて関係機関等へ訪問し、目標・内容・連携事項・成果等を加筆）	教科会、合わせた指導担当者会①の日程・グループ編成提案	昨年度末の児童生徒の学習到達水準の集約して資料作成			個別の教育支援計画運用開始（各教員からの依頼に応じて訪問依頼書等の作成補助）
6			学部会④	教科会、合わせた指導担当者会①	評価会日程提案			高3社会体験学習の評価とりまとめ 社会体験学習先にいる卒業生等からの情報収集の集約	個別の教育支援計画の作成状況の確認とめざす姿の集約
	年度はじめの実態と身につけてほしい水準の集約して資料作成	研究会③（グループ研究）			教科会、合わせた指導担当者会①の集約	研究授業（各グループ1本ずつ） 年度はじめの実態と身につけてほしい水準の集約して資料作			
				1学期評価及び評価会					
7			学部会⑤（校外学習）		教科会、合わせた指導担当者会②の日程提案				
		研究会④（グループ研究）							
				学期末の保護者との面談				高2社会体験学習の要項検討	
			学部会⑥（教科会、合わせた指導担当者会に向けた準備会）	1学期の評価をふまえた2学期の指導の目標確認・修正			研修③事例検討（評価から指導の改善）	夏季事業所等見学先にいる卒業生からの情報収集	
8	1学期の評価を集約して資料作成		学部会⑦（所属基準について）	教科会、合わせた指導担当者会②		長肢研 1学期の評価を集約して資料作成	1学期の評価を集約して資料作成 学習会③（見え方についてのアセスメント②）	卒業生の在籍している事業所等への訪問、追跡、開拓	
					教科会、合わせた指導担当者会②の集約				
		研究会⑤（全体研究）					学習会④		
			学部会⑧（教科会、合わせた指導担当者会を受けて）				研修④外部専門家		
9	第2回教育課程検討委員会（教育課程に関連した課題改善の進捗状況、授業・教育課程に関するアンケートの実施要項）		学部会⑨				研修⑤事例検討（パワーアップシートの作成）	4月～8月に収集した情報の集約 高2社会体験学習に向けた打ち合わせ	
		研究会⑥（グループ研究）		授業・教育課程に関するアンケートの記載					
	授業・教育課程に関するアンケートの集約						学習会⑥	高2社会体験学習（2W） 社会体験学習先にいる卒業生等からの情報収集	
10			学部会⑩			研究授業・授業研究（各グループ1本ずつ）			
	第3回教育課程検討委員会（アンケートの集約共有、学部等での検討から29年度の柱を設定）	研究会⑦（グループ研究）		学部会を受けての教科別、学年別、グループ別の検討			研修⑥	高2社会体験学習の評価とりまとめ 社会体験学習先にいる卒業生等からの情報収集の集約	
						九肢研	学習会⑦		
			学部会⑪（第3回教育課程検討委員会を受けて）		評価会日程提案			高3卒業後の進路先決定に向けた手続き	
11									
	第4回教育課程検討委員会（28年度基本方針を決定）	研究会⑧（グループ研究）		教育課程表作成に向けた話し合いや作業開始	教育課程表作成に向けた話し合いや作業分担の提案	全肢研			
	職員会議にて28年度教育課程編成基本方針の伝達			2学期評価及び評価会					
					教科会、合わせた指導担当者会③の日程提案				
12	教科会、合わせた指導担当者会の要項提案		学部会⑫						
				学期末の保護者との面談 29年度教育課程編成に向けた教科会、合わせた指導担当者会③					
			学部会⑬	2学期の評価をふまえた3学期の指導の目標確認・修正 29年度教育課程編成に向けた教科会、合わせた指導担当者会③	教科会、合わせた指導担当者会③の集約		研修⑦事例検討（変容を踏まえた課題の整理）		
1	2学期評価を集約した資料作成		学部会⑭（29年度教育課程編成に向けた教科会、合わせた指導担当者会を受けて）	教育課程表作成		2学期評価を集約した資料作成	2学期評価を集約した資料作成 学びの履歴の一覧表作成		
	第5回教育課程検討委員会（各学部の教育課程の構造と教育課程表表記の確認）	研究会⑨（グループ研究）		教育課程表作成	高3評価会日程提案				
				教育課程表作成					
			学部会⑮	高3学年末評価及び評価会	高3以外評価会日程提案		研修⑧外部専門家活用研修（専門性向上）の振り返り		個別の教育支援計画の年度末の業務の周知
2			学部会⑯	高3寄宿舎・家庭との教育支援計画めざす姿に向けた成果等の確認					
				高3以外学年末評価及び評価会				高3卒業後の個別の移行支援計画を用いた引き継ぎ	
		研究会⑩（まとめ）							
	28年度教育課程表を県へ提出			高3学年末の保護者との面談					
3			学部会⑰	高3以外寄宿舎・家庭との教育支援計画めざす姿に向けた成果等の確認					本校児童生徒と関係している機関の把握
				高3以外学年末の保護者との面談 次年度の申し送り記載	次年度の個別の指導計画（教科）作成・運用に向けて	研究推進委員会	次年度の個別の指導計画（自立活動）作成・運用に向けて	次年度の個別の移行支援計画作成・運用に向けて	次年度の個別の教育支援計画作成・運用に向けて
					教室配置作成				

２　教育課程改善に向けた取組

教育課程プロジェクト・教育課程検討委員会を中心として、「平成 28 年度　諫早特別支援学校　日々の教育活動と授業改善・教育課程改善をつなげるための取組　年間計画」に沿って、以下の９点を観点として、学校内で授業や教育課程の評価を進めていった。

○　児童生徒の障害の状態に関わらず、学校教育として提供する教育内容について、各教科、自立活動、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の学びを成立させることを前提とした教育課程を編成する。

○　児童生徒の実態とともに学びの履歴を的確に把握し、卒業までに身に付けてほしい力を踏まえて、授業づくりをする。

○　本人・家庭を中心として、医療・福祉・教育・労働の関係諸機関と連携しながら、計画的・系統的に１２年間をとおしたキャリア教育を実践する。

○　教科別の指導においては、教科の内容の相互の関連や系統性を明らかにして、児童生徒の習得度と障害特性に応じた指導を行う。

○　各教科等を合わせた指導においては、児童生徒の実態や経験等に応じて、知的障害特別支援学校の各教科・道徳・特別活動・自立活動の内容を基にして、指導する内容を具体的に設定する。

○　自立活動の指導においては、チェックリストや課題整理表、学習内容一覧等を活用して、６区分２６項目から児童生徒に必要なことを相互に関連付けた指導を展開する。

○　社会体験や自然体験などの活動を通して、豊かな心や生きる力をはぐくみ、人間として調和のとれた児童生徒の育成に努める。

○　日々の学習の集大成として、行事を計画的に設定し、学校全体が一丸となって企画・運営に取り組む。

○　地域の人々や他校との交流及び共同学習を計画し、相互に理解を深めるとともに、在学中から児童生徒の社会参加を念頭においた指導を行う。

３　教育課程と日々の教育実践とのつながり

各教員の教育課程と日々の授業や業務とのつながりの手応えや実践の程度を把握するために、『２教育課程改善に向けた取組』で記した平成２８年度の教育課程編成の基本的な考え方の各項目について、以下のアンケートを実施した。

アンケート調査の結果を踏まえ、平成２９年度の教育課程編成における基本的な考え方において、４つの項目を修正し、以下の８点とした。（〇：平成２８年度の継続、▼修正した項目）

〇　児童生徒の障害の状態に関わらず、学校教育として提供する教育内容について、各教科、自立活動、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の学びを成立させることを前提とした教育課程を編成する。

〇　児童生徒の実態とともに学びの履歴を的確に把握し、卒業までに身に付けてほしい力を踏まえて、授業づくりをする。

▼　本人・家庭を中心として、医療・福祉・教育・労働の関係諸機関と連携しながら、卒業後の姿を想定し、小中高のつながりを密にして計画的・段階的な教育を実践する。

▼　社会参加や地域での生活につながるよう、学校以外の場所や人との関わりを広げたり高めたりすることをねらいとした指導を行う。

〇　教科別の指導においては、教科の内容の相互の関連や系統性を明らかにして、児童生徒の習得度と障害特性に応じた指導を行う。

▼　各教科を合わせた指導においては、知的障害特別支援学校の各教科の内容から、児童生徒の実態や経験等に応じて具体的に指導する内容を設定し、単元や活動につなげていく。

〇　自立活動の指導においては、チェックリストや課題整理表、学習内容一覧等を活用して、６区分２６項目から児童生徒に必要なことを相互に関連付けた指導を展開する。

▼　日々の学習の集大成として、行事や児童生徒会活動を計画的に設定し、学校や部、分教室の全体が一丸となって企画・運営に取り組む。

平成２９年度の教育課程編成においては基本的な考え方に則って、学校教育目標―めざす学校像・めざす児童生徒像・めざす教師像―各部目標を踏まえ、まずは、指導形態からではなく、教育内容から明らかにしていった。教育内容を示すことによって学校教育として「何を」教えるのかを明確にし、その上で、「どのように」教えるのかの指導形態を検討するという手続きを踏んだ。そうすることによって、児童生徒の障害の状態に関わらず、学校教育として提供する教育内容について、各教科、自立活動、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の学びを成立させることを前提とした教育課程を編成することができ、「教科も、自立活動も」という考えに立った教育を実践できると考えたからである。

以下に、中学部Ⅲ課程Ｃ類型の２９年度の教育課程の構造を例示する。

教育内容		指導形態	主に扱う段階
各教科	国語	教科別の指導　各教科等を合わせた指導〔日常生活の指導、生活単元学習〕	小-１、２
	社会	教科別の指導　各教科等を合わせた指導〔日常生活の指導、生活単元学習〕	小-１、２(生活)
	数学	教科別の指導　各教科等を合わせた指導〔日常生活の指導、生活単元学習〕	小-１、２(算数)
	理科	教科別の指導　各教科等を合わせた指導〔生活単元学習〕	小-１、２(生活)
	音楽	教科別の指導　各教科等を合わせた指導	小-１、２
	美術	教科別の指導　各教科等を合わせた指導〔生活単元学習〕	小-１、２(図画工作)
	保健体育	教科別の指導　各教科等を合わせた指導	小-１、２(体育)
	職業・家庭	教科別の指導　各教科等を合わせた指導〔日常生活の指導、生活単元学習〕	小-１、２(生活)
	外国語	教科別の指導　設けないことができるを適用	
特別の教科 道徳		時間を特設して指導　時間を特設せずに指導	
総合的な学習の時間		時間を特設して指導	
特別活動		時間を特設して指導　時間を特設せずに指導	
自立活動		時間を特設して指導　時間を特設せずに指導	

指導形態		時数
各教科	国語	70
	数学	70
	音楽	70
	美術	35
	保健体育	70
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	210
	生活単元学習	210
特別の教科　道徳		教育活動全体
総合的な学習の時間		35
特別活動		35
自立活動	自立活動	175
	食事の指導	175
年間総授業時数		1155

検討・作成した教育課程の構造を踏まえ、以下のことに留意し、平成２９年度の教育課程表を作成しているところである。

〇特定の児童生徒に応じるのではなく、その類型（学習グループ）に在籍する児童生徒全体に付けさせたい力を想定して作成する。

〇Ⅲ課程の国語・算数（数学）については、全校研究で協議・検討していることを反映させる。また、Ⅲ課程の教科の内容については、「知的障害特別支援学校における各教科の具体的な内容の例」、「学習到達度チェックリスト」、全校研究での成果物をデータベースとして引用し、オリジナルの文言は記載しない。

〇3 回実施した教科会･教科等を合わせた指導担当者会で協議や検討したことを反映させる。

〇教科書を使用している教科等については、そこにある単元名を用いるなど、何に基づいたものなのかを誰にでも説明できるように備える。

〇教科等を合わせた指導については、単元構成表を作成する。扱う内容全てを表記するのではなく、評価の対象になると想定される内容を表記することとする。

〇可能な限り細かなスパンで指導時数を記載する。

平成２９年度　長崎県立諫早特別支援学校　教育課程編成　基本方針」を次ページに示す。

平成２９年度　長崎県立諫早特別支援学校　教育課程編成　基本方針

＜教育課程の類型について＞

児童生徒の障害の状態や発達段階、卒業後のめざす姿に応じ、以下の類型の教育課程を編成し、指導の充実を図る。

Ⅰ課程：小中学校及び高等学校の学習指導要領に準じた教育課程
Ⅱ課程：教科の目標・内容の一部を下学年･下学部に替えた教育課程
Ⅲ課程：知的障害特別支援学校の教科に代替した教育課程
　Ａ類型‥知的障害特別支援学校の当該学部段階の各教科の内容
　Ｂ類型‥知的障害特別支援学校の当該学部段階の各教科の内容から１～２段階下げた内容
　Ｃ類型‥知的障害特別支援学校の各教科の小学部１、２段階の内容
Ⅳ課程：訪問による教育課程

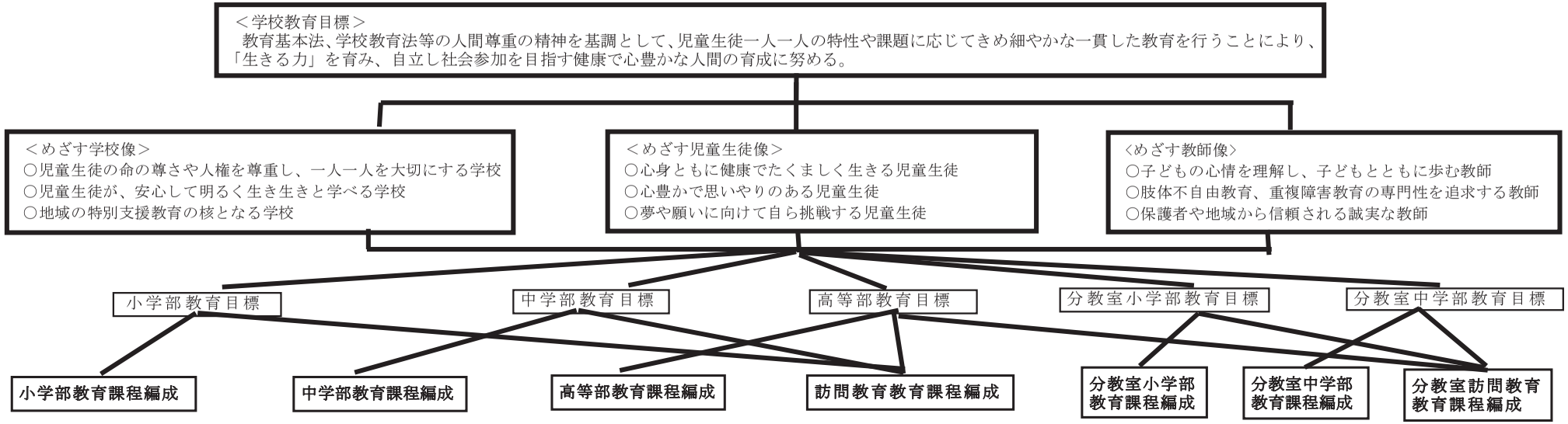
＜各部教育目標＞

学校教育目標を踏まえた以下のような各学部の目標の実現をめざし､一貫した系統性のある指導を行う。

小学部:児童一人一人の実態や特性に応じ､心身ともに健やかな成長ができるように、日常生活に必要な基礎的な知識･技能･態度を育てる。
中学部：生徒一人一人の心身の発達状況や特性を的確に把握し、自ら周りの人や環境に関わる態度を育て、自己選択・自己決定の力を養うとともに、健康で心豊かな生徒の育成に努める。
高等部：生徒一人一人の特性や課題に応じ、積極的に社会参加するための進路指導を行い、社会生活を営む上で必要となる知識･技能･態度を育成する。
分教室小学部：児童一人一人の実態や特性に応じたきめ細やかな教育活動を行い、日常生活に必要な知識・技能・態度を身に付けさせるとともに、意欲的に取り組もうとする児童を育てる。
分教室中学部：生徒一人一人の実態や特性に応じたきめ細やかな教育活動を行い、基本的生活習慣を身に付けさせるとともに、健康の保持増進に努め、主体的に自己表現、自己選択、自己決定ができる生徒を育てる。

＜学校全体の基本的な考え方＞

○　児童生徒の障害の状態に関わらず、学校教育として提供する教育内容について、各教科、自立活動、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の学びを成立させることを前提とした教育課程を編成する。
○　児童生徒の実態とともに学びの履歴を的確に把握し、卒業までに身につけてほしい力を踏まえて、授業づくりをする。
○　本人・家庭を中心として、医療・福祉・教育・労働の関係諸機関と連携しながら、卒業後の姿を想定し、小中高のつながりを密にして計画的・段階的な教育を実践する。
○　社会参加や地域での生活につながるよう、学校以外の場所や人との関わりを広げたり高めたりすることをねらいとした指導を行う。
○　教科別の指導においては、教科の内容の相互の関連や系統性を明らかにして、児童生徒の習得度と障害特性に応じた指導を行う。
○　各教科等を合わせた指導においては、知的障害特別支援学校の各教科の内容から、児童生徒の実態や経験等に応じて具体的に指導する内容を設定し、単元や活動につなげていく。
○　自立活動の指導においては、チェックリストや課題関連図、学習内容一覧等を活用して、６区分２６項目から児童生徒に必要なことを相互に関連付けた指導を展開する。
○　日々の学習の集大成として、行事や児童生徒会活動を計画的に設定し、学校や部、分教室の全体が一丸となって企画・運営に取り組む。



Ⅱ　全校研究の取組

１　平成２８年度の全校研究

（１）研究主題

「児童生徒の生きる力を育み、自立や社会参加を目指した肢体不自由教育における小・中・高１２年間を見通した指導の在り方」～知的障害を併せ有する子どもへの国語及び算数・数学の指導における授業改善の取組～

（２）問題の所在

肢体不自由教育においては、的確な実態把握、目的や意図が明確な指導及び評価による授業改善を行い、児童生徒一人一人の能力や可能性を育むことが求められている。

本校ではこれまでに、肢体不自由児が教科を学ぶ際の困難さについて整理を行い、発達検査、学習到達度度チェックリスト、標準学力検査（ＣＲＴ）等を活用してそれぞれの教育課程編成の類型に所属する児童生徒の実態を総体的に把握することに努めてきた。また、高等部卒業後を想定して、１２年間の在学期間で何を身に付けさせ、いつの段階でどのような内容を指導していくべきかを検討し、習得しやすい内容や習得しづらい内容の洗い出しを行った。加えてめざす姿に基づいた学習内容表の作成、「身に付けさせたい力」のマトリクスと学習内容の照合・改訂を進めるとともに、これらは今後も引き続き取り組んでいく課題と捉えている。

平成２６年度の教育課程の改善に向けた研究では、本校の知的障害を併せ有する児童生徒において、その発達水準や学びの履歴、学習の習得状況（学習到達度チェックリスト（2014 徳永）でスコア１から１０８以上を示す）を踏まえつつ、実態差に応じた目標の立て方と評価の観点が課題としてあがってきた。

教科及び各教科等を合わせた指導においては、指導目標や学習評価において知的障害特別支援学校の学習指導要領を用いてはいるものの、本校の児童生徒は、知的障害のみの児童生徒とは異なる様相を示すことも多いため、そのままでは活用しにくい面もある。また、小学部１段階から中学部段階、高等部１、２段階までの内容のどの段階にあたるかは把握できても、授業でどのような力を付けるかは、その達成水準の曖昧さから指導の道筋が描きにくいという問題があった。

そこで、平成２７年度からの全校研究では国語に焦点をあて、授業改善を主題としてグループ別の研究に取り組んだ。教科の目標設定までのプロセスを明確にしたことで、根拠のある指導の道筋が分かり、１年間の指導に一定の見通しがもてるようになった。Ⅲ課程 C 類型に在籍する児童生徒に国語においては、どのような力を付けていくのかを、発達を踏まえて整理した学習内容表（平成２７年度版）を作成した。また、自立活動の６区分と教科との関連を探る中で、教科と自立活動の目標設定の違いと指導のねらいについても共有でき始めている。（図１）

しかし、平成２６年度から課題として上がっていた教科の評価の観点については、まだ十分に検討することができていない。さらに教科指導の道筋について国語以外の教科においても検証することが課題として残った。

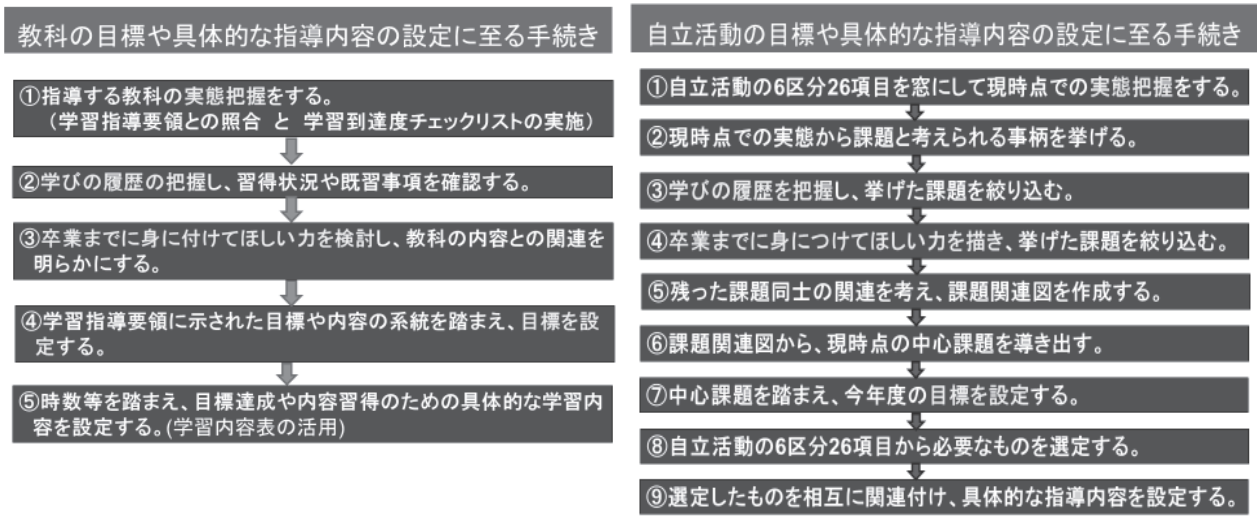


図１　教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違い

（３）今年度の研究の目的

教科の内容の系統性について整理し、それらを身に付けさせるための授業の在り方について国語及び算数・数学を対象として研究する。取組を通して、児童生徒の各教科における実態把握を確実に行い、「いつ、何を、どのように」指導するのかの道筋が明らかにしていくことで、根拠に基づいた目標及び評価の設定と授業実践につなげたい。

（４）研究構想図

＜研究主題＞

「児童生徒の生きる力を育み、自立や社会参加を目指した肢体不自由教育における小・中・高１２年間を見通した指導の在り方～知的障害を併せ有する子どもへの国語及び算数・数学の指導における授業改善の取組～」

＜問題の所在＞

・知的障害を併せ有する子どもの教科は、知的障害特別支援学校の学習指導要領を根拠として指導しているが学習指導要領では内容の表記に幅があり、指導の道筋が描きにくい。

＜研究仮説＞

個々の『学びの履歴』、『卒業までに身に付けさせたい力』を踏まえつつ、１２年間の系統性を踏まえた根拠ある教科指導を実践することで、知的障害特別支援学校の授業改善を行うことで、個に応じた指導内容・方法が明らかになるだろう。

＜研究内容＞

・個別の指導計画と日々の授業の関連の明確化を図る。
・学習到達度チェックリストの今の段階（スコア）から次の段階に進むための指導内容や手立の検討する。
・「指導目標の設定」「目標に準拠した評価」「指導内容」「単元・題材」等が適切かどうかを授業実践と授業研究を通じて検討していく。

＜各分掌との連携＞

・研究の成果と課題は、教科会、教育課程検討委員会、各学部での検討を経て、教育課程の改善や編成の研究へとつなぐ。

（5）研究方法

①グループ編成

Ⅲ課程（知的障害特別支援学校の教科に代替した教育課程）の児童生徒を対象に、知的障害特別支援学校学習指導要領に照らした内容の段階及び学習到達度チェックリストによる実態に応じて以下のようにグループを編成した。教科において「何を」「いつ」指導すべきかを考え、１２年間の学びを見通した目標設定、評価設定の検討を行った。

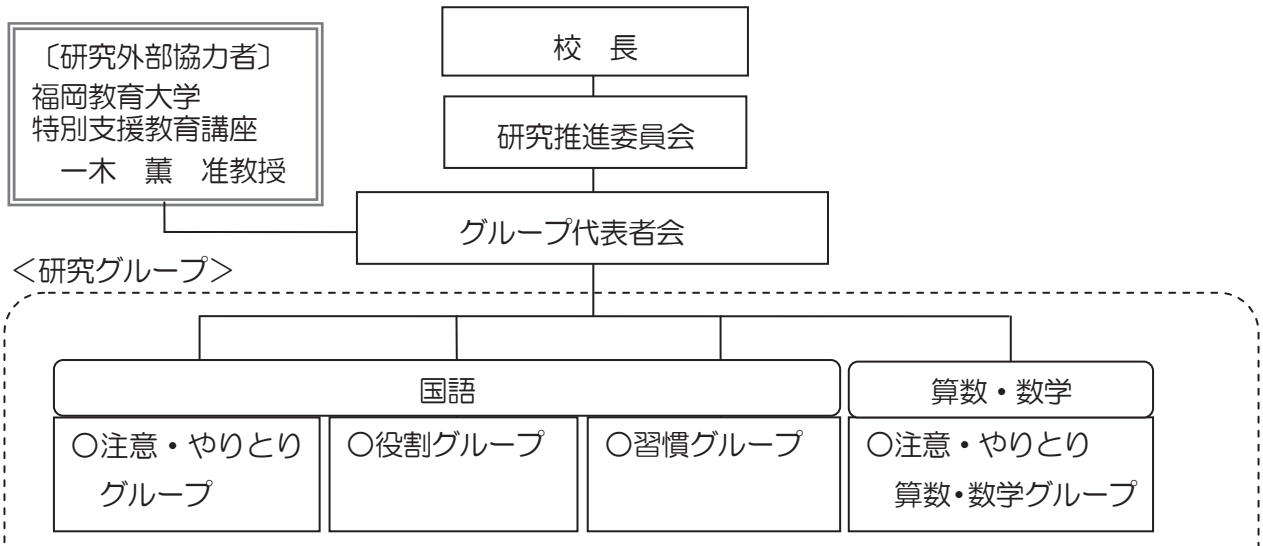
グループ名	対象とする教科	対象とする児童生徒	
		知的特別支援学校学習指導要領の内容の段階	学習到達度チェックリストのスコア（月齢）※
注意・やりとりグループ	国語	１段階～２段階	１～　１８
役割グループ	国語	２段階～３段階	２４～　４８
習慣グループ	国語	３段階～４段階	６０～１３２
注意・やりとりグループ	算数・数学	１段階～２段階	１～　１８

※対象児童生徒の詳しい実態については、各グループの報告に記載

②研究授業及び授業研究会

各グループから２事例を抽出し、研究授業・授業研究を行うこととした。校内で学習指導案の様式の統一を図り、研究授業を行う時には、実態把握から目標設定、評価の設定といった教科指導の手続きを共有しつつ小学部、中学部、高等部の各学部段階で学ぶべき内容を整理し、授業改善につなげることとした。今年度は、「卒業までに身に付けさせたい力」と国語、算数・数学の授業との関連や学びの履歴等を踏まえた指導方針や目標設定に加え、目標に準拠した評価設定（評価規準、評価基準）に焦点を当て、研究授業の展開時に児童生徒の具体的な姿から評価することができるよう記述することとした。（資料４　P81～学習指導案について参照）

（6）研究組織図



対象とする教科の発達段階ごとに小学部・中学部・高等部を縦割りにしたグループを編成することで、学習のつまずきや知的発達を踏まえつつ、到達水準に対応や卒業後の姿を見据えた協議や検討を実現する。グループ名は、その発達段階の特徴を表す名称を学習到達度チェックリストの「段階・意義」を参考に設定した。

（7）各種研究会

研究会	回数	目的
研究推進委員会	2回/年	全校研究の方向性を決定する。
グループ代表者会	1回/月	研究主任及び各グループ代表者、学部主事でグループの進捗状況や方向性の確認を行う。
全体研究会	3回/年 研修会1回	研究内容の周知や進捗状況、全体研修会、最終報告会等を開催し研究を深める。
グループ研究会	1回/月	児童生徒の発達段階ごとに学部縦割りグループを編成する。各学部の共有と授業改善を図りながら研究を深める。
研究授業 授業研究会	各ｸﾞﾙｰﾌﾟ 2回/年	各グループから2本ずつ研究授業を行い、授業改善を図る。各教科等の目標と指導内容との関連を踏まえ、評価規準、評価基準を設定した指導を検証する。

（8）年間研究計画

月	研究内容
4月	○研究推進委員会　・今年度の研究について ○全体研究会　・研究方針、内容の周知、共有
5月	○グループ研究会
6月	○グループ研究会
7月	○グループ研究会
8月	○全体研修会　・外部協力者招聘研修 ○グループ代表者会　・進捗状況の報告 ・外部協力者からの助言 ○グループ研究会
9月	○グループ研究会
10月	○グループ研究会
11月	○グループ研究会
12月	○グループ研究会
1月	○グループ研究会　・グループ研究のまとめ
2月	○全体研究会　・研究のまとめ ○グループ代表者会　・研究報告 ・外部協力者からの助言
3月	○研究推進委員会　・次年度の研究について

研究授業・授業研究会①

研究授業・授業研究会②

（９）研究内容の共有

一年間の研究活動はグループ研究会を中心に行った。グループで研究した内容は、グループ代表者会を通じて代表者間で共有したり、研究レポートを発行し、それを校内のポータルサイトを利用して配付したりすることで全職員が共有できるように努めた。

（１０）研究グループ構成

		算数・数学	国語		
研究グループ名		注意・やりとりグループ	注意・やりとりグループ	役割グループ	習慣グループ
研究授業	小	１学期		１学期	２学期
	中		２学期		１学期
	高	２学期	１学期	２学期	
グループ代表者		○研究主任 数学科教諭	○研究副主任 自立活動部主任	○研究部 教育支援部員	○研究部 自立活動専任
アドバイザー		高等部主事		小学部主事	中学部主事
グループメンバー	小学部	４名	４名	５名	５名
	中学部	７名	７名	５名	６名
	高等部	６名	８名	８名	７名
	訪問教育	２名	２名		
	人数計	１９名	２１名	１８名	１８名

（平成２８年４月時点）

①グループ代表者

グループの研究方針を決定し、研究を推進する教員である。

②アドバイザー

研究内容に対する助言や軌道修正を図る教員であり、学部主事があたっている。

③グループのメンバー

研究グループは、各学部からバランスよく人数を配置し、学部間の指導情報が共有しやすくなることをねらった。また、訪問教育の担当者も本校の研究グループに属しながらともに研修することで、訪問教育の研究との整合性を図ることとした。訪問教育の担当者は現在訪問教育に在籍している児童生徒の実態を考慮して、国語、算数・数学の各「注意・やりとり」グループに配置している。

Ａ　国語：注意・やりとりグループ

（１）研究の概要

①問題の所在

・国語の教科指導において、根拠ある目標及び評価設定に課題がある。そのため、発達の初期段階にある児童生徒へ根拠ある指導のために、国語の実態把握から評価基準設定までの手続きを明確にし、授業の評価に応じて柔軟に授業改善を行っていく必要がある。
・国語の教科指導において、昨年度国語の学習内容表を作成したが、活用方法についての検討が課題となっている。そのため、国語の教科指導において、学習内容表の活用の定着を図る必要がある。

②研究の目的

・国語の内容のまとまりごとの「学びの履歴」や卒業までに身に付けさせたい力を踏まえた実態把握から評価基準設定までの手続きを全員で共有し、それらの根拠について説明することができる。
・国語の学習内容表の見直しを行い、整理をする。

③研究計画

５月	○今年度の研究について ・昨年度のグループ研究の振り返りと今年度の方向性について
６月	○目標設定に至る手続きの再考① ・７月の研究授業の対象生徒の国語における到達度状況を国語の学習内容表を用いて考える。
７月	○研究授業・授業研究① ・高等部の事例を通し、実態把握から目標設定までの手続きの妥当性を考える。
８月	○目標設定に至る手続きの再考② ・グループごとに対象児童生徒を設定し、実態把握において、「学びの履歴」及び「卒業までに身に付けさせたい力」を国語の内容のまとまりごとに考える。
９月	○目標設定から評価基準に至る手続きについて① ・国語の内容のまとまりに応じ、各スコアの目指す姿を考える。
１０月	○国語の学習内容表の見直し① ・各スコアの目指す姿を受けた国語の学習内容の検討を行う。
１１月	○研究授業・授業研究② ・中学部の事例を通し、目標設定から評価基準設定までの手続き及び観点別評価の妥当性を考える。
１２月	○国語の学習内容表の見直し② ・学校として「身に付けさせたい力」と「高等部卒業までに国語で身に付けさせたい力」の相関性を再考する。
１月	○目標設定から評価基準設定までの手続きについて② ・全員が目標設定から評価基準設定までの手続きを実践する。

（2）本グループに属する児童生徒について

本グループに在籍する児童生徒の学びは、学習指導要領に照らすと、知的障害特別支援学校の各教科の１段階の内容に相当している。また、学習到達度チェックリストでは、「受け止め・対応」、「表現・要求」、「見ること」、「操作」の国語の内容のまとまりに相当する項目のスコアは、主にスコア２～８である（図２～５）。

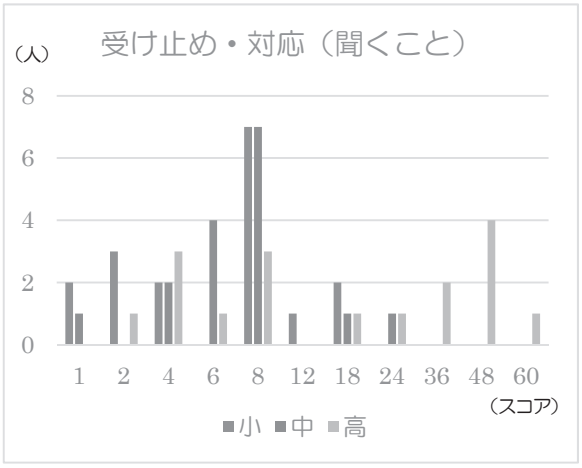


図２　受け止め・対応

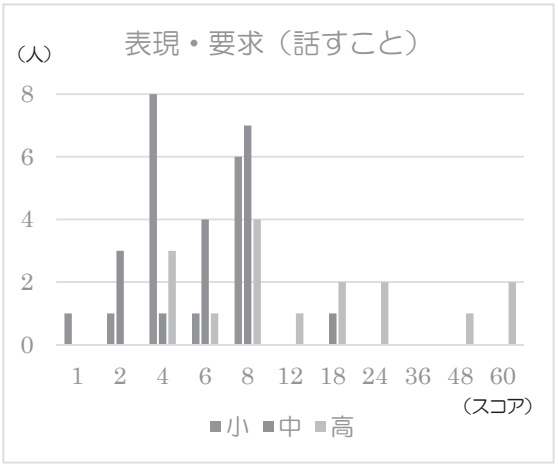


図３　表現・要求

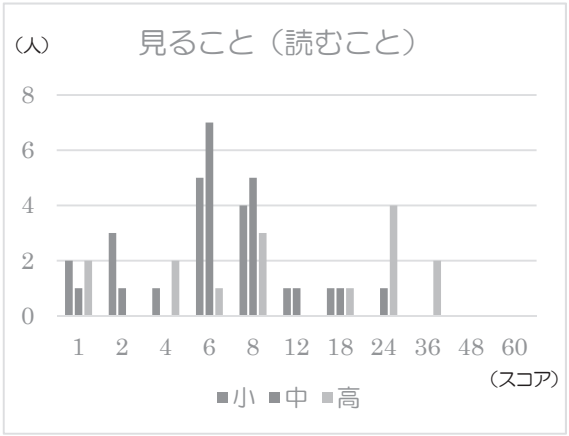


図４　見ること

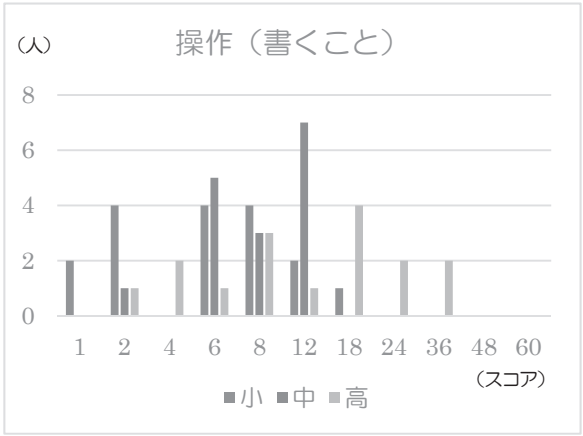


図５　操作

（3）研究の実際

①グループ研究会

・実態把握から評価基準の設定までの手続きについて

少人数のグループを設定し、各グループの対象児童生徒の実態把握から評価基準の設定までを行った。昨年度の研究で確認した目標設定までの手続き（学習指導要領に照らした実態、学習到達度チェックリストを用いて、現在のスコアの根拠となる行動の把握、目標とするスコア、目標のスコアの内容に対する今の実態）に加え、国語の内容のまとまりごとに「学びの履歴（図６）」及び「3 年後までに身に付けさせたい力（図７）」を確認するようにした。「学びの履歴」に関しては、条件的な内容（手立てや環境設定など）を丁寧に書き表す必要があることを確認した。「何を」「どこまで」「どのように」学んだ

か、そして、そこから「どのような姿」に向かって授業を組み立てていくのかを国語の内容のまとまりごとに明確にし、その内容を受け、目標や評価基準を設定していくことを共有することができた。

	スコア	学習内容	習得状況
話すこと （意思の伝達）			
聞くこと （指示の理解）			
読むこと （視覚刺激への注意）			
書くこと （社会参加）			

図６　学びの履歴

話すこと （意思の伝達）	例：自分なりの要求を、視線や身振り、発声、発語などの手段で身近な人に伝える。　（高等部卒業までに国語で身に付けさせたい力）
	高等部卒業までに国語で身に付けさせたい力に向け、３年後に身に付けてほしい力を考える。

図７　　３年後までに国語で身に付けさせたい力

②国語の学習内容について

８ 月に外部協力者の先生からの助言を受け、評価を設定する際、「何を根拠にしていくべきか」という課題が見えてきた。そこで、国語の内容のまとまりに応じ、各スコアのめざす姿を検討し、その姿を根拠として、目標や評価設定へとつなげていこうと考えた。方法として、スコアの「段階意義」の内容を共有し、内容のまとまり別に「高等部卒業までに国語で身に付けさせたい力」をスコアごとにより詳しく具体化にした（図８）。スコアごとのめざす姿は国語の学習内容表に合わせて記載した。

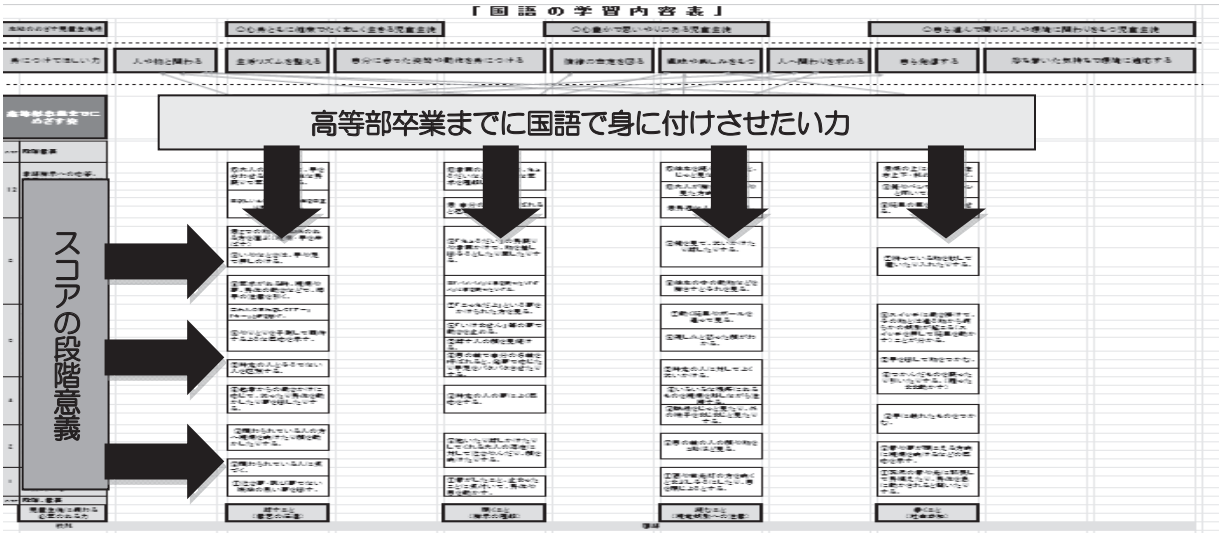


図８　スコアの段階意義を踏まえて、内容のまとまり別に身につけて欲しい力を具体化する

・国語の学習内容表について

昨年度作成した国語の学習内容表を基に、今年度検討した各スコアのめざす姿と学習内容を比較したり、必要となる学習内容を再考したりした。具体的には、昨年度学習内容表を作成するにあたり使用した資料（「学習到達度チェックリスト２０１４」徳永豊、「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」、「ＭＥＰＡ－Ⅱ」など）と段階意義の内容を再度確認しつつ、日頃の実践や経験を含め、学習内容の再考を行った。また、学校として「身に付けさせたい力」と教科指導として「高等部卒業までに国語で身に付けさせたい力」の相関についても再考した。今年度、作成した国語の学習内容表は巻末に添付する。

③研究授業及び授業研究会

・グループ研究の内容の実践的検証を目的として、７月と 11 月に以下のように研究授業及び授業研究会を実施した。７月は、実態把握から目標設定までの手続きについて、11 月は目標設定から評価基準設定までの手続き及び観点別評価の妥当性について主に検討した。

７月

事例	主な内容
対象生徒 Ａ（高２） 国語・数学	単元名「絵本の世界を体験しよう」 単元目標 ①物語に興味をもち、教師の話を集中して聞くことができる。（関心・意欲・態度） ②絵本の読み聞かせを通して、簡単な物語の脈絡を覚えることができる。（話すこと） ③物や他者に働きかけて、物語の一場面を再現することができる。（読むこと）

＜授業研究会の協議内容＞

【目標及び評価設定について】

・本時のみの目標及び評価で考えるとＣ評価のままで、次の目標及び評価へとつなげることが難しい。Ⅲ課程Ｃ類型の児童生徒の実態を考えると、10 回の授業をひとまとまりとして、同じ目標及び評価で取り組んでいくことを確認した。

・「関心・意欲・態度」の観点は、目標として設定することはない。内容のまとまりから１つ及び２つを１単元の目標として設定すること。

【課題】

・「関心・意欲・態度」の評価と他の評価観点とのすみ分けと整理に難しさを感じた。

１１月

事例	
対象生徒 Ｂ（中２） 国語・数学	単元名「おむすびころりん」 単元目標 ①教師の簡単な指示に応じて、スイッチや具体物を押したり、つかんだりすることができる。（書くこと）

＜授業研究会の協議内容＞

【「関心・意欲・態度」の評価について】

・日頃の児童生徒の様子（視線や動作など）を細かく把握しておくことが大事。

・１０時間を１つのまとまりとして捉えるため、１時間目と１０時間目の変化が本単元や次の単元の評価へとつながるのではないだろうか。

④目標及び評価の設定の流れについて

実態把握から評価基準設定までの手続きを全員で共有するために、図９の「目標及び評価の設定の流れ」を作成した。例えば、「実態把握」ですることは、「学習指導要領の各段階の内容の具体的な姿、学習到達度チェックリストのスコア、国語の内容のまとまりごとの学びの履歴」とし、併せて、その際に用いるものを記載している。２回目の研究授業では、この流れに沿った授業計画を立てた。また、12 月、１月には、グループ全員がこの流れに沿って「方法・手立て」までを、実際の授業を想定し組み立てることができた。何を根拠にして考えていくのか、どのような流れで考えていくのかを明確にすることができるとともに、誰もが同じ流れで授業を計画することができるようになった。しかし、グループ研究会において、評価の設定までは行うことができず、確認し合うことまでには至らなかった。

図９　目標及び評価の設定の流れ

（４）研究の成果と課題

①研究の成果

・国語の内容のまとまりごとの各スコアにおいて、めざす姿の設定や学習内容を充実させたことにより、国語において、根拠のある目標や評価設定、学習内容を示した授業へとつなげることができた。

・本校の皿課程C類型の児童生徒の国語における身に付けさせたい力や学習内容の系統性を示すことができた。

・国語の授業において、「目標及び評価の設定の流れ」を視覚化したことにより、何を用いて、どのように授業を組み立てていくのかを整理することができた。

②今後の課題

・「目標及び評価の設定の流れ」において、「評価規準の設定」及び「評価基準の設定」まで検討する必要がある。

・「目標及び評価の設定の流れ」を押えるチャートの検討を行い、日ごろの授業で使いやすくする必要がある。

・「国語の学習内容」と「算数・数学の学習内容」で重なる部分があるため、その違いをより明確にしていく必要がある。

・実態に差のあるグループで授業をする際（同単元異目標）、単元（題材）選定や目標及び評価設定をどのように考えていくのかを検討する必要がある。

B　国語：役割グループ

（1）研究の概要

①問題の所在

肢体不自由と知的障害を併せ有する児童生徒に対する国語の指導において、根拠のある目標及び評価設定に課題がある。そのため学習指導要領や学習到達度チェックリストを基に、より細かな発達段階に応じた系統性のある指導を行っていく必要がある。

②研究の目的

国語の指導において、12 年間で「いつ」「何を」「どのように学んだらよいか」を整理した上で、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各スコア（２４、３６、４８）のめざす姿に到達するまでの学習内容について具体的に検討し、一覧表にすることでより細かな発達段階に応じた系統性のある指導につなげる。

③年間計画

月	研究内容
5月 6月	○グループ研究についての共通理解 ・年間研究計画と昨年度の役割グループの成果と課題 ・２４、３６、４８の段階・意義についての確認 ・各学部の指導内容、目標、評価について
7月	○研究授業①（小学部）・授業研究会
8月 9月 １０月	○知的障害特別支援学校学習指導要領の１段階、２段階の学習内容整理
１１月	○研究授業②（高等部）・授業研究会
１２月 1月	○国語スコアの段階整理（24～48） ・各スコアの国語のめざす姿、学習内容について

（2）本グループに属する児童生徒について

①学習到達度チェックリスト

本グループに属する小学部から高等部までの児童生徒の国語における観点別の学習到達度チェックリストのスコア分布は図 10～13 のように、およそ１８～３６のスコアに集中している。

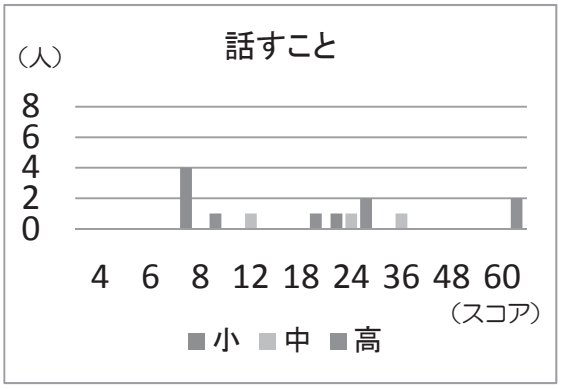


図１０

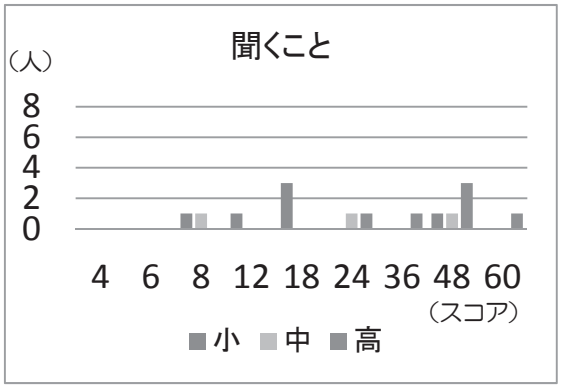


図１１

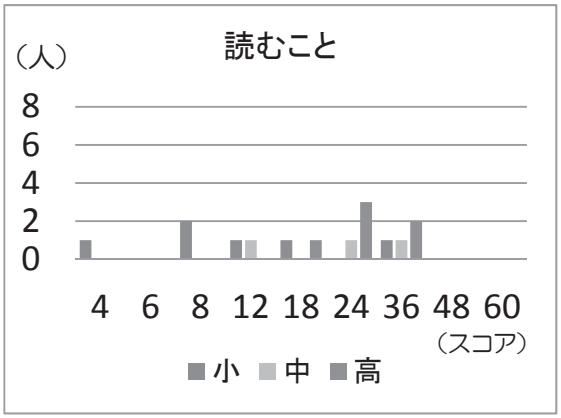


図１２

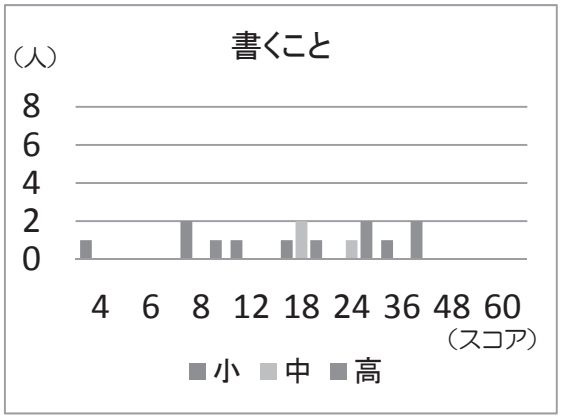


図１３

②学習指導要領に照らして、知的教科で到達している段階

主に、知的障害特別支援学校の学習指導要領の２段階の学習内容を行っている。

（３）研究の実際

①グループ研究会

グループに属する児童生徒がめざすスコア（目標）となる、スコア２４～４８の指導について検討を行った。まず、各学部における実態把握から目標の設定、学習内容、評価規準、評価基準の設定に至るまでの過程についてグループ内で共有した。各学部の指導内容や目標、評価について、グループ内の実践を報告しあったが、目標設定の際に根拠となるものが少なく、指導に不安があるという意見が多く出された。

そこで、各スコアにおける国語のめざす姿及び学習内容を整理し、それを活用することで系統性や根拠のある指導につなげたいと考えた。学習内容は学習内容表として整理することで、系統性についても検討することとした。

学習内容表の作成に向けては、学習到達度チェックリストの各スコアにおける段階・意義を踏まえながら、知的障害特別支援学校学習指導要領の１～３段階の内容を「聞くこと」「（スコア）読むこと」「書くこと」の観点別に整理する作業を行った。その際は、２０１１年に刊行されている『知的障害教育における学習評価の方法と実際』に掲載されている知的障害特別支援学校における各教科の具体的な内容の例を参考にした。整理した学習内容のまとまりに応じ、各スコアの国語におけるめざす姿も合わせて検討し学習内容表としてまとめることができた。

「各スコア、観点別におけるめざす姿及び学習内容表」（試案）

＜聞くこと＞

高等部卒業までに国語で身に付けてほしい力		耳からの情報を整理して行動に表すことができる。	
48	物の特性の理解と目的をもった遊びや行動、決まりへの気づき	耳からの情報を整理して行動に表すことができる。	・簡単な用件を電話で聞いたり話したりする。 ・指示を聞き取り行動する。 ・物語や教師、友達の話を聞いておよその内容がわかる。
36	身辺自立、質問の増加、自己主張・拒否の明確化、友人との関わりの増加（平行遊び）	話を最後まで聞いて一部分を理解し、何かの反応を示す。	・教師などの簡単な指示や説明を聞いて、できるだけその通りに行動する。 ・話し合いのときなど、相手の話を終わりまで静かに聞く。
24	食事、着替えの部分的身辺自立、語彙の増加、自己主張・拒否の芽生え、ごっこ遊び、他児への興味	日常生活で用いる２語文の指示に応じて行動することができる。	・絵本等を見て「○○はどこにある？」のような質問に指をさすなどして応える。 ・日常生活の中で繰り返し出てくるものやことがらの名前を知り、意識して聞く。
スコア	段階・意義	スコアごとのめざす姿	学習内容

＜話すこと＞

高等部卒業までに国語で身に付けてほしい力		できごとや気持ち、意思、希望などの大体の内容を人に伝える。	
48	物の特性の理解と目的をもった遊びや行動、決まりへの気づき	できごとや気持ち、意思、希望などの大体の内容を人に伝える。	・見聞きしたことや、経験のあらましや自分の気持ちなどを家の人や教師などに話す。 ・話し合いや学級会などで、聞き手のほうを向いてはっきり話す。 ・電話で、身近な人と話をする。
36	身辺自立、質問の増加、自己主張・拒否の明確化、友人との関わりの増加（平行遊び）	できごとを簡単な言葉で話したり、簡単な質問をしたりして会話のやりとりをしようとする。	・自分の経験したことや見聞きしたことを、教師などに簡単な言葉で話す。 ・相手に伝わりわかりやすいように話したり聞き返したりして買い物をする。 ・相手の話を注意して聞き、簡単な取り次ぎや伝言をする。 ・友達と一緒に簡単なせりふのある劇をする。
24	食事、着替えの部分的身辺自立、語彙の増加、自己主張・拒否の芽生え、ごっこ遊び、他児への興味	教師や友達などの名前を言って要求を伝えようとする。	・実際の活動の中での教師や友達とのやりとりを通して、挨拶、返事、要求などを話す。 ・「水ちょうだい」のような要望などを言葉で伝える。 ・身近なものや興味のあるものの名前を言う。 ・教師や友達の名前を呼ぼうとする。
スコア	段階・意義	スコアごとのめざす姿	学習内容

＜読むこと＞

高等部卒業までに国語で身に付けてほしい力		平仮名がいくつか読める。	
48	物の特性の理解と目的をもった遊びや行動、決まりへの気づき	平仮名がいくつか読める。	・やさしい単語が読め、そのものを適切に選ぶ。 ・自分の名前の文字がわかって読む。
36	身辺自立、質問の増加、自己主張・拒否の明確化、友人との関わりの増加（平行遊び）	平仮名に関心を持って、短い単語、絵、写真のマッチングができる。	・具体物や絵カード等と単語や文字カード等のマッチングをする。 ・自分の名前をだいたい区別する。 ・絵本などに出てくる平仮名に関心を持つ。
24	食事、着替えの部分的身辺自立、語彙の増加、自己主張・拒否の芽生え、ごっこ遊び、他児への興味	具体物や簡単な図形と見比べて「違う」「同じ」がわかる。	・図形や絵などのマッチングをする。 ・靴箱、ロッカーなどの自分の印を見分ける。 ・身近な生活の中で、しばしば目にする標識、看板、広告などに関心を持つ。
スコア	段階・意義	スコアごとのめざす姿	学習内容

＜書くこと＞

高等部卒業までに国語で身に付けてほしい力		２・３語文の文字を書こうとする。（「りんご」→○○○など正しい文字でなくても可）	
48	物の特性の理解と目的をもった遊びや行動、決まりへの気づき	２・３語文の文字を書こうとする。（「りんご」→○○○など正しい文字でなくても可）	・自分の名前を模写する。 ・２～３個の文字カードを組み合わせて言葉を作る。
36	身辺自立、質問の増加、自己主張・拒否の明確化、友人との関わりの増加（平行遊び）	絵や文字を使って自己表現を楽しもうとする。	・点と点を結んで、線や△□の形を書く。 ・自分の名前の文字をマッチングする。
24	食事、着替えの部分的身辺自立、語彙の増加、自己主張・拒否の芽生え、ごっこ遊び、他児への興味	絵に興味を持ち、それを用いて身近な大人とコミュニケーションを図ろうとする。	・自分のマークがわかり、選んで取る。 ・点線をなぞって形や直線パターンを書く。
スコア	段階・意義	スコアごとのめざす姿	学習内容

②研究授業及び授業研究会

今年度の研究授業を７月に小学部、１１月に高等部で実施し授業研究に臨んだ。小学部の研究授業では、皆で協議を重ね、実態把握から目標の設定、学習内容、評価規準、評価基準の設定に至るまでのプロセスに沿った授業作りを検討していった。

７月

事例	主な内容
小学部５年 Ⅲ課程Ｂ類型 国語・算数	単元名「でてこいでてこい」 単元目標 ①「どんな、何を、何に、どうする」という指示を理解して、応じた行動ができる。（聞くこと） ②「なに？」と問いかけることに慣れる。（話すこと） ③絵や具体物と、形容詞と名詞の短い単語を結びつけて表現することができる。（読むこと）

＜授業研究会の協議内容＞

【目標の妥当性及び評価設定について】

・聞くことの目標をスコア４８に設定したことは、高すぎたのではないか。

・話すことについて、目標が高すぎて評価が低く出たのではないか。

高等部の研究授業では、作成段階の学習内容表のめざす姿や学習内容をもとに授業を行い、その妥当性について検討した。授業研究会において、生徒の実態とスコアにおける学習内容が合っていないという意見が出された。そこで、さらに検討を重ね、知的障害者用国語科教科書「こくご☆」「こくご☆☆」「こくご☆☆☆」等を参考にしながら再び学習内容表の整理を行っていった。

１１月

事例	主な内容
高等部１年 Ⅲ課程Ｃ類型 国語	単元名「でんしゃにのって」 単元目標 ① 教師からの働きかけや呼びかけに応じる。（聞くこと）

（４）研究の成果と課題

①研究の成果

グループメンバーでの活発な意見交換により、発達段階に応じためざす姿と学習内容を複数の目で細かく、具体的に検討することができ、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」のそれぞれの観点別に学習内容表を作成することができた。

児童生徒にどのような力を付けたいか、またその力を付けさせるためにはどのような方法があるのかについて、より深く考えることができ、内容の充実につながったり、１年間の指導の見通しがもてるようになったりしたとの手応えも得られた。さらに、研究授業や授業研究会、研究成果発表会の場

でそれぞれの学部の実践や意件を共有しあったことで、他学部の実態やめざすところを知ることができたり、指導の系統性を考えることにつながったりしたという成果もあげられている。

②今後の課題

今年度作成した、各スコアのめざす姿や学習内容をもとに授業を組み立て、実践的に検証を行いながらより良いものへとしていきたい。また、今回作成した学習内容をもとに、スコア（２４、３６、４８）の評価規準、評価基準についても検討していきたい。

C　国語：習慣グループ

（1）研究の概要

①問題の所在

- 特別支援学校学習指導要領に示された教科の段階・内容では、想定する児童生徒の姿が幅広く、明確な評価規準がないため、段階的な指導の道筋が見えにくい。
- 平成２７年度の研究では、学習到達度チェックリストでの国語に関する実態把握を行った。しかし、スコア７２以上は小学校国語科の目標が２学年ずつ記載されており、内容の幅が広く細かい実態把握が難しかった。

②研究の目的

学習到達度チェックリストの７２・８４・９６・１０８といった各スコアに該当する児童生徒の国語において、「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」を参考に評価規準の設定例を作成し、それらを事例集としてまとめることで、どの程度の力が身に付いているのかを把握したり、次に学習する内容を段階的に設定したりすることができるようにする。

③年間計画

月	研究内容
5月	○研究の概要と研究計画の共有
6月	○グループ研究の見通し ・観点別評価規準について協議
7月	○研究授業・授業研究① ・評価規準、評価基準の設定 ・手立て（評価基準）の検討
8月	○グループの「国語」の評価規準の検討 ・国語の評価規準の設定例の作成・検討 ・指導内容の系統性や妥当性も見ながらグループごとに評価規準を検討
9月	
１０月	○研究授業・授業研究② ・評価規準、評価基準の設定 ・手立て（評価基準）の検討
１１月	○研究授業・授業研究②の振り返り ・評価規準設定までのプロセスの確認
１２月	○本年度の取組の確認と検討事項の協議
１月	○グループ研究の報告書の確認

（２）Ⅲ課程Ａ類型児童生徒の実態

本グループの対象児童生徒の学習到達度チェックリストのスコアの分布を見ると、一部のスコアが高い生徒がいるが、スコアはおおむね６０～８４に集中している。（図１４～図１７）

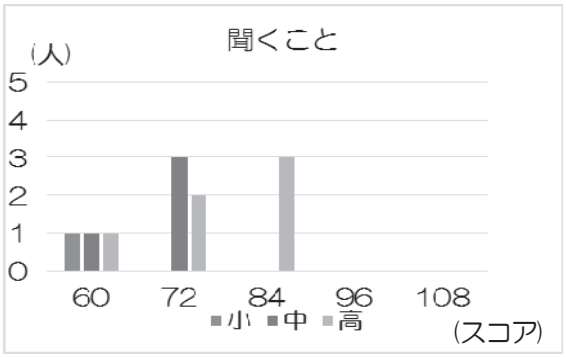


図１４

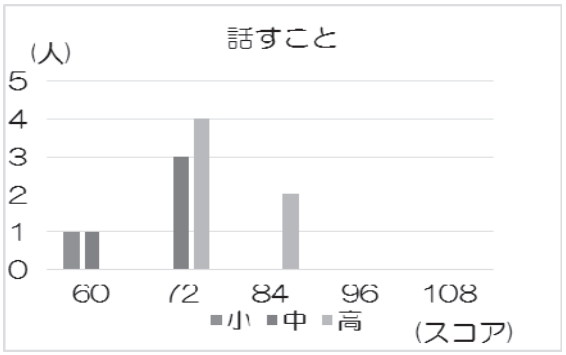


図１５

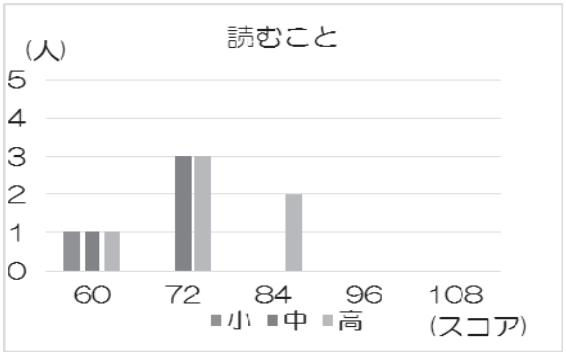


図１６

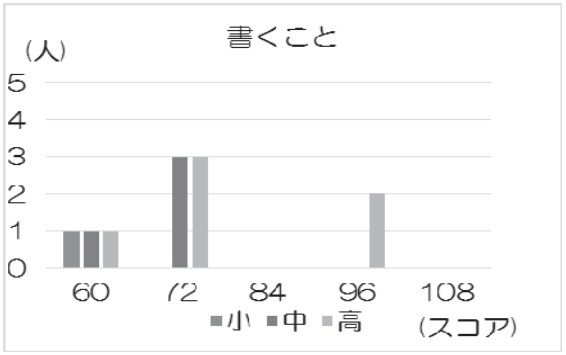


図１７

本グループの対象児童生徒の学習到達度チェックリストのスコアの分布を見ると、一部スコアが高い児童生徒がいるが、スコアはおおむね６０～８４に集中している。

（３）研究の実際

平成２７年度は、「知的障害特別支援学校学習指導要領を基本としながらも、各学部で使用されている教科書や指導書、小学校学習指導要領の国語科を参考にして、児童生徒一人一人に応じた評価規準を設定することができるようになる」ことを目的として研究を行ってきた。以下の図は、平成２７年度のグループ研究において確認した「評価規準の導き出し方のプロセス」である。

プロセス	手続き	活用する資料
実態把握	特別支援学校学習指導要領、学習到達度チェックリストでの事態把握に加えて、「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」（以下「盛り込むべき事項」）を用いて観点別に実態　把握を行う。	・特別支援学校学習指導要領解説 ・学習到達度チェックリスト ・「盛り込むべき事項」を用いたチェック
目標設定	実態把握を基に、特別支援学校学習指導要領解説や学習到達度チェックリストの内容に照らし合わせて目標を設定する。	・特別支援学校学習指導要領解説 ・学習到達度チェックリスト
題材選定	目標を達成するために適した題材を選定する。	・教科書

評価規準の設定	特別支援学校学習指導要領解説の具体的な例や教科書解説（指導書）のねらいを踏まえ、「盛り込むべき　事項」を参考にして題材の評価規準を設定する。	・特別支援学校学習指導要領解説 ・教科書解説（指導書） ・「盛り込むべき事項」
評価基準の設定	評価規準を基に個別に評価基準を設定する。	

①評価規準と評価基準の設定

平成２８年度は、観点別の評価を意識した評価規準の設定を行うことを中心に研究に取り組んだ。「評価規準の導き出し方のプロセス」に則って、平成２８年度の第１回目の研究授業において評価規準と評価基準を設定し、協議・検討を行った。

以下のことが、共有した内容である。

・平成２７年度は、本校での知的特別支援学校国語科の観点を「関心・意欲・態度」「聞く・話す」「読む」「書く」としていた。平成２８年度は小学校国語科の評価の観点に準じた表記に改めることで、より評価の視点を整理することができると考えたため、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」とした。
・平成２７年度では、「読むこと」を主に扱う題材で、評価の観点に「聞く・話す」の観点も含めていた。題材が何を中心にねらったものなのかを吟味し、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の観点のうち１つにしぼることを共通理解し、修正し、「読む能力」を設定した。

＜平成２７年度の２学期に行った研究授業の題材の目標及び評価規準＞
題材：「山の家へ行って」（国語☆☆☆☆）

題材の目標	○自ら進んで問題に取り組んだり、発表したり、集中して教師や友達の話を聞いたりしようとする。（関心・意欲・態度） ○教師の説明や友達の話を聞いて、およその内容が分かる。（聞く） ○自分が経験したことや文章を読んだ感想、自分の考えを、事柄を順序立てて話す。（話す） ○時間的な順序や事柄の順序、人物の気持ちなど文章のおよその内容をつかみながら読む。（読む）		
評価の観点	関心・意欲・態度	聞く・話す	読む
評価規準	・自分から積極的に発言をしようとする。 ・キーワードを自分から探そうとしている。 ・教師や友達の話を、視線を向けて聞こうとしている。	・大事なことを落とさずに、友達の感想を聞いている。（聞く） ・自分の経験したことや文章を読んでの感想、自分の考えを順序立てて話している。（話す）	・時間的な順序、事柄の順序による場面の移り変わりや人物の気持ちに注目して読もうとしている。

＜平成２８年度の１学期に行った研究授業の題材の目標及び評価規準＞
題材：「はじめのころの自動車」（国語☆☆☆☆）

題材の目標	○自動車の歴史について興味をもちながら読む。（関心・意欲・態度） ○自動車の歴史について書かれている文や文章の中から大事な言葉や文を探して読む。（読むこと） ○自動車の歴史ついて書かれている文章を、時間的な順序や事柄の順序を考えながら読む。（読むこと） ○主語、述語の関係に注意して読む。（言語についての知識・理解・技能）		
評価の観点	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
評価規準	・自動車について書かれている説明文について興味をもって読もうとしている。 ・自動車について、興味をもって調べようとしている。	・時間的な順序や事柄の順序を考えながら、文章のおよその内容を読んでいる。 ・文章中の大事な言葉を探し出して、文章に合う写真を選んだり、ワークシートにまとめたりしている。	・主語と述語の関係に注意して文や文章を読んでいる。

＜研究授業後に出された意見＞

- 平成２７年度の研究にまとめた「評価規準を導き出し方のプロセス」に則って評価規準を設定することよって、より根拠のある評価規準を設定することができると感じた。
- 「読むこと」の題材で、評価の観点を絞り、「国語への関心・意欲・態度」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」と設定したことで、ねらいを達成するためにより適切な学習活動や手だてを考えることができる。また、より評価がしやすいと感じた。
- 評価基準は、評価をする際の具体的な姿がわかりやすく、かつ、評価する視点と合った学習活動が設定されていないと適切な評価ができない。

②評価規準の設定例の作成

評価規準の設定例を、各部で「聞くこと・話すこと」「読むこと」「書くこと」の観点別に「評価規準の導き出し方のプロセス」に則って作成した。

例＜読むこと＞　　中学部　　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標：中学部段階（４段階）
２　単元名　「ねぼうしたねこ」
３　単元の目標
　①昔話を読み、話の移り変わり、あらすじを理解し、楽しんで読む。（関心・意欲・態度）
　②挿し絵を参考にして、情景や登場者の気持ちを考える。（読むこと）
　③句読点、かぎかっこ等文章の決まりに気をつけて読む。（言語についての知識・理解・技能）
４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・十二支に興味をもち、場面の様子を押さえながら、想像を広げて読もうとしている。	・場面の変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景等について、事柄や時間的な順序を考えて読んでいる。	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を読んでいる。

上記の評価規準の設定例は、「読むこと」に観点をしぼって扱った題材の一部抜粋である。この評価規準の設定例については、「評価の観点毎に目標を立てていくものではなく、目標に準拠して評価の観点が示されるべきである。」との助言を受け、作成した評価規準の設定例集の修正を行った。

（Ｐ112～　資料８評価規準の設定例）

（修正後）　　中学部　　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

1　目標：中学部段階（４段階）
2　単元名　「ねぼうしたねこ」
3　単元の目標
・「ねぼうしたねこ」を読み、あらすじを理解したり、情景や登場人物の気持ちを理解したりすることができる。
4　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・十二支に興味をもち、場面の様子を押さえながら、想像を広げて読もうとしている。	・場面の変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景等について、事柄や時間的な順序を考えて読んでいる。	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を読んでいる。

③適切な評価に向けた検討

平成２８年度の２回目の研究授業では、授業を参観する教師一人一人が対象児童の評価を行った。その際、指導案の目標、評価規準、評価基準を踏まえて、なぜそのように評価したかの理由についても記入することとした。

観点別に評価を集計した結果、本来は同じ評価がなされるべきであるが、評価が分かれた（図 18～20）。評価が分かれた理由として、「評価基準の表記の解釈の違い」と「知的障害のある児童生徒にとっての読む力の捉え方の違い」の２点が考えられた。この点について、グループで協議を行った。

＜研究授業についての評価＞（一部抜粋）

①授業を見て、本時の目標に対する対象児童の評価をつけて下さい。

評価の観点	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・技能・理解
評価規準	・物語に描かれている世界に浸りながら、登場人物の行動や場面展開について想像を広げながら読もうとしている。	・読み聞かせやストーリーテリングを聞いて、登場人物の行動が変化していくことを大まかに把握した上で、根拠となる言葉を読んで登場人物の気持ちを想像している。	・文の中における主語と述語との関係に注意して文章を読んでいる。
評価基準	Ａ自分から好きな部分を読んで、その様子を想像しようとしている。 Ｂ指示された部分を読んで、その様子を想像しようとしている。 Ｃ読み聞かせから、その様子を想像しようとしている。	Ａ３～４行抜粋された文章を読んで、心情を表す言葉を自分で見つけ、登場人物の気持ちを想像している。 Ｂ３～４行抜粋された文章から心情を表す言葉を指示されて読み、登場人物の気持ちを想像している。 Ｃ 心情を表す言葉の説明を聞いて、登場人物の気持ちを想像している。	Ａ 自分で３～４行抜粋された文章を読んで、主語や述語などを読み取ることができる。 Ｂ 教師と一緒に３～４行抜粋された文章を読んで、主語や述語などを読み取ることができる。 Ｃ 文章を読んでもらい、誰が、どうしたという質問に答える。

（評価の集計結果）

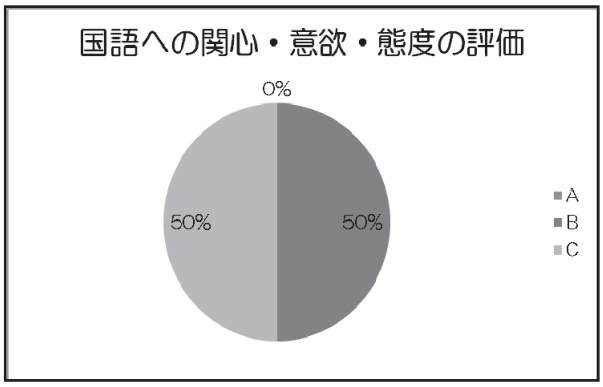


図 18　国語への関心・意欲・態度

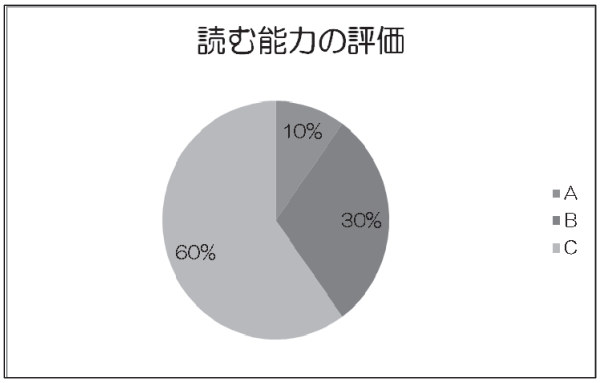


図 19　読む能力

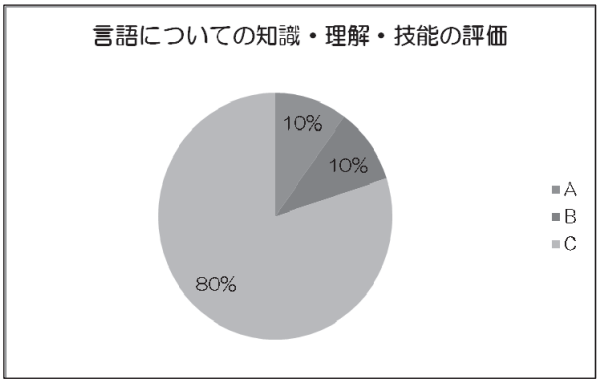


図 20　言語についての知識・理解・技能

協議した内容と共有した内容を以下に示す。

＜評価基準の表記の解釈の違い＞ ・評価基準に書かれている言葉から思い浮かべる「児童の具体的な姿」や「教師の手立て」のイメージが異なっていたのではないか。 ・評価基準の文言のどの部分に注目し、重点を置いて評価したのかがそれぞれ異なっていたのではないか。
＜共有したこと＞ ・評価基準を設定した際に、どういった姿が見られれば達成と見なすのかを想定して設定したものなのかを明記し、共通理解をすることが必要である。 ・評価規準を設定し、評価基準に落とし込んでいく作業の中で、表現の曖昧さや、言葉の認識の違いなどを極力排除することができるように、具体的かつ分かりやすい評価基準の設定とともに、それらの共通理解を図っていくことが必要である。

＜知的障害のある児童生徒にとっての「読む力」の捉え方の違い＞

・「読み聞かせ」を手立てとして文章や文の内容を理解する場合に、文字を読んで理解することができていないと「聞く」要素が強く「読む能力」として評価できないと考えた教師と、「聞く」ことを手だてとして「読むこと」のねらいを扱った題材であるので文字の理解がまだ不十分であっても「読む能力」として評価してよいと考えた教師によって評価が分かれたのではないか。

＜共有したこと＞

・児童生徒の実態が文字を読むことが難しい場合、「読み聞かせ」を行い、「聞くこと」を手立てとして用いたとしても、題材が「読むこと」の目標（ねらい）を扱ったものであることを考え、「読む能力」として評価していく。
・視覚的な情報（絵や写真、動画など）や聴覚的な情報（教師の読み聞かせなど）の手立てがある状況での児童生徒の「読む力」の評価と、何も手立てを行わない状況での児童生徒の「読む力」の評価、この２つの評価の視点で児童生徒の力を捉えていく。

（４）研究の成果と課題

①研究の成果

知的特別支援学校国語科の評価規準を設定する際に、「評価規準の導き出し方のプロセス」に沿って小学校国語科の参考資料である「盛り込むべき事項」を活用することで、小学部 3 段階から高等部 2 段階までの系統性・段階性のある指導ができるようになった。また、小学校国語の観点に準じて評価の観点を設定することにより、評価の視点を整理することができたため、より題材（単元）の目標にせまる授業づくりを行うことができた。

共通した資料と手順で実態把握から評価規準を設定することにより、知的特別支援学校国語科の実態把握から評価規準までを根拠を示しながら行うことができた。学習到達度チェックリストの国語に関するスコア７２から１０８の実態にある児童生徒については、学習到達度チェックリストに加えて、「盛り込むべき事項」を用いたチェックを活用することで、より細かい実態把握をすることができた。そのため、児童生徒が身に付けていることや課題となっていることが整理しやすくなり、指導の道筋が見えやすくなった。

②今後の課題

実態把握をする際、スコア６０の児童生徒には、「盛り込むべき事項」を用いたチェックを使用することができないため、より細かい実態把握について共通した視点で行うことが難しい。そのため、スコア６０からスコア７２の間の実態である児童生徒については、目標設定の難しさが併せて課題となる。

また、「盛り込むべき事項」を参考に評価規準を設定し、授業を行っていく際に、小学校学習指導要領国語科に示された内容を理解しておかなければ、「盛り込むべき事項」の適切な活用につながらないことが課題である。小学校１・２年生の指導事項を押さえた上で、児童生徒の具体的な姿を明確にしながら評価基準を設定していくことが必要である。

D　算数・数学：注意・やりとりグループ

（1）研究の概要

①問題の所在

今年度より全ての学部で、Ⅲ課程 C 類型に算数・数学が明確に位置付けられた。これまでは、障害が重度・重複化している児童生徒の指導において、自立活動の中で算数・数学的な内容を取り扱うことが多かったが、単に自立活動の時間に取り扱ってきた内容を教科として指導するという変更ではなく、教科「算数・数学」として、どのように指導を組み立てていくかを検討する必要がある。

②研究の目的と方法

＜グループ研究会＞

・算数・数学の目標設定の手続きを共有する。

・障害の重い児童生徒の算数・数学の学習内容を整理し、算数において付けたい力を検討することで指導を系統的に組み立てることができるようにする。

＜研究授業、授業研究会＞

・設定した目標と評価について検証する。

・具体的な指導方法について協議する。

③研究計画

月	研究内容
5月	○研究概要と研究計画の共有 ・対象とする児童生徒の実態を把握する
6月	○算数・数学で付けたい力の検討 ○研究授業について ・算数・数学の目標と評価規準、評価基準の設定を検討する
7月	○研究授業・授業研究会（小学部） ○１学期の指導の振り返り ・算数・数学の学習内容について
8月	○学習内容表の作成①
9月	○学習内容表の作成②
１０月	○学習内容表の作成③ ○研究授業について ・算数・数学の目標と評価規準、評価基準の設定を検討する
１１月	○研究授業/授業研究会（高等部） ・学習内容表（試案）の活用
１２月	○目標及び評価設定の手続きに沿った事例の検討 ・手続きに沿って目標及び評価を設定する
1月	○グループ研究のまとめ ・学習内容表の完成

（2）本グループに所属する児童生徒の実態について

本校の Ⅲ 課程 C 類型に所属する小学部から高等部までの全児童生徒の算数、数学の実態を、特別支援学校の学習指導要領に照らし合わせると、ほとんどの児童生徒が小学部１段階の内容に該当することが分かった。また、学習到達度チェックリスト２０１４（徳永）を用いて、算数・数学に関わるスコア（月齢）を把握したところ、全校の平均値は、数と計算が１０．０、量と測定が１０．２、図形が１０．２であった。学部別にスコアの分布を見ると（図 21～23）、高等部に所属する生徒でスコアが２４を超えるものもいたが、およそスコア6～１２に集中していることが分かった。

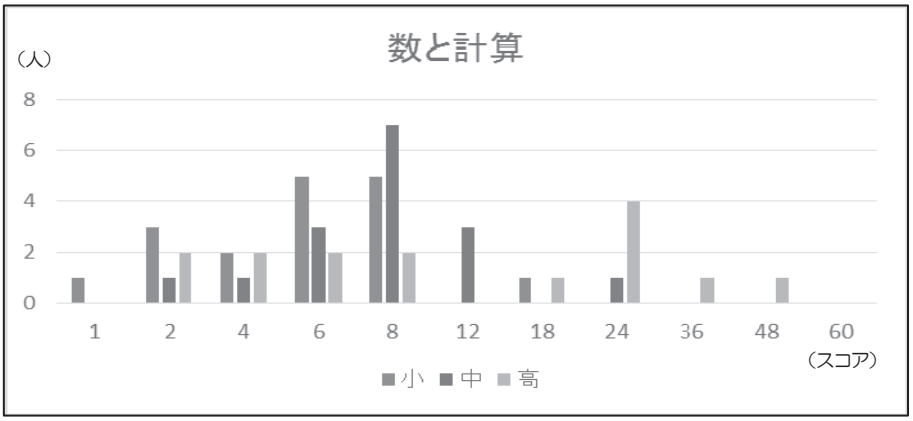


図 21

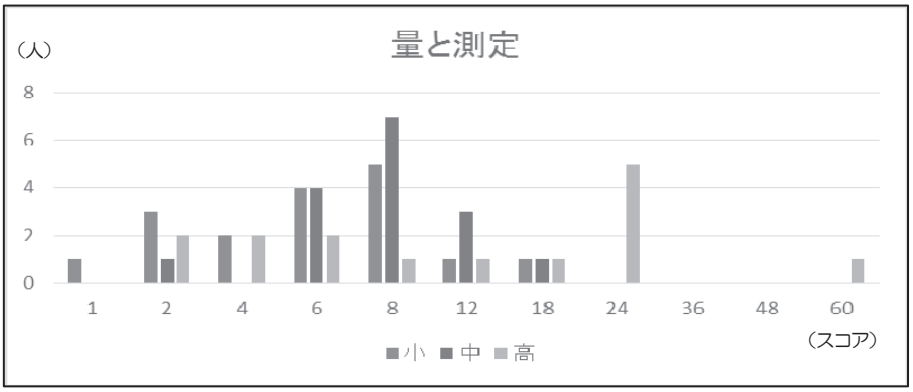


図 22

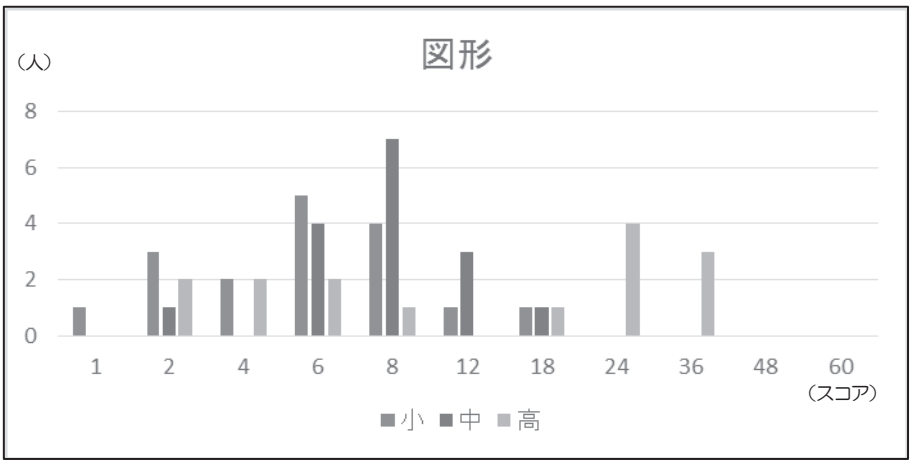


図 23

（３）研究の実際

①目標設定までの手続きの共有について

・教科の目標設定の手続きに沿って、特別支援学校の学習指導要領に照らし合わせる作業に合わせて、学習到達度チェックリストを用い、算数の観点「数と計算」「量と測定」「図形」ごとに年度当初の実態を把握した上で、目標となるスコアを設定した。学習到達度チェックリストは通常の小学校の算数への系統性を柱にしているため、知的障害特別支援学校の算数・数学の内容のまとまりとは以下の表１のように対応させることとした。

表１　知的障害特別支援学校の算数・数学と通常の算数・数学の内容のまとまりの違い

<table>
<tr><td>学習指導要領
（知的）</td><td>数量の基礎
数と計算</td><td>量と測定</td><td colspan="2">図形・数量関係</td><td>実務</td></tr>
<tr><td>学習指導要領
（通常）</td><td>数と計算</td><td>量と測定</td><td>図形</td><td>数量関係</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">学習到達度
チェックリスト</td><td>数と計算</td><td>量と測定</td><td colspan="2">図形</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="4">外界の知覚認知（スコア６まで）</td></tr>
</table>

②算数・数学で付けたい力

学習指導要領と文部科学省著作教科書の解説を読み込み、特に発達が初期の段階にある児童生徒の算数・数学ではどのような力を付けていくべきなのかを検討した。さらに細分化された発達水準によって算数・数学をとらえるために学習到達度チェックリストを参考にした。学習到達度チェックリスト２０１４（徳永）では、算数・数学の発達の初期のスコア６以下は、「外界を受け止め・知覚・認知する水準」とされ、観点が区別されずに、「外界の知覚認知」という観点１つだけが設定されている。そこで、「学習到達度チェックリストの算数の観点別に見た段階意義と行動項目の対応図」２０１５（田中）を用い、発達が初期の児童生徒の学びはどのような系統で発展し、観点別に分化していくのかを共有した。

③算数・数学の系統性と学習内容

学習到達度チェックリストの「外界の知覚認知」のセルと、国語「見ること」のセルの文言は近い表現が多い。よって初期の算数、数学の学習活動は初期の国語と同じような活動になると思われる。しかし、目標は教科ごとに立てることになるため、算数の系統性をおさえつつ、どのような目標を立てていくべきかを検討しなければならない。そこで、個別の実態から系統的に算数・数学の学習内容を追うことができるよう、昨年度の校内研究で作成した国語の学習内容表（スコア１２まで）を参考に算数・数学においても学習内容表を作成することとした。学習内容表は、学習指導要領や文部科学省著作教科書の学習内容を参考としただけでなく、各種諸検査（遠城寺乳幼児分析的発達検査、田中ビネー発達検査など）や本校で活用している「身に付けさせたい力」マトリクスから算数、数学で付けるべき力を抽出してカード化し、具体的な学習内容として整理した上で、スコア順に配列して作成した。（資料７　P111 算数・数学の学習内容表）

④研究授業

１学期に小学部、２学期に高等部で実施した。どちらの研究授業においても、対象となる児童生徒を一人抽出し、実態をグループ内で共有した上で目標と評価規準、評価基準を設定した。ビデオでの記録を活用しながらグループメンバーの参観者全員が評価基準を判断し、後に授業者の評価と照らし合わせることで評価項目の妥当性を検証した。（指導案　P105～）１学期の研究授業では、発達が特に初期の段階にある（スコア２）児童を対象とし、国語と算数の学習内容の重なりや系統を確認することができた。また、２学期の研究授業では、それまでに作成していた算数・数学の学習内容表（試案）を活用することで、より具体的な生徒の姿を意識した目標設定と評価および授業における学習内容の検討を行った。

（４）研究の成果と課題

①学習内容表

児童生徒が高等部を卒業するまでに算数・数学でどのような力を付けようとしているのかを系統立てて学習内容として整理することができた。スコア６までは「外界の知覚認知」の段階として整理し、それ以上のスコアにおいては、知的障害特別支援学校の算数・数学の観点である、「数量の基礎、数と計算」、「量と測定」、「図形、数量関係」の３つの観点で整理した。個別の実態から上のセルを見ることで、算数・数学の系統性をおさえながら、目標設定の参考にすることができるようになっている。また、作成した算数・数学の学習内容表は、平成２９年度の算数・数学の教育課程編成作業において、各部が参考にしているため、校内での系統立てた教育課程の編成にも活用することができた。

②算数・数学の目標設定と授業づくり

研究授業において、参観者と授業者が行った個別の評価には、大きな差はなかった。さらに、グループ内のすべての教師が学習内容表を活用して目標設定及び評価基準の設定を行い、目標設定から評価に至る流れ（図 24）をグループ内で共有することができた。また、授業研究会では、スコア６までの児童生徒の国語と算数・数学は重なりが多いが、各教科がめざすものは違うので、初めから同じものとしてまとめていくものではないことを確認し、算数・数学で付けたい力がどのような姿（力）につながっていくのかを意識して算数の目標を設定して指導していくことが重要であること、授業の形態として「国算」や「国数」などが設定されており、１つの単元において複数の教科を取り扱っている場合も、それぞれの教科で目標を立て内容とともに整理しておく必要があることなどが意見として出された。算数・数学の授業をつくっていく際のポイントとして、学習の柱となる内容のまとまりは、児童生徒個人に絞ると、国語と算数・数学を同じ時間に指導する場合でも、一単元に国語で一つ、算数・数学で一つの目標をもって単元設定していくことがよいのではないかとの意見が出された。また、個人の目標を授業に関わる教師が把握しておくことが基本。集団で学習していても個に応じて手立ての量や方法を変え、必要な指導内容、教材を準備して指導にあたることなど、単元の目標を絞るための工夫や集団の目標、個別の目標を達成するための工夫もあげられている。

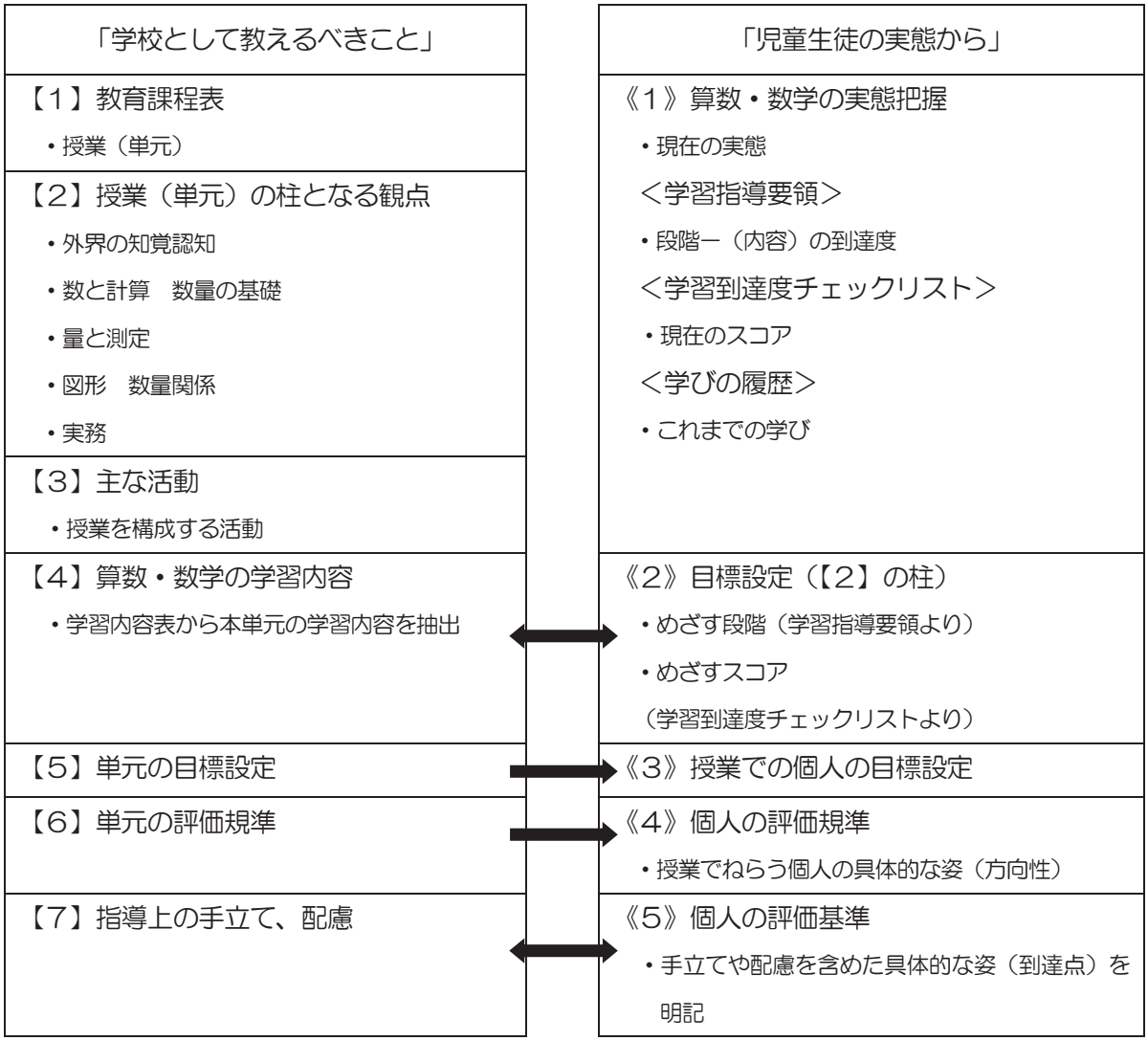


図 24　算数・数学の目標設定、学習評価の設定の手続き

③観点別評価を行うための視点

今年度は目標に準拠して評価を行うことを焦点に研究授業を行った。算数の発達が初期の児童生徒の場合、算数・数学の観点別では、どのように評価を行うかグループ内で協議した。発達が初期段階の算数・数学においては、学びの姿を観点別に明確に分けることが難しかったため、教科の評価の４観点のうち、「関心・意欲・態度」の観点以外の３観点はまとめ、内容のまとまりごとに評価の視点を検討した（表２）。これらの視点を生かし、学習活動としては国語の初期の段階との重なりがあっても算数・数学内容をもって、目標設定を行うことにつなげていきたいと考える。

表２　観点別評価を行うための視点

観点	評価の視点
○関心・意欲・態度	他の観点で見るポイントと似てくる。例えば、「見る」という視点は「図形」の観点にもあげられている。しかし、行動そのものの正確性よりも、授業に主体的に取り組もうとしている姿やその行動をしようとしているかを評価する。
○数量の基礎、数と計算	視覚的な数量というよりも順番や順序を聞いて理解しているかを評価する。聴覚的な反応からはじまり、スコア８以上では、「○○の次に何をする」といった順序の理解につなげていく。
○量と測定	触覚、固有感覚の反応（受け入れ）から始まり、視覚的に量をとらえて何らかの行動を起こすことへつなげていく。
○図形、数量関係	触覚的、固有感覚の反応（受け入れ）から始まり、視覚的に物をとらえることから、それを操作することへとつながる。さらに体験的に形を分別することにつなげていく。

④今後の課題

学習到達度チェックリストのスコア１２をめざす児童生徒の算数・数学について、目標設定や評価設定の手続きやその学習内容について検討することができたが、スコア１３以上の算数・数学については検討していない。Ⅲ課程Ｃ類型には、スコアが１３以上の児童生徒も在籍している。また、Ⅲ課程Ｂ類型の算数・数学の学びとのつながりについても検討することはできなかった。今後、学習内容表を活用して実際の授業づくりを行っていく中で、実践的に検証していきたい。

＜参考文献＞

田中　信利（２０１５）自立活動と教科をどのように関連づけるか－学習到達度チェックリストの「発達段階の意義」を用いた－試案－
北九州市立大学文学部紀要（人間関係学科）第 22 巻

E　訪問教育の研究

1　Ⅳ課程（施設内での訪問教育）

各教科等を合わせた指導（集団学習）	季節や行事などを関連させながら、大型遊具や感触遊びなどのダイナミックな活動、教師や友達と触れ合う活動、ゲーム的な活動等を行い、人との関わりの楽しさを深めたり、物や自然に対する興味・関心を広げることにより生活経験を豊かにしたりする。
自立活動（個別学習）	個別の障害の状態や発達段階などを考慮して、健康状態の維持・改善、姿勢と運動・動作、感覚・認知、コミュニケーションなど必要な内容を関連づけて課題を設定し、施設職員と連携しながら継続して指導する。
特別活動	学校行事・訪問行事・交流及び共同学習・スクーリング
道徳	教育活動全般にわたり指導を行う

集団学習については、平成 25 年度までは自立活動の中で指導を行ってきたが、平成２６年度より、集団学習を「各教科等を合わせた指導」として位置付け、各単元において、各教科及び自立活動の内容を取り扱った指導を行っている。週３回（６時間）の授業のうち、１回（２時間）で実施している。

2　訪問教育の研究

（１）問題の所在

〇昨年度は「各教科等を合わせた指導」の小単元「劇をしよう」において、「国語」の教科にしぼり、目標設定について、児童の学びの履歴や卒業までに身に付けさせたい力を踏まえているか、「学習到達度チェックリスト」の結果を根拠として段階的に積み上がっているかといった、目標の妥当性について明らかにした。今年度は本校の研究グループが作成した国語の学習内容表を用い、観点別の評価規準・基準の設定までの流れを理解し、授業改善・充実に向けて、指導方法や手立て、教材等を検討する必要がある。

〇昨年度より教育課程に「各教科等を合わせた指導」の「単元構成表」を掲載しているが、実際の授業への活用の仕方に課題がある。

（２）目的

〇事例研究を通して、国語の指導における目標設定から評価までの手順を共有し、授業改善、充実を図る。

〇将来のめざす姿の実現に向けた指導のために、単元構成表に各教科の内容が適切に取り入れられているか、各単元の内容が児童生徒の実態、生活年齢に合っているか、自立活動との関連が考慮されているか等、教育課程の見直しをする。

（３）年間研究計画

月	研究内容
５・６月	〇今年度訪問教育の研究についての共通理解 ・研究計画の共通理解、集団学習計画書書式検討、「個別の単元構成表作成」の手順確認
７～８月	〇「個別の単元構成表」作成
９～１１月	〇事例研究・授業実践 ・実態把握・目標設定・指導内容の検討・評価規準、基準の設定
１２月	〇教育課程の見直し　〇まとめ　報告書作成

（4）研究の実際

①「各教科等を合わせた指導 単元構成表」の活用

集団学習では、各単元の授業担当者が、教育課程の「各教科等を合わせた指導 単元構成表」（表3）やこれまでの集団学習計画書を参考に、計画書を作成している。この単元構成表は大単元ごとに各教科の主な内容を記載しているため、小単元においては、どの教科を取り扱うか分かりづらいという面があった。また、児童生徒一人一人の実態に応じて取り扱う教科の内容を十分に検討・精選するまでには至っていなかった。

＜表3　平成28年度　各教科等を合わせた指導　単元構成表＞

平成２８年度　訪問教育（療育センター　小学部）各教科等を合わせた指導　　単元構成表

月（週）	各教科等 / 単元名	各教科						自立活動
		生活	国語	算数	図画工作	音楽	体育	
4（2）	○先生や友達と仲良くなろう ・歓迎会 ・訪問旗作り ・オリエンテーリング ・大型遊具遊び ・苗植え	・教師と一緒にあいさつの号令かけや黒板ふきなどの係活動をする。 ・簡単なルールのある遊びをする。 ・ぶらんこ、すべり台、砂場等で遊ぶ。 ・教師と一緒に公園、野山、川、海等で遊ぶ。 ・あり、ちょう、かたつむりなどを探したり見たりして遊ぶ。 ・草花に関心をもつ。 ・草花の球根等を植えて育てる。	・自分の名前を呼ばれたら、振り向いたり返事をしたりする。	・形や色が同じものを選ぶ。 ・身近にある物の多少、大小等を比べ多い少ない、大きい小さいなどに気付き、差が大きい場合に多い方、大きい方を取る。	・クレヨン、水彩絵の具、カラーペン等を使って好きな色で思いのまま描いて遊ぶ。 ・身近にある物の形を版にして遊ぶ。	・教師の歌や演奏と一緒に大きな声を出したり、まねて歌ったりする。 ・歌遊びの中で遊びを交代したり、順番を待ったりする。	・トランポリンの上で揺れを楽しむ。 ・マットの上でごろごろ転がる。	○心理的な安定 <情緒のめばえ> <安定した気持ちでいるには> <状況の理解> ○人間関係の形成 <人への関心> <気持ちの共有> <身近な人への要求>
5（3）								

②「各教科等を合わせた指導 個別の単元構成表」の作成

①の理由により、各教科における実態や目標を記載した児童生徒一人一人の「教科の個別の指導計画」を活用し、まず、実態に応じて「各教科の取り組むべき主な内容」を「知的障害特別支援学校における各教科の具体的な内容の例（全国特別支援学校知的障害教育校長会編著）」と「学習到達度チェックリスト（国語については本校で作成した国語の学習内容表）」から選定した。次に「各教科で取り組むべき主な内容」をそれぞれどの小単元で取り組ませたいかを一覧にし、「各教科等を合わせた指導 個別の単元構成表」を作成した（表4）。表4を用いて2学期以降の集団学習計画書（表5）に反映させるとともに自立活動との関連についても検討しながら以下で述べる事例研究に取り組んだ。

＜表4　各教科等を合わせた指導　個別の単元構成表＞

教科の個別の指導計画（Ⅳ 課程）　　[高等]部[2]年　氏名[A]

	実態	目標	手だて・配慮	扱う授業	評価	各教科で取り組むべき主な内容	先生や友達となかよくなろう					夏を感じよう		秋を感じよう				
	※年度当初に記入				※学期ごとに記入		歓迎会	訪問旗作り	オリエンテーリング	苗植え	大型遊具を使った運動	水泳	作品作り	苗植え	器楽	大型遊具を使った運動	劇をしよう	
	①学習指導要領に照らし、おおむね何段階相当か ②学習到達度チェックリストのスコア ③学習をする上での困難	①おおむね何段階の内容をもとに目標設定するか ②①と学習到達度チェックリストの段階・意義をふまえた目標とするスコア	①目標を達成するために必要な手だて ②自立活動の指導との関連で必要な配慮	どの授業で扱うのかを明記	①学習指導要領に照らした目標（○段階相当）を達成できたか ②学習到達度チェックリストのスコア ③①②を判断した根拠となる授業での具体的な実態 ※③を通知表に、①②を教育課程検討の資料に。	①知的障害特別支援学校における各教科の具体的な内容の例 ②学習到達度チェックリスト												
社会	①小学部1段階 ②生活4 ③手を使った活動が難しい	①小学部1段階 ②生活6	①教師と一緒に何らかの役割を担わせる ②教師や手元に注目させるような教材の提示や言葉掛けをする	集団学習	①小学部1段階 ②生活4 ③小さな声だったが教師の声に後に発声し歓迎会で司会ができた。 ①小学部1段階 ②生活4 ③満館で友達が演じている姿をじっと参観ことができる。 ① ② ③	①1-3友達と一緒にいろいろな遊びをする ②2-4遊び・簡単なルールのある遊びをする。 ③1-2金銭・教師と一緒に、お店の人にお金を渡したり、お金を財布に入れたりする。 ④1-3金銭・教師と一緒に品物を選んでレジに持っていき、店の人にお金を渡し品物を袋に入れる。 ⑤6親しみと怒った顔がわかる。											① ② ⑤
理科	①小学部1段階 ③手を使った活動が難しい	①小学部1段階	①自然にふれあう機会を持つ。 ②座位保持いすで外に出かける。	集団学習	① ② ③ ①小学部1段階 ③土の重さや冷たさなどを感じ、人差し指や中指を盛んに動かしていた。 ① ③	①1-1自然・教師と一緒に公園、野山、川、海等で遊ぶ。 ②1-3自然・あり、ちょう、かたつむりなどを探したり見たりして遊ぶ。 ③1-4自然・草花に関心をもつ。 ④2-4自然・草花の球根等を植えて育てる。 ⑤2-7自然・冬は寒く、夏は暑いなどの季節の特徴に関心をもつ。			①②③④⑤	①②③④⑤			①②③④⑤				
職業・家庭	①小学部1段階 ③手を使った活動が難しい	①小学部1段階	①行事や集団活動で発表や挨拶をたんとうする。 ②長下肢装具をつけて立位台に立ち、センター内のいろいろな物を見る	集団学習	① ② ③ ①小学部1段階 ③他の声の後に声を出して司会をすることができる。 ① ③	①1-2役割・教師と一緒にあいさつの号令かけや黒板ふきなどの係活動をする。	①	①	①	①	①						①	
国語	①小学部1段階 ②受け止め8 表現6 見ること6 操作4 ③頭部のコントロールが難しい	①小学部1段階 ②受け止め12 表現8 見ること8 操作6	①正面から名前を呼び、教師の口の形が見えるようにする ②呼名のとき、教材を見せるときは、頭部が安定した姿勢で行う	集団学習	①小学部1段階 ②受け止め8　表現6　見ること6　操作4 ③呼名では、口は開かないことが多い。小さな声はすぐに出すことができた。 ①小学部1段階 ②受け止め12　表現6　見ること6　操作4 ③「○○くんを探して」と言われて、探すことができる。 ① ②	①1-10・自分の名前を呼ばれたら、振り向いたり返事をしたりする。 ②1-13・要求があると、身振りや声を出して注意をひく。 ③1-16・絵本等に出てくる身近な動物や事物などを興味をもって見る。 ④2-5・絵本や簡単な紙芝居やVTRなどを見たり聞いたりして、その内容を楽しむ。 ⑤**表現・要求**：やりとりを予測して期待するような反応を示す ⑥**受け止め・対応**：「ちょうだい」の身振りや言葉かけで物を差し出そうとしたり渡したりする ⑦**見ること**：絵本の中の動物などを指すとそれを見	① ②	① ②	①②	① ② ⑤ ⑥	① ②	① ②		① ②	① ② ⑧	① ②	①② ③④ ⑤⑥ ⑦

＜表５　集団学習計画書＞

大単元「秋を感じよう」　小単元「劇をしよう」

目標：劇の練習で、教師と一緒に役を演じたり、得意なことを披露したりする。

集団学習計画表　11/9，18，25，30

<table>
<tr><th>学習活動</th><th colspan="4">学習内容</th><th>留意点</th></tr>
<tr><td rowspan="2">○登校準備、申し送り、健康観察、外気浴、水やり
（9:30～10:00）
1　はじめの会をする。
（10:00～10:10）
2　なかよしタイム
（10:10～10:20）

3　劇をしよう
（10:20～11:10）

① ペープサートを見て、登場人物や、自分の役割を知る。

② 録音CDに合わせて、動きやセリフの練習をする。

（9日）
1，2場面　学習室
※○くん遠隔通信

（18日）
3場面　学習室
衣装を着ける。

（25，30日）
多目的室
衣装を着けて通す。</td><td colspan="2">国　語
・教師や友達と一緒に、紙芝居やテレビなど視聴教材を見て楽しむ。(1-3)
・好きな絵本など視覚教材を読んでもらって楽しむ。(1-5)
・自分の名前を呼ばれたら、振り向いたり返事をしたりする。(1-10)
・教師等の話しかけに応じ音声や簡単な言葉で表現する。(1-11)
・簡単なごっこ遊びをしながら、やりとりを楽しむ。(1-12)
・要求があると、身振りや声を出して注意を引く。(1-13)
・絵本等に出てくる身近な動物や事物などを興味をもって見る。(1-16)
・話の筋のある簡単な絵本を見たり読んでもらったりすることを喜ぶ。(1-18)
絵本や簡単な紙芝居、ビデオなどを見たり聞いたりしてその内容を楽しむ。(2-5)
・音がしたこと、止まったことに気づいて、身体や目を動かす（聞くこと・スコア１）
・聞いて５個くらいの言葉がわかる。（聞くこと・スコア18）
・「ちょうだい」の身振りや言葉かけで物を差し出そうとしたり渡したりする（受け止め・対応・スコア８）
・大人のまねをしてアーウーと声を出す。(表現・要求スコア６)
・やり取りを予測して期待するような反応を示す。(表現・要求・スコア６)
・目の前の人の顔や物を３秒ほど見る。(見ること・スコア２)
・絵本の中の動物などを指さすとそれを見る。(見ること・スコア８)
・手に触れたものをつかむ。(操作スコア４)</td><td>生　活又は社会
・教師や友達と一緒に好きなことをして遊ぶ。(3-1-1)
・テレビや絵本など教師と一緒に楽しむ。(3-1-3)
・誕生会や学級会などで簡単な役割をする。(5-2-1)
・簡単なルールのある遊びをする。
・親しみと怒った顔が分かる。

音　楽
・音楽が流れている中で、休息したり、手足を動かしたり、遊んだりする。(1-6)
・教師の手をかりて歌にあわせて手足や身体の部分を打ち鳴らしたり、動かしたりする。(1-8)
・歌遊びの中で遊びを交代したり、順番を待ったりする。(1-11)
・テープレコーダーなどで、知っている歌や好きな曲を楽しんで聴く。(2-1)</td><td>体　育
・トランポリンの上で揺れを楽しむ。(1-C-1)
・音楽が流れている場所でからだを動かしたり、はねたり、跳んだりする。(1-F-1)</td><td rowspan="2">・スムーズに活動できるように、各担任で体調などを十分把握しておく。
・それぞれの児童生徒が活動しやすい姿勢で行う。

【準備物】
・ペープサート
・録音CD
（セリフ、効果音）
・大道具
鏡の枠
森の背景画
馬
小屋の戸口
・小道具（各自）
かご、りんご

（4日のみ）
・パソコン
・サーフェイス
・遠隔通信用
カメラ、マイク

（11，25，30日）
・衣装（各自）
※ふくろう投影
・パソコン
・プロジェクター
・スクリーン</td></tr>
<tr><td colspan="4">個　人　目　標</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>国　語</td><td colspan="2">生活・社会、音楽</td><td>体育、自立活動</td></tr>
<tr><td></td><td>A・事例対象</td><td>・自分の一部のせりふの場面で、教師の働きかけに応じて、相手役に向かって、長く大きな声を出すことができる。
・簡単な台詞を聞き、台詞に応じた反応を示すことができる
・一部分のペープサートの動きを自分から目で追ったり、演技中の友達を見たりできる。</td><td colspan="2"></td><td>自立・猟師役で、銃に取り付けた紐をつかんで持ち上げることができる。</td></tr>
<tr><td></td><td>B</td><td>・劇の一部分の簡単な内容を覚え、台詞に合う動作をすることができる。
・教師の台詞に続いて声を一部出すこ</td><td>生活</td><td>・台詞で声を出したり、動作をしたり、笑顔を見せたりしながら劇での</td><td>体育・腕を伸ばしたり手で掴んだりして小道具を動かす。</td></tr>
</table>

③授業改善（事例研究）　※P48～　事例報告

○11 月実施の単元「劇をしよう」の国語にしぼり、本校の研究グループ「注意・やりとりグループ」の指導案作成の手順（国語における目標設定・評価までの手順）を参考に、事例研究に取り組んだ。（詳しい事例報告については別紙に記載）

④「各教科等を合わせた指導　個別の単元構成表」を反映させた教育課程の見直し

○「個別の単元構成表」を作成したことで、児童生徒一人一人の教科の目標達成に向け、各単元でどの教科を取り上げるのか整理することができ、教科や指導すべき内容の漏れがなくなった。そのことで、「各教科等を合わせた指導」として実施している集団学習において、個別の指導計画にあげている各教科の目標を確実に取り上げることができ、より実態に応じた目標達成に向けた指導ができるようになった。また教科の目標に対し、根拠のある評価ができるようになった。

○各単元において個人の中で取り上げる教科や指導すべき内容の整理、網羅はできたが、教育課程における「各教科等を合わせた指導」の各単元としてのねらいや取り扱う教科を検討、共通理解する必要がある。また目指す姿や生活年齢を考慮した各教科の主な内容を選定する視点も必要だと考えた。そこで、児童生徒一人一人において、小単元ごとに「主に取り扱う教科」を

あげていき、現行の単元構成表にあげている教科と照合させながら、各単元で主に取り扱う教科を位置付けた。各教科の主な内容については、「個別の単元構成表」（表４）を反映させた集団学習計画書（表５）を参考に実態や生活年齢に応じて教育課程に追加・変更を加えた。

○児童生徒全員の「個別の単元構成表」の各教科の取り組むべき主な内容を照らし合わせた結果、「生活・社会」の教科において、「遊び」の具体的な内容「教師や友達と同じ場所で、好きなことをして遊ぶ」が各単元にほぼ共通の内容がとしてあがった。施設入所の児童生徒については、普段の生活では施設職員や大人との関わりがほとんどで、集団学習は友達と一緒に活動できる貴重な時間である。「各教科等を合わせた指導」の集団学習で、友達や教師との関わりを大切にしていくことを再確認し、教育課程に通年で取り組む各教科の主な内容として表記した。（表６）

＜表６　平成 29 年度教育課程「各教科等を合わせた指導 単元構成表」＞

平成２９年度　訪問教育（療育センター　小学部）各教科等を合わせた指導　　単元構成表（№１）

月	単元名		各教科の主な内容					
			生活	国語	算数	図画工作	音楽	体育
4	先生や友達と仲良くなろう	・歓迎会をしよう	★教師や友達と同じ場所で、好きなことをして遊ぶ ・名前を呼ばれたときに身振りや表情で応えたり、声を出したりする ・教師と一緒にあいさつの号令かけや黒板ふきなどの係活動をする ・簡単なルールのある遊びをする	★自分の名前を呼ばれたら、振り向いたり返事をしたりする ★教師の話しかけに表情や身振りで応じる ・教室などで話をする人の方を見て、聞く			★だっこ、マッサージ、ゆさぶりなどで音楽のリズムを伝えてもらい反応する ★曲の始まり、終わりを感じて反応する ★教師の歌や演奏と一緒に大きな声を出したり、歌ったりする ★歌遊びの中で遊びを交代したり、順番を待ったりする	
5		・運動会に行こう（訪問旗作り、出し物練習）	・誕生会、遠足、運動会などに参加する			・身近にある物の形を版にして遊ぶ ・クレヨン、水彩絵の具、カラーペン等を使って好きな色で思いのまま描いて遊ぶ ・紙や布などをちぎったり、丸めたり、はったり、つないだりして遊ぶ	・オルゴールやCDなどから流れる音楽や音に関心を示す ・教師の手をかりて、歌に合わせて手足や身体の部位を打ちならしたり、動かしたりする	・音楽が流れているところで体を動かす
6		・オリエンテーリング（自然散策）	・晴れ、雨などの天気に関心をもつ ・冬は寒く夏は暑いなどの季節の特徴に関心をもつ ・教師と一緒に公園、野山、川、海等で遊ぶ ・あり、ちょう、かたつむりなどを探したり見たりして遊ぶ ・草花に関心をもつ ・簡単なルールのある遊びをする		・具体物を指さしたり、つかもうとする ・身近にある物や人の名前を聞いて指さす			
		・遊具で遊ぼう	・ぶらんこ、すべり台、砂場などで遊ぶ					・トランポリンの上で揺

（５）研究の成果と課題

＜研究の成果＞

- 本校研究グループに参加しながら国語の教科における実態把握、目標の設定、評価までの手順を共有することができた。また、観点別に評価規準を設定し、目標に対する到達段階を示した評価基準を設定することで、「聞くこと」「話すこと」「見ること」の観点で具体的にどのような力をその授業の中で身に付けさせたいかが明確になり、ねらいをしぼって指導にあたることができた。また、目標の習得状況を把握することができ、指導内容、手立ての見直しや必要に応じた目標の修正を行うことができた。
- 各観点の目標達成に向け、各スコアの段階・意義を踏まえた働きかけ（教材教具の工夫、提示の方法、声かけのタイミングなど）を、訪問職員で検討、共通理解した上で指導にあたることができ、事例対象生徒の変容に大きくつながったと考えられる。今後はこの成果を他の児童生徒の指導の実践にも生かしていきたい。
- 教育課程については、個別の単元構成表を活用し個々の実態に応じた教科や内容、生活年齢を考慮した内容を取り入れ、小学部、中学部・高等部へと系統性をもたせた「各教科等を合わせた指導　単元構成表」を作成した。

＜今後の課題＞

- 次年度も新入生が入学する予定があり、集団学習の構成メンバーも増えることが予想される。小学部から高等部までと生活年齢の幅が広い訪問教育において、今後も集団学習における学習のグループ作りの仕方や場の設定、教材教具等の工夫等も考慮していく必要がある。また、今年度作成した「各教科等を合わせた指導 単元構成表」をもとに、授業実践をし、単元構成表の検証をしていきたい。
- 国語以外の教科の目標設定、評価、授業改善についても取り組み、他の教科においても学習の積み上げができるようにする。
- 訪問教育は週に１回、集団学習に取り組んでいるが、それ以外の時間は個別での学習が大半であり、友達と触れ合ったり、意識し合ったり、大型遊具や感触遊びなどのダイナミックな活動をしたりできる集団の良さを経験することが少ない。訪問教育という形態を考慮しながら、集団学習の中で、友達や教師と一緒に様々な活動を行い興味や関心を広げるとともに、互いに刺激し合えるようにし、成長を促していきたいと考える。教科の「生活・社会」を「各教科等を合わせた指導」の柱とし、個々のニーズに応じた教科を配置し、自立活動の指導と関連付けながら指導を行い、児童生徒の豊かな生活へとつなげていきたい。

事例報告（高等部２年　A）　　※一部抜粋

1　実態把握

（1）　遠城寺式乳幼児分析的発達検査の結果　（平成２８年4月 26 日実施）

移動運動　０：１．５　　手の運動　０：０．０　　基本的習慣　０：６．５

対人関係　０：７．５　　発語　　０：５．５　　言語理解　　０：４．５

（2）学習指導要領の段階と内容

（国語）おおむね１段階

（3）学習到達度チェックリスト

国語	観点	受け止め・対応（聞くこと）	表現・要求（話すこと）	見ること（読むこと〉	操作（書くこと）
	スコア	８	６	６	４

（4）高等部卒業までに身に付けさせたい力　※個別の教育支援計画より

・日常生活の中で自発的な要求を出し、人と関わる楽しさを感じ取り充実した生活を過ごすことができる。（生活リズムを整える）

・興味の対象を認識し、自ら楽しむことができる。（興味や楽しみを持つ）

・誰からの関わりに対しても自分の思いを表情や発声、身振りなど自分なりの方法で伝えることができる。（自分から発信する）

2　指導方針

（1）学習到達度チェックリストの目標となるスコアと実態

〇7割以上可能
△3～7割可能
□それ以下（著しく困難）

教科	観点	スコア	スコアの根拠となる行動
国語	聞くこと（受け止め・対応）	１２	・簡単な言葉を聞いて真似する。（□） ・自分の名前を呼ばれると返事をする。（〇） ・言葉による簡単な要求に答える。（△） →日常で教師が繰り返し使用する数個の問いかけに対して、まだ理解しているかパターンで覚えているのか分からないが、応じることがある。
	話すこと（表現・要求）	８	・視線や声、体を動かしたりして、相手の注意を引く。（〇） ・顔をそむけたり、払いのけたりして嫌がる。（△） ・手を伸ばして「アー」と声を出して物をほしがる。（△） →トイレをしたいとき不満なときになん語のような声を自分から出す。
	読むこと（見ること）	８	・大人が積んでいる積み木をじっと見る。（△） →積んでいる大人を見る。 ・落としたおもちゃなどを見る。（△） →見ることは少なく一瞬だけである。 ・絵本の中の動物等をさすとそれを見る。（△） →人は意識し見ることができるが物や絵に対してはあまり興味がなく、見ても一瞬だけである。
	書くこと（操作）	６	・目の前のおもちゃに手を伸ばしつかむ。（□） →腕を動かしことは難しいが、肘を軸にして右手を前後に少し動かすことができる。 ・握らせるとガラガラ等を振る。（△） ・顔にかけられたタオル等を取る。（□） →顔を動かしてタオルをはらおうとすることが過去２・３回あったが、今はほとんどない。気持ちがのっていればする。

（2）国語の学習内容表より選定した内容

聞くこと （指示の理解）	⑪「ちょうだい」の身振りや言葉かけで物を差し出そうとしたり渡したりする。 ⑫自分の名前を呼ばれたら返事をする。 ⑭言葉のみの簡単な要求を理解し応える。
話すこと （意思の伝達）	⑨やり取りを予測して期待するような反応を示す。 ⑩大人の働きかけに「アー」「ウー」など自分なりの声を出す。 ⑪要求のあるとき、視線や身体の動きなどで相手の注意を引く。 ⑬2 つのものから興味のあるものを選ぶ。
読むこと （視覚刺激への注意）	⑧動く玩具やボールを追って見る ⑨絵本の中の動物など指差すとそれを見る。 ⑫身近な人を目で追う。 ⑬大人が指差したものや見た方向を見る。
書くこと （社会参加）	⑥つかんだ物を振ったり引いたりする。 ⑨スイッチに働きかけその物とは違う物から何かの刺激が起こることが分かる。

（3）単元「劇をしよう」における国語の内容に焦点をあてた指導の実際

①目標の設定

昨年度も同じ生徒、同単元で事例研究に取り組んだ。以下に平成 27 年度の目標と評価を記載する。

※「各教科等を合わせた指導」では、1 回の授業（2 単位時間）を「はじめの会（国語）→「なかよしタイム（音楽）」→「メインとなる活動」→「おわりの会（国語）という流れで行っている。今回の「メインとなる活動」は「劇をしよう」である。

評価の観点	聞くこと（受け止め・対応）	話すこと（表現・要求）	読むこと（見る）
H27 目標	○劇のあらましを理解し、自分の出番を期待する表情をしたりする。	○自分のせりふ場面で、マイクに向かって長く大きな声を出すことができる。	○ペープサートの動きを目で追ったり、教師の指差した登場人物（ペープサート）を見たりすることができる。
評価	自分の出番が分かっているようで、笑顔で演じた。友達が演技している間、舞台袖からその様子をよく見ており時折笑顔になっていた。	教師が「今声出していいよ!!」と言うと、後に続いてマイクに向けて自分から声を出すことができた。長く大きな声を出すことも何回かあった。	ペープサートだけを上下左右に動かすようにしたところ、よく見ることができていた。指差した先のペープサートを確実に見ることができなかった。
H28 目標	**○簡単なせりふを聞き、せりふに応じた反応を示すことができる。**	**○自分の一部分のせりふの場面で、教師の働きかけに応じて相手役に向かって、長く大きな声を出すことができる。**	**○一部分のペープサートの動きを自分から目で追ったり、演技中の友達を見たりできる。**

・「聞くこと」については、その場の文脈やパターン化された状況の中での言葉が数個理解できつつある段階であるので、国語の学習内容表⑪⑭を選定し、目標を設定した。

・「話すこと」の目標については、担任や教師以外にも働きかけに応じて顔を見たり声を出したりして挨拶をしたりするようになってきているので、国語の学習内容表⑩を選定し、相手役の友達に向かって声を出すことを目標に加えた。

・「読むこと」については、自立活動の指導において、指示棒がさした物を、しばらく追視・注視できるようになってきているので、⑨⑫を選定し、「各教科等を合わせた指導」の「国語」の中で生かしていくようにした。また、指差しの手立てなしにどの程度自分からペープサートや友達の演技に注目できるか見ていくことにした。

②単元の指導計画（表２・集団学習計画書参照）

③評価規準、評価基準の設定

「劇をしよう」では「聞くこと」・「話すこと」・「読むこと」の３つを評価の観点とし、「関心・意欲・態度」については各観点の中に盛り込んで表記した。

単元におけるＡの目標及び評価

評価の観点	聞くこと（受け止め・対応）	話すこと（表現・要求）		読むこと（見る）	
評価規準	簡単なせりふを聞き、せりふに応じた反応を示すことができる。	自分の一部分のせりふの場面で、教師の働きかけに応じて、相手役に向かって、長く大きな声を出すことができる。		一部分のペープサートの動きを自分から目で追ったり、演技中の友達を見たりできる。	
評価基準	a.○○さんを探して！」のせりふを聞いて、見つかるまで左右に首を振って探し注視した。 b.「○○さんを探して！」のせりふを聞いて、数回左右に首を振って探そうとした。 c.「○○さんを探して！」のせりふを聞いても探そうとしなかった。	a.教師の声かけに応じて、フレーズ毎に長く大きな声をすぐに出した。 b.教師の声かけに応じて、フレーズ毎に短く小さな声を出した。 c.教師の声かけを聞いてはいるが、時々遅れ気味に短く小さな声を出した。	a.自分のせりふの場面の間、相手役を笑顔で見た。 b.自分のせりふの場面の間、相手役をちらちらと時々見た。 c.自分のせりふの場面の間、相役をほとんど見ることはなかった。	a.上下左右に動かしたペープサートを自分から追視した。 b.教師の顔を見ることはあるが、ペープサートを数秒間注視・追視した。 c.教師にばかり注目していて、目の前にペープサートを近付けてやっと見た。	a.友達の演技を見て笑ったり、集中して見たりしていた。 b.演技中の友達を時々見ていた。 c.演技中の友達を見ることはなく、声かけが必要だった。

④指導の実際・変容

毎回授業反省会をし、指導内容、手立ての変更、評価を行った結果を以下の表にまとめた。

評価の観点	聞くこと（受け止め・対応）	話すこと（表現・要求）		読むこと（見る）	
評価規準	・簡単なせりふを聞き、せりふに応じた反応を示すことができる。	・自分の一部分のせりふの場面で、教師の働きかけに応じて相手役に向かって、長く大きな声を出すことができる。		・一部分のペープサートの動きを自分から目で追ったり、演技中の友達を見たりできる。	
１回目	c	c	c	a	b
２回目	c	c	c	b	a
３回目	a	b	b		a
４回目	a	b	b		a
本番	a	b	b		a
総合評価	ⓐ	ⓑ	ⓑ	ⓑ	ⓐ
１・２回目	・「ふくろうさんを探して」で自分から首を動かす様子が見られた。 ・どの言葉を聞いて行動できたか次回確認する。	・録音の音声に合わせて声を出すことが難しい。次回から普段しているような担任との会話形式にし声を出しやすくする。	・教師の声かけや指差しの支援が必要だった。	・１回目はよく見ていたが、２回目は集中力がなく少し飽きている ・２回目以降は飽きる傾向に	・白雪姫がりんごを食べる場面をよく見ていた

	・言葉の理解が目的であるので、せりふ後の反応を待ち、写真を提示するよう共通理解した。	・普段教室で行っている教師とのやりとりでは長く大きな声が出ることが多くなったが、場所が違う激の場面では難しい		あるので教材の工夫が必要である。	
3回目以降	・「さがして」の声かけに応じて自分か首を動かした ・「さがして」の言葉を覚えてきているようだ。	・場所が舞台に変わり、3回目の練習で声が少し出るようになった。 ・集団学習で毎回繰り返ししているはじめや帰りの挨拶では場所が変わっても大きな声が出た。	・教師の支援なしに自分から見ることもあり、相手役に向かって声を出すことがあった。		・白雪姫と魔女のやり取りを自分からよく見ており、時々笑顔になっていた。
指導内容手立ての改善	・パターン化された働きかけに対する反応の可能性もあるので、他の場面でも「さがして」という言葉を聞いて同じ反応を示すことが確認できた。より言葉の理解を確実なものにするために、他の状況でも同じ反応を示すか見ていく必要がある。	・いろいろな状況（場所や人が変わっても）に応じて自信をもって長く大きな声を出すことができるようになることが課題としてあがった。	・相手役に向かって声を出す場面であることが少し理解しつつある。 ・教師や友達、センター職員への挨拶の場面を設定し、相手を意識して声を出すようにしていきたい。	・人に対しては興味をもち、見ることができるが、物に対して興味を向け続けることがまだ難しい。繰り返し学習すると飽きる傾向にもあるので、教材の工夫や興味関心の幅を広げていくことも必要である。	

⑤対象生徒の変容と事例研究の成果

＜学習到達度チェックリストのスコアの変容について　＞

以下の表の通り、「聞くこと」「話すこと」において変容が見られた。

〇7割以上可能
△3～7割可能
□それ以下（著しく困難）

〈※スコアの変容〉

観点	スコアの変容
聞くこと （受け止め・対応）	スコア8「ちょうだいの身振りで物を差し出そうとする。」△→〇 スコア12「言葉による簡単な要求に答える。」△→△ ※スコア8を充実させるとともに、次年度スコア12を確実にしていく。
話すこと （表現・要求）	スコア8「視線や声、体を動かしたりして、相手の注意を引く。」（〇） スコア8「顔をそむけたり、払いのけたりして嫌がる。」△→△ スコア8「手を伸ばして「アー」と声を出して物をほしがる。」 △→△（声を出して要求する場面が見られるようになった。） ※変容なし、次年度スコア8を確実にしていく。
読むこと （見ること）	スコア8大人が積んでいる積み木をじっと見る。△→△ スコア8「絵本の中の動物などを指すとそれを見る。」△→△ スコア8「落としたおもちゃなどを見る。」△→△ 変容なし、次年度スコア8を確実にしていく。

・「聞くこと」に関しては、対象生徒Aが卒業までに目指す姿である「誰からの関わりに対しても自分の思いや要求を自分なりの方法で伝えたり、人と関わる楽しさを感じ取り充実した生活を過ごすことができる」ようになるためにも、現在Aが獲得できそうな言葉を確実な

ものにする必要性を感じた。そこで、現在コミュニケーションの指導で使っている言葉や場面などを一覧表にまとめ、獲得状況を見ていくとともに、卒業までに理解できるとより充実した生活を過ごすことができると思われる言葉を選び、付け加えた。一覧表の中から身に付けさせたい言葉を選び、単元「劇をしよう」のせりふに加えたことで、日常生活場面だけでなく、劇の場面でも応用できるかを確認することができ、スコア内の充実、変容にもつながった。この作成した一覧表は今後も「国語」の学習において活用していくとともに、他の児童生徒の指導にも生かせるのではないかと考える。

- 「話すこと」に関しては、集団学習で通年で行っている「はじめの会」、「おわりの会」での挨拶の場面では、活動に見通しをもつことができ、場所が変わっても長く大きな声が出るようになった。劇の場面では、昨年度よりも教師の後に続いて声が出るようになり成長が見られたが、まだ自信がないのか挨拶に比べると声が小さかった。大きな声が出たときには大いに褒め、成就感達成感を感じられるように配慮しながら、いろいろな状況でも長く大きな声が出るように指導を継続していきたい。
- 「話すこと」に関しては、自立活動のコミュニケーションの学習で取り組んでいる「離れた場所にいる教師を見つけ自分から長く大きな声を出す」課題で身に付いてきていることを、今単元の「長く大きな声を出す」の学習で生かすことができたと考える。

３　全校研究の成果と課題

校内研究を通じ、各教員の授業に対する取り組みや意識に変容があったかを把握するために「校内研究アンケート」を実施した。（P124～　資料１０　校内研究アンケート参照）アンケートの結果及び今年度の全校研究の取組から成果と課題を下記にあげる。

〇教科の目標設定の手続きの理解と授業づくりについて

調査項目①から④の調査の結果を見ると、校内研究の趣旨を理解したうえで研究活動に取り組み、教科の目標を設定したり、評価の規準を設定したりすることについては、約半数の教員が手応えを感じている。しかし、それを授業に生かし、児童生徒の変容につなげることまでは、実感することができなかった教員が多いことが分かった。これは、各グループの研究会において、教科の目標設定の手続きの理解は進んだものの、実際にその手続きを行う機会が研究授業者の一部の教員に限られてしまったためだと考えられる。グループによっては、所属するすべての教員が手続きに沿って目標と評価の設定を経験することができている。今後は、この取組を全グループに広げ、日々の授業においても手続きを徹底し、教員一人一人の実際の指導場面まで落とし込むことが課題である。また、今年度取り組んだ知的障害特別支援学校の教科の評価規準及び評価基準の設定や評価の観点と趣旨が妥当なものとなっているのかを検証する必要がある。

〇教育課程改善への意識について

調査項目⑤の結果からは、今年度の研究活動が教育課程の編成につながったことを実感できた教員が約半数いることが分かる。次年度、編成した教育課程のもとで実践を積み上げることで、教育課程の検証を行うとともに、各グループが作成した成果物の検証も行っていきたい。

〇「身に付けさせたい力」のマトリクスについて

学校として「身に付けさせたい力」を明確にすることで、ボトムアップだけではなく、所属学部段階を踏まえた 12 年間の指導の大まかな道筋を描くことができている。これは、本校での学びの結果の説明責任を果たすことにもつながっていく。学校として身に付けさせたい力は、学校教育目標を踏まえ、現在在籍している児童生徒の実態も考慮して考えなければならない。現行のマトリクスは、平成２２年度の校内研究の成果であり、活用初年度の平成２３年度当時、中学部１年生だった生徒は、今年の３月で高等部を卒業し、当時小学部１年生だった児童は中学部へ進学する。次年度には作成時に在籍した児童生徒は各学部に一人も残っていないことになる。次年度各学部に在籍する児童生徒の実態を反映した「身に付けさせたい力」の検討が必要となっている。また、６年が経過したことで、卒業後の進路及び卒業後に必要な力に変化がないかの検証も必要となっている。

〇知的障害特別支援学校の教科の系統性について

今年度は、国語と算数・数学について、その内容のまとまりごとに系統性を意識した学習内容を考えてきた。国語及び算数・数学では、スコア１から７２（小学校第１学年の教科の内容へのつながりを意識）までの学習内容を網羅した物ができつつある。今後は、スコア１２から２４、スコア４８から７２までの学習内容を検討し、連続性や系統性を担保した学びの実現をめざしたい。

表7　これまでのグループ研究の成果の分布

<table>
<tr><td>７２～</td><td>・評価規準の導き出し方のプロセス
・評価規準の設定例
（習慣グループ成果物）</td><td rowspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>６０</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>４８</td><td rowspan="3">学習内容表（試案）
（役割グループ成果物）</td></tr>
<tr><td>３６</td></tr>
<tr><td>２４</td></tr>
<tr><td>１８</td><td>なし</td><td rowspan="7">算数・数学科学習内容表
（注意、やりとりグループ成果物）
Ⅲ課程Ｃ類型の教育課程編成の基礎資料として活用</td></tr>
<tr><td>１２</td><td rowspan="6">国語科学習内容表
（注意、やりとりグループ成果物）</td></tr>
<tr><td>８</td></tr>
<tr><td>６</td></tr>
<tr><td>４</td></tr>
<tr><td>２</td></tr>
<tr><td>１</td></tr>
<tr><td>スコア
教科</td><td>国語</td><td>算数・数学</td></tr>
</table>

また、平成２９年度の教育課程編成の基本方針（Ｐ１１）の学校全体の教育課程編成に対する基本的な考え方として、次の点があげられている。（一部抜粋）

〇児童生徒の障害の状態に関わらず、学校教育として提供する教育内容について、各教科、自立活動、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の学びを成立させることを前提とした教育課程を編成する。

〇児童生徒の実態とともに学びの履歴を的確に把握し、卒業までに身に付けてほしい力を踏まえて、授業づくりをする。

〇教科別の指導においては、教科の内容の相互の関連や系統性を明らかにして、児童生徒の習得度と障害特性に応じた指導を行う。

校内研究の取組が根拠のある教育課程編成につながっていることを、教師一人一人が自覚しながら教育活動を展開できるようにすることが重要である。今後も取組を継続し、児童生徒の能力や可能性を育み、将来の豊かな生活につなげていきたい。

Ⅲ　自立活動の取組

1　自立活動の指導について

（1）自立活動の指導における実態把握と課題整理

①実態把握

児童生徒の自立活動の指導に際して、まず基本となるのは、自立活動の６区分２６項目を窓にして、実態を把握することである。自立活動の内容は、人間として基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するために必要な要素を検討したものである。

ここで踏まえておかなければならないことは、区分ごとや項目ごとに別々に指導することを意図しているのではないことである。個々の児童生徒に必要とされる項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定することが必要となる。そのためには、児童生徒のある側面のみに偏って見るのではなく、幅広く多角的な視点で実態をとらえることが必要となる。また、行動観察によるだけでは、把握する教師の主観に大きく左右されることが危惧されるため、客観的に児童生徒をとらえるための工夫も考える必要がある。

工夫の一つの例として、本校には、把握する項目を自立活動の内容の区分ごとに配列し、指導のまとまりごとに項目を発達順に整理したチェックリスト（図１）がある。

自立活動チェックリスト **《健康の保持》**

指導事項	NO	チェック項目	諸検査等との関連	年 YorN	関	年 YorN	関	年 YorN	関
覚醒と睡眠	1	学校生活の中であまり寝ることはない		Y N		Y N		Y N	
	2	はっきりと目覚めた状態でいつも学習できる	ポ：乳　MⅡ：健	Y N		Y N		Y N	
	3	睡眠と覚醒リズムが安定しており、十分な睡眠がとれている ※ウトウトの原因がはっきりしているときは備考へ	MⅡ：健	Y N		Y N		Y N	
備考									
健康状態の把握 病気の状態の理解と対処 身体各部の状態の理解と対処	4	てんかん発作がみられない		Y N		Y N		Y N	
	5	喘息発作がみられない		Y N		Y N		Y N	
	6	アレルギー体質ではない		Y N		Y N		Y N	
	7	心疾患がない		Y N		Y N		Y N	
	8	自力での排便が可能である ※緩下剤等の使用は備考へ		Y N		Y N		Y N	
	9	腎機能、膀胱などの泌尿器系に疾患がない		Y N		Y N		Y N	
	10	身長と体重のバランスがとれている		Y N		Y N		Y N	
	11	側彎や脱臼、骨折しやすいなどの骨格形成上の問題がない		Y N		Y N		Y N	
	12	褥瘡や皮膚疾患がない		Y N		Y N		Y N	
	13	その他の疾患がない		Y N		Y N		Y N	

自立活動チェックリスト **《心理的な安定》**

指導事項	NO	チェック項目	諸検査等との関連	年 YorN	関	年 YorN	関	年 YorN	関
情緒のめばえ	1	表情やしぐさで、快・不快を表すことができる	ポ：乳、認～1Y MⅡ：コ0～3M　動：表	Y N		Y N		Y N	
	2	喜怒哀楽などの表情の変化が豊かである	動：表	Y N		Y N		Y N	
	3	情緒が安定している		Y N		Y N		Y N	

図１　自立活動チェックリスト（一部抜粋）

チェックリストのシートは冊子としてまとめ、同一のものを３年間使用するようにした。そうすることで、単年度のみの児童生徒の実態だけでなく、３年スパンでの児童生徒の変容を把握することができ、学びの履歴を把握することに役立てることができる。また、学年始め（４～５月）と学年末（２～３月）

の年間２回チェックを行い、１回目は黒、２回目は赤で記入するなどして、１年間での変化を把握しやすくするようにした。チェック時には、YES（Y）かNO（N）か悩む場合があるが、「完全にできる」、「いつでもできる」、「誰とでも安全にできる」もののみにYESをつけ、それ以外はNOをつけるようにした。また、各事項の備考欄に達成状況等を簡潔に記載していくことで、少しがんばれば達成、何が解決されれば達成なのかが明確になるようにしている。チェックの中で、その年度の課題になりそうな項目には、印を付けておくことも有効である。NOがついた項目全てがその児童生徒の課題となるわけではないことを理解しておく必要がある。

②課題整理

実態把握を進めていくと、「もう少しで達成」、「援助の量が減らせるかも」、「できはするのだが確実ではない」、「今、このことを身に付けておかなければ」といった対象とする児童生徒にとっての課題が明らかになってくる。その課題を自立活動の６区分の内容を観点にして整理をしていく。まず、図２のように、実態把握から見えてきた対象となる児童生徒の課題を一つずつ１枚のカードに書いていく。

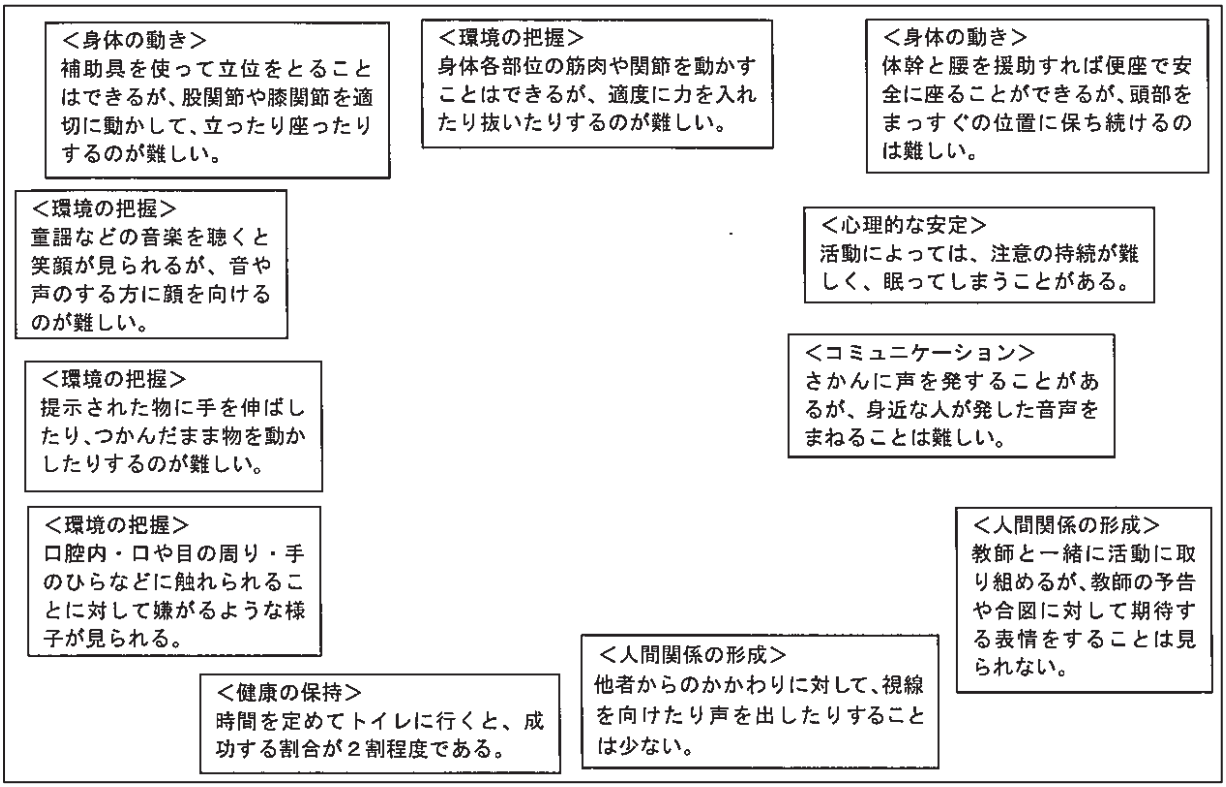


図２　対象となる児童生徒の課題の書き出し

そして、一つ一つのカード同士の関連を考えていく。関連には、「原因と結果」、「相互に関連し合う」といった関係が考えられる。関連を示す矢印を関係の種類によって書き分けると、視覚的に見やすくなったり、説明がしやすくなったりする。カード同士の関連を考えるときには、図３、４に示しているように、矢印の根拠としてとらえた児童生徒の行動や、なぜそのような関係と解釈したのかを具体的に述べられることが必要となる。

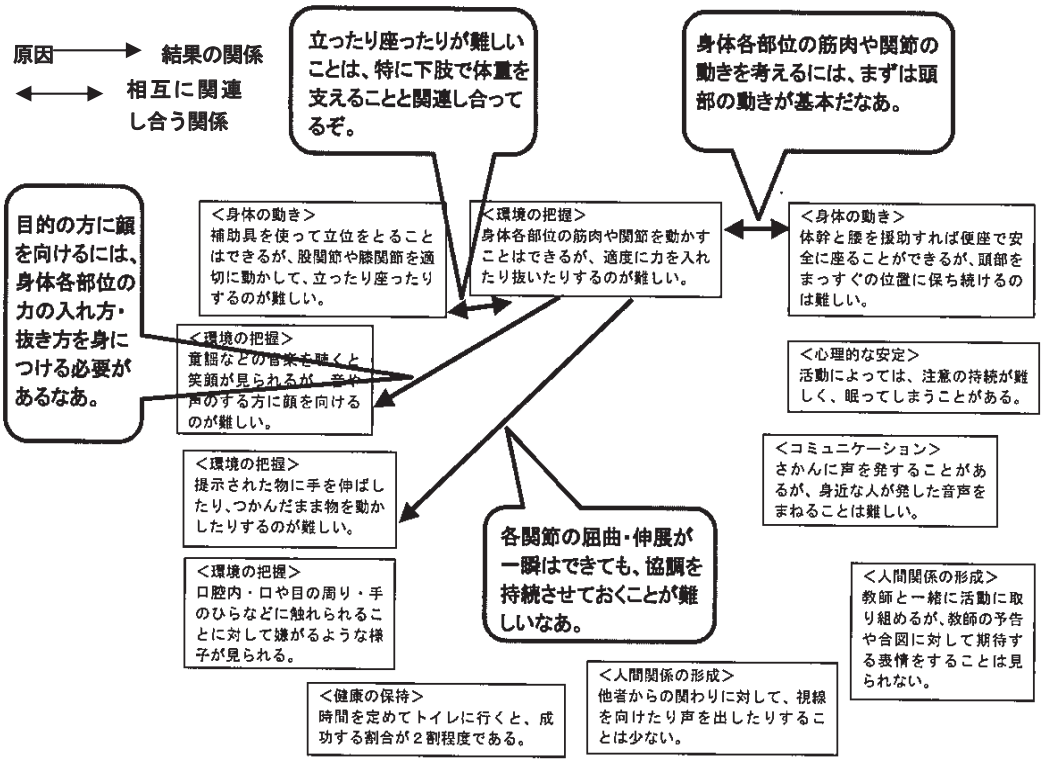


図３　ある課題を中心とした課題の視覚化（１）

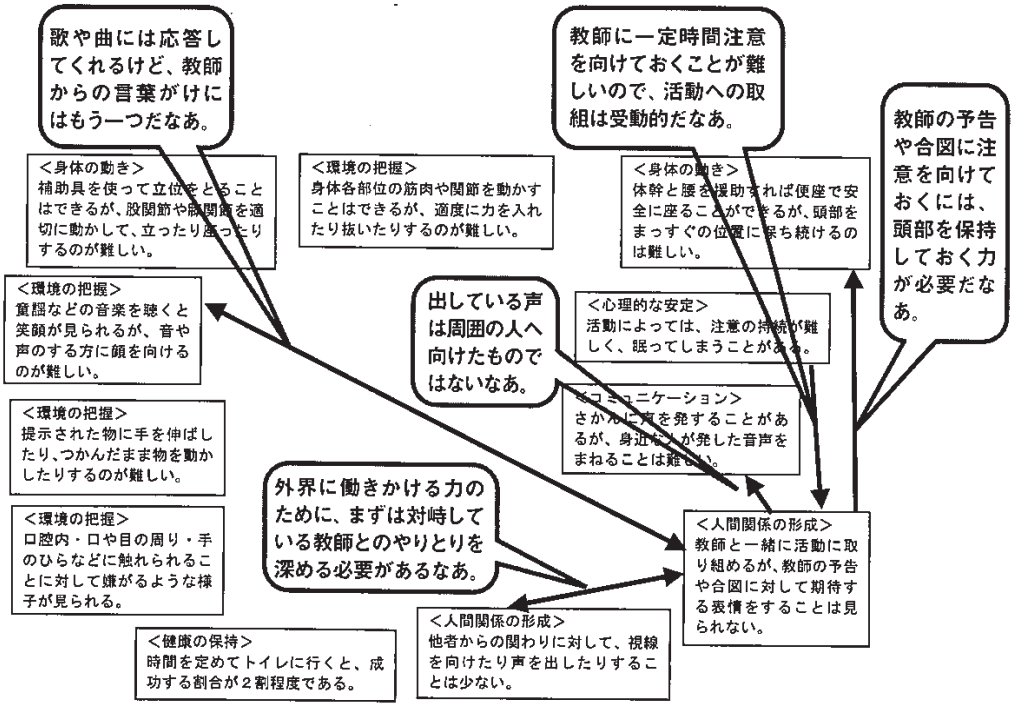


図４　ある課題を中心とした関連の視覚化（２）

この作業をしていくと、図５のように、「この課題は他の課題と多く結びついている」ということを視覚的にとらえることができ、「この課題が解決すれば、別のことにも改善が期待できそうだ」いう指導仮説につなげていくことができる。このことが中心となる課題や、優先的に指導する課題を導く根拠となっていく。図５に示す太線で囲んだ課題を中心課題としてとらえた。

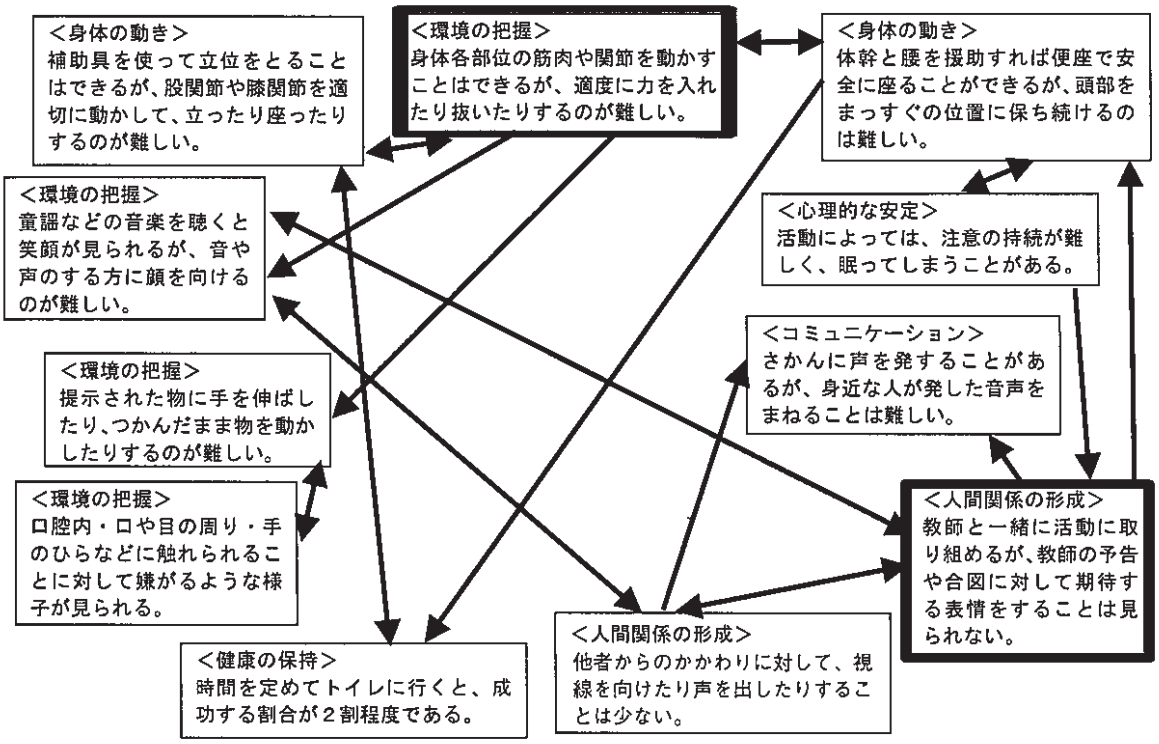


図５　対象となる児童生徒の課題関連図

③中心課題の導き出し

実態把握からの課題関連と学びの履歴、身に付けさせたい力の想定までを踏まえ、中心となる課題を導く。自立活動は、学習指導要領で示された６区分 26 項目を別々に指導する領域ではない。どの課題を中心に据えると、対象とする児童生徒の「調和的な発達の基盤づくり」につながるのかを想定し、検討することが重要である。

その際には、卒業までの在学期間を踏まえ、生活年齢に応じた指導を組み立てる視点をもつことが大切である。１年スパンでのみ考える指導の積み重ねから、12 年間の中の１年間としてとらえる考え方に移行することが求められる。そうすると、「このことは課題ではあるが、今までの取組が成果として十分に現れていないので、習得につながりにくいのではないか」、「このことはもちろん一人でできた方がいいが、将来の生活を考えると、少しの援助で安全にできることの方が大切だ」、「このことだけを取り出して指導するよりも、別の課題と結び付けて目標にした方が良さそうだ」といった、学びの履歴や卒業時にめざす姿を根拠とした分析や整理をすることができる。このプロセスのモデルを図６に示す。また、このモデルに沿って、指導を組み立てた例を図７に示す。

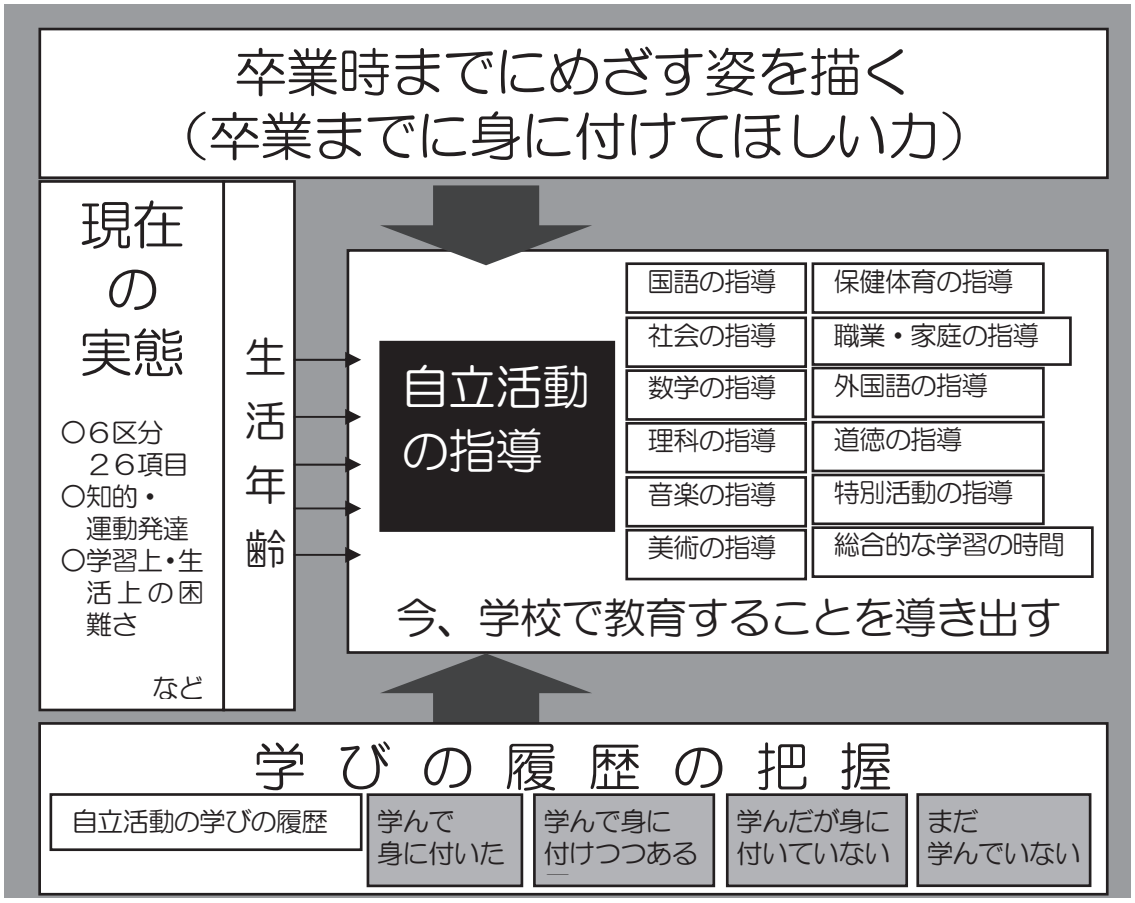


図6　中心となる課題を導き出すプロセスのモデル

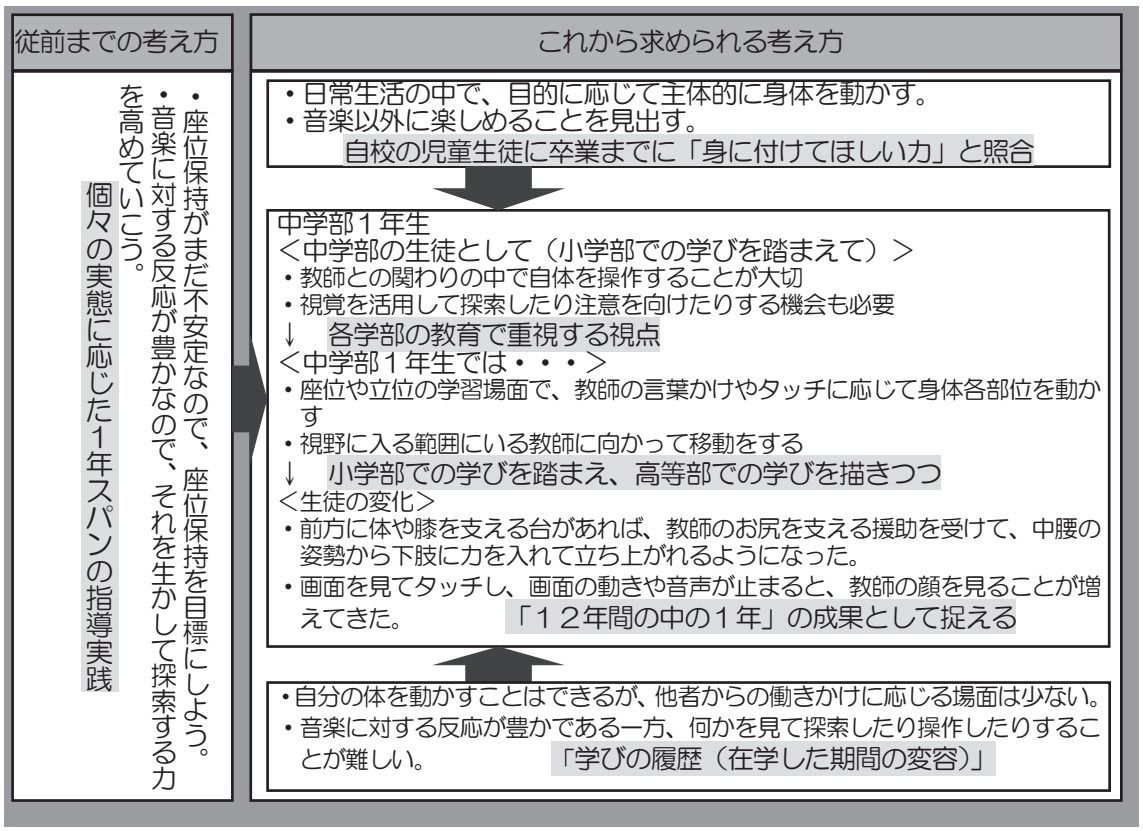


図7　モデルに沿った実践例

（2）自立活動の指導目標の設定

中心課題を踏まえ、関連する課題・指導する形態・指導時数・指導場面を想定して、１年後に達成することを視野に入れた目標を設定する。

「簡単すぎず」、「実態とかけ離れたものではなく」といった基本的なことと合わせて、設定した教師以外でも評価が簡単にできる目標となっているかどうかも大切である。そのためには、距離・時間・正確性といった対象となる児童生徒の行動に関すること、援助の種類・量・箇所、場面といった教師の手だてに関することをそれぞれ整理し、基準を設ける必要がある。

①長期目標（年間目標）

長期目標は、個別の教育支援計画の計画内容も踏まえて、児童生徒の教育的ニーズに対応した目標や方向性を示すものである。育てたい力や指導・支援の意図を明確に示しながら、目標を絞るようにする。

長期目標の期間としては、１年を想定しており、自立活動の個別の指導計画では「年間目標」としている。例えば、「コミュニケーション能力を高める」などといった表現は漠然としていて曖昧である。長期目標であっても、１年の間に何をどこまで達成するのか、行動レベルの表現にすることで目標がより明確になる。

ほとんどの場合、課題や改善したいことが一つではないため、重点課題や優先課題を絞り込んでいく必要がある。本校においては、長期目標（年間目標）が設定されてから、そこにたどり着くまでの段階ごとの短期目標を導き出すようにしている。

②短期目標（学期目標）

短期目標は日々の指導の目標で、行動目標となるものであり、長期的なゴールに到達するための、段階的、具体的な行動目標でなくてはならない。本校の場合、短期目標の期間を学期ごとに設定している。

個別の指導計画の成功の鍵として、目標の設定の仕方が重要になる。短期目標を設定する上でのポイントを表１に示す。

表１　目標設定のポイント

○　具体的、段階的、明確である（行動の明確化）
○　一定期間に達成可能である
○　結果が見える（測定可能、観察可能）
○　優先順位を決める（緊急性、達成可能性、容易度）
○　児童生徒が意識できる（本人が理解し、調整できる）

本校の自立活動の個別の指導計画の記入例を図８に示す。

自立活動の個別の指導計画①

学年 （ 小学部1年 ）　　児童生徒氏名（ ）

目標設定シートの「今年度の自立活動の目標」の番号と対応させる。

年間目標	座位保持椅子で１５分間は頭部を動かしながら絵本や映像を見ることができる。 （楽な姿勢を保ちながら、大好きなアニメ番組を１本見ることができるようになるために）
関連する学習事項	【健】「覚醒と睡眠」　【環】「視覚・視知覚」 【身】「原始姿勢反射」「不適切な筋緊張」「[illegible]」

目標設定の理由を（　）で記載する。

目標達成に必要と思われる学習事項について、チェックリストなどを参考にしながら教育課程表「自立活動学習内容一覧」の＜　＞を抜粋する。

	学期目標	学習内容	手だて	評　価
1学期	座位保持椅子で学習時の10分間、頭部をヘッドレストで保持しながら対象物を見ることができる。	①筋緊張をゆるめる(232) ②仰臥位で頭部を動かす(234) ③補助具を使って自分で仰臥位を保つ(235) ④伏臥位で頭部を動かす(240) ⑤座位で頭部を動かす(248) ⑥補助具を使って自分で座る。(250) ⑦肩、背、腰、への援助を受けて、あぐら座位や椅子座位を保つ。(249) ⑧いろいろなものを注視する（124）	ア.　座位の際は、股関節を屈曲させあぐら座のように足を組ませ緊張が入りにくいようにする。(①⑤) イ. 筋緊張が抜けない時には、一旦抱っこしてリラックスさせ、再度姿勢をとるようにする。(③⑥) ウ. 筋緊張をゆるめる学習では、ゆっくりと身体各部位を動かしながら、動きの変化や力が抜けた感じを意識させる。(①) エ. あぐら座位では、肩、背中、腰、頭部を支えながら、体幹を垂直に起こした姿勢をとらせお尻に体重をのせる。(⑤⑦) オ. 座位保持椅子ではサークル頚などを利用して頭部を保持し、対象物をゆっくりと正面で見せる。(⑤⑥⑧) カ. 仰臥位では、クッションなどを用いて、股関節、膝を屈曲させ、左右対称の姿勢をとる。(②③)	○座位保持椅子には、足を組んだ状態で座るようにすると力が入りすぎず座ることができた。しかし、自分で顔を上げようとすると全身を反らせる傾向があり、頭部を正中で保つことは難しい。下顎を支えて頭部を保ったり、顎置きクッションで保持する必要がある。絵本を読んだり、好きな映像を見たりする間の10分程度であれば、時々うなだれることはあるものの、反り返ることなくヘッドレストを使いながら頭部を保つことができた。 ・仰臥位では、光る玩具を顔の前に提示するとそれを見ながら頭部を正中に保持することができるようになってきた。その状態から玩具を左右に動かすと追視しながら頭部を左右に動かすことも４回に１回程度見られてきている。
2学期		①～⑧は継続。 ⑨追視をする。（126）	ア～カは継続。 キ. 正中位から注視させ、ゆっくりと左右に動かす。	
3学期				

年間目標、学期目標はなるべく具体的な表現を心がける。達成したかどうか判断できるよう、抽象的な表現は避ける。

教育課程表「自立活動学習内容一覧」から中心に扱う学習内容を選択する。（番号）も記入する。

取り上げた学習内容に沿って具体的な指導の手だてを記入する。その際、左の欄の対応する学習内容の番号を（　）で記入する。

学習内容や手だてについて、前学期と同様の場合は、省略して記号のみを記入する。
追加や変更点のみ詳しく記入する。

３学期の目標は基本的に年間目標と同じにする。

図８　自立活動の個別の指導計画の記入例

（3）自立活動の具体的な指導内容の設定

自立活動で扱う6区分26項目の内容を基にして、本校では自立活動学習内容一覧を作成し教育課程表に綴じている。その自立活動一覧を図9に示す。自立活動の個別の指導計画の作成時に、この一覧から児童生徒の課題に合わせて学習内容を選ぶようにしている。

図9　自立活動学習内容一覧（一部抜粋）

自立活動　学習内容　一覧

長崎県立諫早特別支援学校（H28年度版）

健康の保持

＜覚醒と睡眠＞
1 学校でできるだけ起きている
2 起きている状態を徐々に長く保つ
3 周りに関心を示し、学習に参加する
＜健康状態の把握＞
4 毎日の自分の体調を知る
＜体温の調節＞
5 体温を一定に保つ
6 気温や体温の変化に応じて、衣服を脱いだり着たりし、衣類により体温の調節をする
7 体温の上昇に応じて水分を補給する
8 皮膚を丈夫にし、寒さ・暑さや病気に対する抵抗力をつける
＜呼吸・脈拍＞
9 楽な呼吸ができる姿勢を知る
10 安定した呼吸動作を維持する
＜排痰＞
11 痰や分泌物を援助などによって出す
12 痰や分泌物を自力で出したり、飲み込んだりする
＜食事＞※環＜触覚＞・＜味覚＞、身＜食事動作＞参照
13 口周辺や口腔内の刺激を受け入れる
14 口唇閉鎖と嚥下のために鼻呼吸をする
15 自分にあった食事姿勢をとる
16 食べる意欲を高める
17 口や口唇を開けたり閉じたりして食べ物をとり込む
18 押しつぶしたり噛んだりする
19 口唇を軽く閉じて飲み込む
20 適切な一口量を口に入れる
21 水分にとろみをつけてむせずに飲む
22 水分をそのままスプーンやコップから一口飲みで飲む
23 水分をコップから連続飲みで飲む
24 水分をストローで飲む
25 水分をこぼさずに飲む
26 食べ方や後始末の仕方を身に付ける
＜排泄＞※身＜排泄動作＞＜更衣動作＞参照
27 排泄のリズムを整える
28 トイレで排泄することを習慣付ける
29 排泄の意思の問いかけに対して（尿意・便意・粗相）を知らせる
30 トイレの利用や後始末の仕方を身に付ける
＜清潔・衛生＞※身＜手洗い・洗面動作＞＜歯磨き動作＞参照
31 歯磨きの習慣を付ける
32 手洗いや洗面をする
33 よだれ・鼻水への対処を身に付ける
34 清潔・衛生を保つ
＜病気の状態の理解と対処＞
35 自分の病気の状態や体質、発作の状態を正しく理解する
36 病気の対処の仕方について知る
37 医療や福祉制度について知る
38 病気の進行防止に必要な生活様式について理解を深める
39 病気の進行防止に必要な生活習慣の形成、定着化を図り、自己管理をする
40 薬を正しく服用する
41 薬を正しく管理する
＜補助具などの管理＞
42 補装具や車椅子などの管理の仕方を知る
43 補装具や車椅子などを自己管理する
＜身体各部の状態の理解と対処＞
44 病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態を理解する
45 身体各部の状態に応じた対処の仕方について知る
46 身体各部の状態に応じて、適切に保護したり援助を求めたりする
47 症状（変形・拘縮、褥瘡、脱臼・亜脱臼）の進行を防ぐための活動に取り組む
＜病気の予防＞
48 自分の健康状態を伝える
49 自分の健康状態に応じた生活の仕方を知る
50 皮膚の機能や病気に対する抵抗力を増す
51 感染症の予防に努める
＜体力の維持＞
52 適切、適度な運動（体力や筋力をつける）をする

心理的な安定

＜食の管理＞
53 食べられるものとそうでないものを区別する
54 規則的な食生活をする
55 最低限必要な栄養や水分量を確保する
56 バランスのとれた食事をする
＜生活環境の整備＞
57 安全なものと危険なものを区別する
58 危険な場面や状況に対して回避しようとする
59 教室等の換気と室温・湿度・明るさ（照度、採光）を調節する
60 室内の環境をチェックして安全に過ごす
＜情緒のめばえ＞
61 快・不快の反応を示す
62 喜怒哀楽の反応を示す
＜安定した気持ちでいるには＞※人＜自己理解＞参照
63 常同行動以外で安定した気持ちでいる
64 自傷行為・他傷行為を軽減する
65 こだわっている物事から離れても、安定した気持ちでいる
66 うろうろ動き回らずに安定した気持ちでいる
67 緊張したり不安になったりする要因について考える
68 自分の気持ちを安定させる方法を知る
69 不安や緊張を調整して活動に取り組む
＜状況の理解＞
70 時間や日程、活動の順序などを理解する
71 場所、場面などを理解する
＜状況の変化への対処＞
72 時間や日程、活動の順序などの変更に対処する
73 場所や場面の変化に対処する
74 慣れない人の前でも落ち着いて適切な行動をとる
＜改善・克服への取り組み＞
75 学習上や生活上での困難なことを理解する
76 学習上や生活上での困難を改善・克服する方法を知る
77 積極的に学習上や生活上での困難を改善・克服する
78 自分一人でできることと、援助が必要なことを知る

このように自立活動の学習内容を示すことで、自立活動と教科の内容の違いが分かるように工夫している。

自立活動の指導に当たっては、示されている内容の中からそれぞれに必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的に指導内容を設定することとなる。

本校の場合、図８の自立活動の個別の指導計画の記入例でわかるように、具体的な指導内容を記入する欄が明確に示されていないため、今後様式の検討が必要である。

本校では、具体的な指導内容を検討する要素として、「関連する学習事項」や「学習内容」といった欄を自立活動の個別の指導計画に設けている。これらは、自立活動の指導のデーターベースとなる「学習内容一覧」から選定する。学習内容の選定の際は、課題の関連を踏まえながら相互の関連性に留意して選ぶようにする。また、関連する学習事項と学習内容は対応していることを基本として共通理解をしている。

（４）指導の手だて

具体的な指導内容と、方法や教材を選択し、決定する。本校の自立活動の個別の指導計画の手だての欄には、取り上げた学習内容に沿って具体的な指導の手だてを記入するようにしている。今後は本校様式のこの欄に具体的な指導内容と、指導の手だてを記入する必要がある。

短期目標を達成するために、実態把握（アセスメント）から得た児童生徒の特性に配慮した指導の手だてのアイデアをどのくらい出せるか、この部分こそが教師の専門性や力が発揮されるところであり、研修の必要性が高いところである。

（５）評価

自立活動の指導における評価の目的は、児童生徒の発達や成長を踏まえた適切な教育を行うためである。目標に照らして児童生徒が成長したかどうかを知るために評価を行う。適切に評価を行えば、適切な目標設定による効果的な指導ができ、授業改善につながり、児童生徒の新たな成長につながるはずである。従来、特別支援学校では、自立活動の評価の曖昧さが課題となっていた。適切な実態把握（アセスメント）、目標設定、評価方法の工夫を行うことで、効果的な指導につなげることが可能になると考えられる。

評価方法の工夫として、目標は行動レベルで評価可能な表現にすることが挙げられる。評価できない目標は、どのような行動ならばその目標が達成されたのかが分からない表現になっている。例えば、「～に取り組む」という表現はどのような行動をすることなのか示されていないため、具体的にイメージできない。評価可能な目標は、誰が見ても目標が達成されたか判断しやすい具体的な児童生徒の姿の表現になっている。

目標は「行動レベルで評価可能」な表現に

×評価できない目標例	○評価可能な目標例
「見通しを持って活動に取り組むことができる」	「スケジュール表を見て活動場所に移動することができる」

目標が達成されたか判断しやすい具体的な児童生徒の姿の表現にする。

図１０　目標の書き方

目標のスモールステップを考えるときに、目標の課題分析が重要になる。目標を「誰が」、「何をする」、「どんな条件の下で」、「どの程度うまくいく」という項目に分けて分析する方法を表２に示す。「どんな条件の下で」のところは、児童生徒が課題を遂行する際に、教師がどんな援助（手だて）を行うかを検討する部分である。児童生徒の発達や成長を踏まえた手だてとなっていることが重要になる。表２では矢印の順に難易度を少しずつ上げている。目標が達成されていないことが続いたときは、原因として考えられることは教師の手だてか、もしくは、指導内容かもしれない。また、環境面が影響しているかもしれない。すなわち、授業改善につながる評価は、「目標に対する評価」と「手だてに対する評価」の両面が必要である。

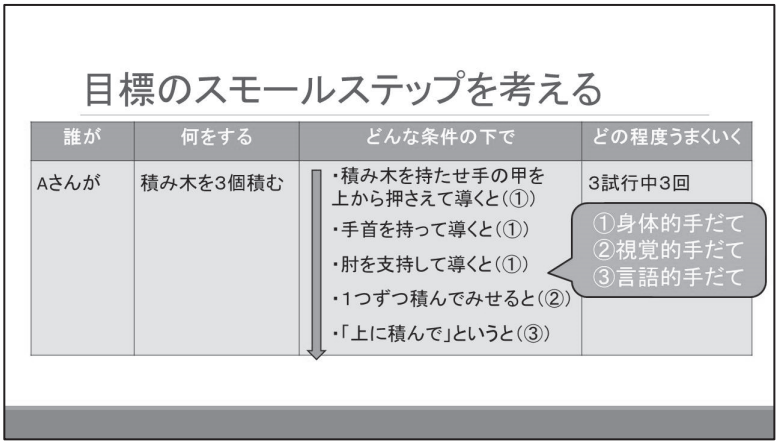


表２　目標の課題分析

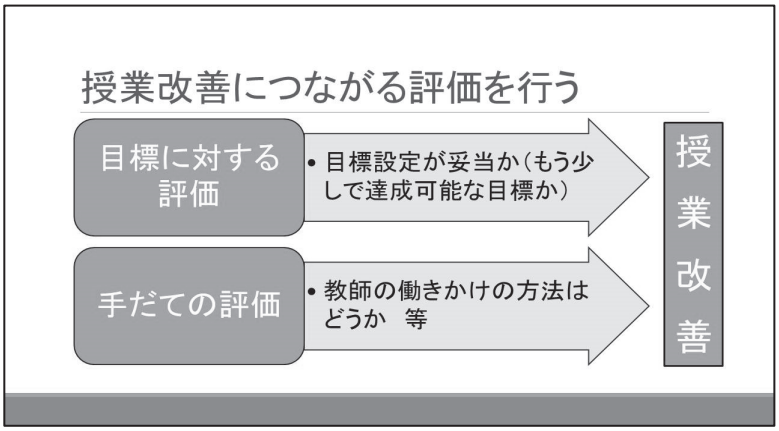


図１１　目標の評価と手だての評価

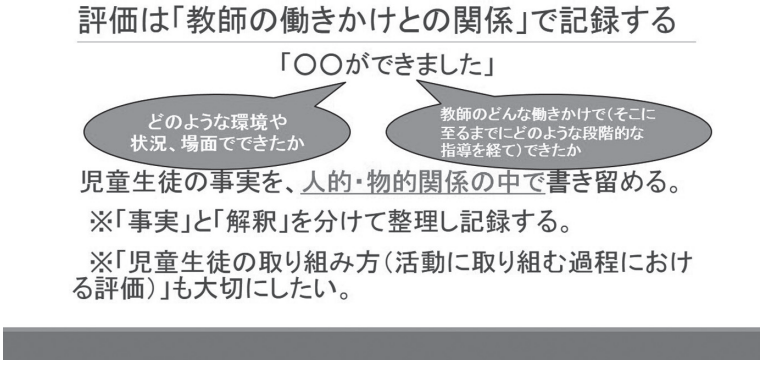


図１２　記録のしかた

評価は、「教師の働きかけとの関係」で記録するようにする。「○○ができました」と書く場合、どのような環境や状況、場面でできたのか、教師のどのような働きかけで（そこに至るまでにどのような段階的な指導を経て）できたのかを書くようにする。すなわち、児童生徒の事実を、人的・物的関係の中で書き留めることを忘れないようにする。その際、事実と解釈を分けて整理し記録することに留意し、さらに、児童生徒が思考している場面、あきらめずに、もしくは、逃げ出さずに気持ちを調整して取り組んだ場面などを大切に評価するようにする。

しかし、記録した量が多すぎたり、評価するのに長時間かかったり、評価方法が煩雑であったりすると授業改善にまで至らない。日々の指導の評価を簡便かつ効果的に行う方法を探っていくことも重要な視点である。

そこで、評価方法の工夫についての実践例を図１３に紹介する。図１３は「評価シート」を活用した取組で、評価シートには目標とその評価基準を示している。日々の指導の記録を評価シートに基づいて、達成度を記録していくことで評価しやすくしている。

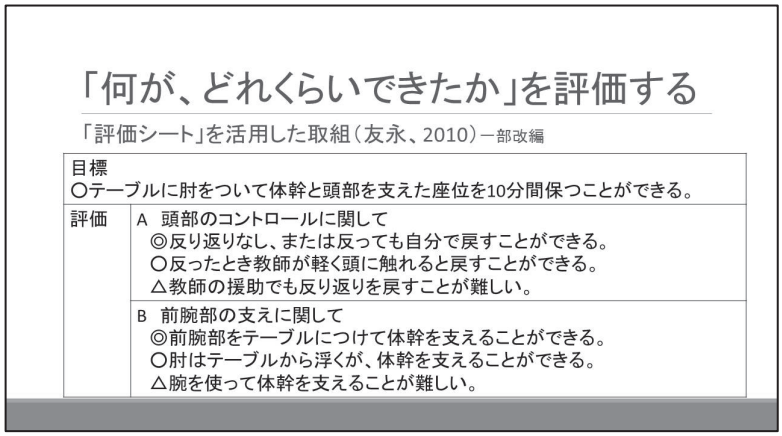


図１３　評価方法を工夫した取組

評価には、二つの側面がある。図１４に示しているように、「何を評価するのか」という質的な判断の根拠、すなわち「評価規準」と、「どの程度であるか」という量的な判断の根拠、すなわち「評価基準」とがある。この二つの側面を明確に示すことによって適切な評価につながると考える。

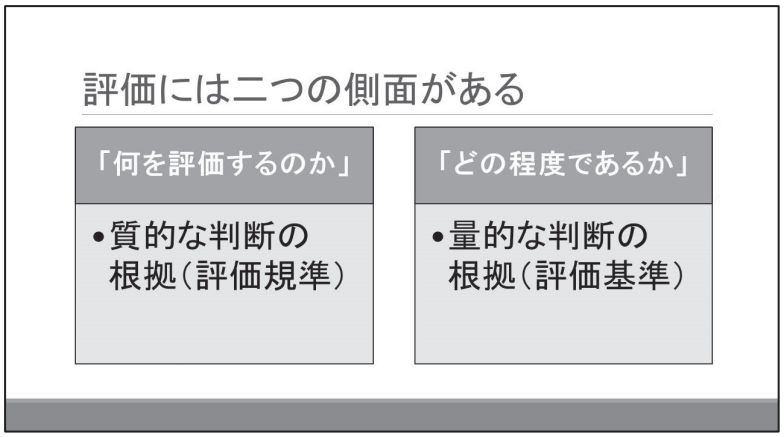


図１４　評価の二つの側面

評価の妥当性を担保するために、図１５のような視点が重要である。多面的な判断による評価を行い、適切な評価の下に指導の改善を図ることが大切である。

これまで障害がある児童生徒の評価は、数値では表しにくい部分があり、授業において文章記述で評価を行ってきた。児童生徒の細かな部分を見取るには記述式が有効であるが、情報として活用するには情報量が多く、記述式のみの評価では限界があった。

そこで、問題解決に向けた取組として、「数値的評価の導入」を試みた。個人目標の 80%以上の達成をめざして 4 段階の評定で行い、支援の最適化を図った。結果が 80%以下の場合は、個人目標の設定が高すぎたか、または、支援が適切でなかったと考え、授業担当者自身の指導方法を振り返るひとつの目安とした。

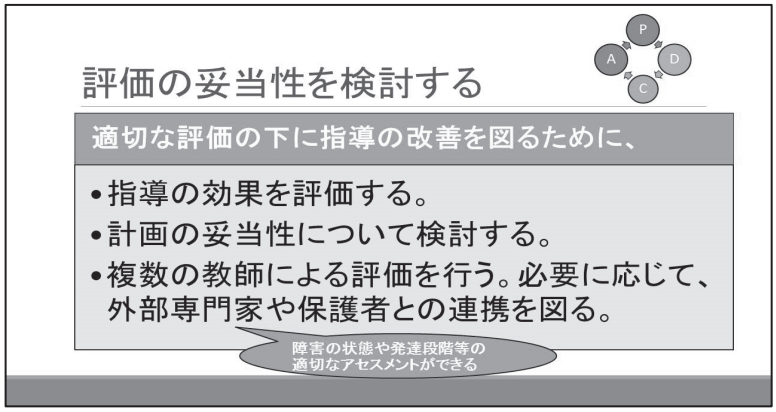


図１５　評価の妥当性

数値的評価を導入した成果として、数値のみでは、具体性に欠けるため、評価の根拠となったところを文章記述で、具体的に表すようにしたことで、児童生徒一人ひとりの進歩の状況を細かく見取ることができた。

その一方で課題としては、「目標がどの程度達成されると 80%なのか」というように、具体的な評価

基準を事前に明確にしておかないと、的確な評価をすることは難しい。児童生徒一人一人を客観的に評価するために、文章記述と数値的評価をうまく織り交ぜた評価基準や評価内容、評価方法を工夫していく必要があるとまとめている。

本校では、学びの履歴の把握を重要視しており、それを確認する際に個別の指導計画を見るが、目標の達成度が端的に分かりやすく記載されてはいない。先述の研究のように、評価基準を設定し数値評価を導入することで学びの履歴の把握がこれまで以上にしやすくなると考えられる。

3 学期は 1 年間の指導のまとめでもあり、引き継ぎの時期でもある。指導の方向性がぶれないよう以下の点を確認して、次年度に引き継ぐようにする。

・目標の達成度を端的に分かりやすく記す。
・自立活動の指導は学校教育全体を通して行われるものである。それを踏まえた評価を行う必要もある。
・自立活動チェックリストを３学期に再チェックして、児童生徒の変容を確認する。

（6）今後の課題

①相互に関連付けた具体的な指導内容の設定

自立活動の指導における個別の指導計画の作成は、まず、個々の児童生徒の実態把握に基づいた指導の目標を明らかにした上で、自立活動の６区分２６項目から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定するものである。

例えば、言葉の指導においては、具体的な事物・事象や動作等と結び付けて、正しいイメージや概念に裏付けられた言葉の獲得を促さなければならない。つまり、単に「コミュニケーション」の区分の下に示されている項目のみならず、「環境の把握」や「身体の動き」等の区分の下に示されている項目の中からも必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けた具体的な指導内容を設定することによって、日常生活や学習の中で、生き生きと活用できる言葉の指導が展開できるのである。したがって、相互に関連付けた具体的な指導内容の設定を工夫することが大切である。

個別の指導計画の作成の手順や様式は、児童生徒の障害の状態や発達の段階等を考慮し、指導上最も効果が上がるように考えるべきものである。そのような視点で本校の個別の指導計画の様式の見直しを図る必要がある。

②学習内容の見直し

自立活動の内容を分かりやすく示すため、本校には自立活動の内容に示されている６区分２６項目の下に作成した自立活動の学習内容一覧がある。しかしながら完成版ではない。本年度の研究によって作成した国語と算数の学習内容表との対応等も考慮しながら、学習内容を検討していく必要がある。

③自立活動と教科との関連を図ること

課題関連図における中心課題の導き出しについては、（１）③で述べた。中心課題や周辺課題を整理していく際に、障害による学習上又は生活上の困難を把握して、自立活動と教科との関連を図ることは、効果的に指導を行うことにつながる。ただし、教科にはそれぞれ独自の目標があるので、それらの目標から逸脱することのないよう留意する必要がある。

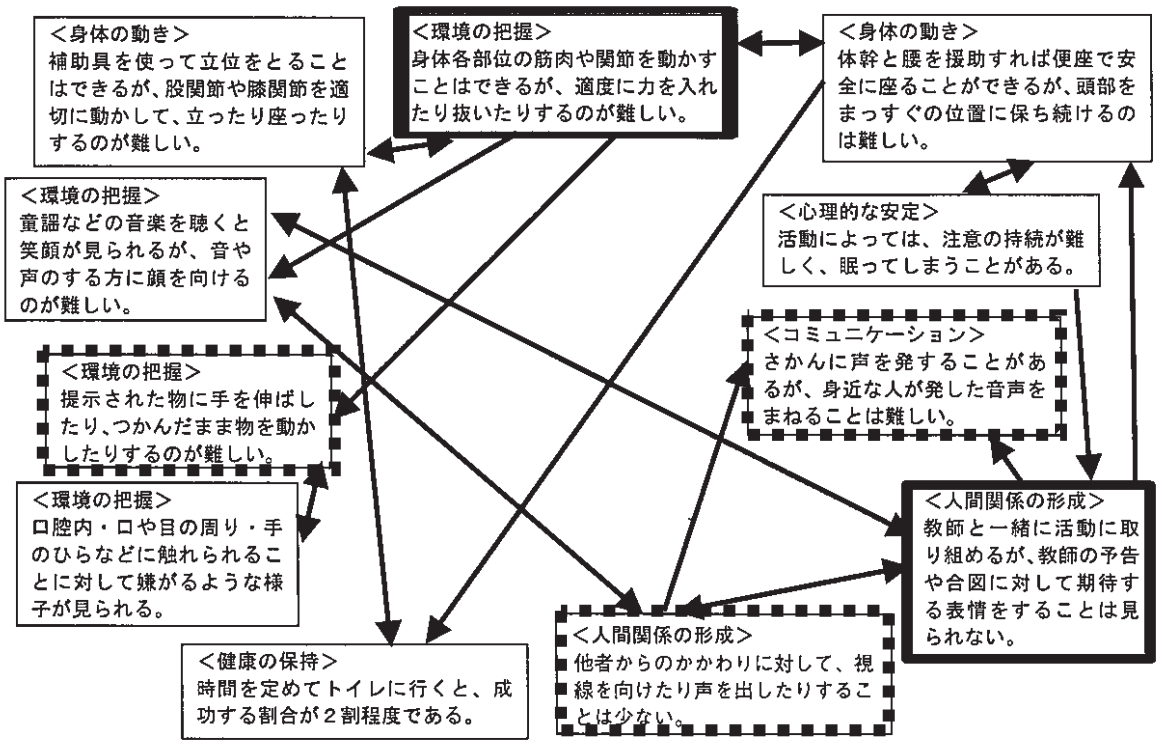


図１６　対象となる児童生徒の課題関連図（再掲）

図１６のような課題のある児童生徒の場合、点線で囲んだ部分の課題は、国語等の学習に影響を及ぼす。国語の内容の一つである「書くこと」の学習では、手を伸ばして物をつかんだり、つかんだ物を動かしたりすることがあるが、この事例ではその学習が難しいことが想定される。そうしたとき、自立活動と教科との関連を図ることが必要であるが、例えば、国語の「物を扱うこと（書くこと）」の指導の中で、握ることや動かすことに多くの時間を充てるような指導は、教科本来の目標・内容を逸脱した指導と考えられる。このような場合、児童生徒が握りやすいように持つ部分を太くするとか、動かしやすいように教師が手を添えて行うなど、本来の「物を扱うこと」の指導を行う過程で自立活動に関する指導を工夫することなどが重要なこととなる。当然、児童生徒の手の機能に関する指導については、自立活動の時間の指導において行われるべきことである。

このように、自立活動と教科との関連を図り効果的な指導につながるようにする必要がある。各教科等における自立活動の指導に当たっては、目標から逸脱することのないよう留意しながら、自立活動の具体的な指導内容との関連を図るよう工夫するなど、計画的、組織的に指導が行われるようにする必要がある。

④評価の工夫

本校では、学びの履歴の把握を重要視しており、それを確認する際に個別の指導計画を読むが、目標の達成度が端的に分かりやすく記載されてはいない。先述の研究のように、評価基準を設定し数値評価を導入することで学びの履歴の把握がこれまで以上にしやすくなると考えられる。

また数値評価の際は、指導期間と達成度（どのくらいの期間でどの程度できたのか）にも言及できるよう綿密な個別の指導計画の作成ができるよう学校全体で研修していくことが必要である。

３学期は１年間の指導のまとめでもあり、引き継ぎの時期でもある。指導の方向性がぶれないよう以下の点を確認して、次年度に引き継ぐようにしている。

・目標の達成度を端的に分かりやすく記す。
・自立活動の指導は学校教育全体を通して行われるものである。それを踏まえた評価を行う必要もある。
・自立活動チェックリストを３学期に再チェックして、児童生徒の変容を確認する。備考欄には「できつつあること」などについて手だてや評価基準を記載する。
・１年間の指導の評価を踏まえ、課題関連図に示した中心課題や周辺課題の克服・改善が見られたか確認し、今後の課題を整理する。

以上の作業をもとに、次年度の目標案を設定し「申し送り表」に記載する。

引用・参考文献：
〇宮尾　尚樹　執筆『新重複障害教育実践ハンドブック』第４章　第２節
全国心身障害児福祉財団
〇文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編』
〇長野県総合教育センター『特別支援教育 教育課程　学習指導手引書　「特別支援学校編」　Ⅷ章　自立活動について』
http://www.edu-ctr.pref.nagano.jp/kjouhou/seitoku/shiryou_tokubetushien/index.htm
〇友永光幸　執筆　『特別支援教育№.３９　自立活動の授業における評価』
〇安藤隆男　編著『自立活動における個別の指導計画の理念と実践』（川島書店）

Ⅳ　取組の総括

Ⅳ　取組の総括

本取組では、身体の動きの困難からくる感覚や認知の特性等からくる学習上の困難に際し、学び方に配慮した授業と学習評価を適切に行い、学習評価を学校教育の総体である教育課程の改善につなげるための実践研究を行った。特にこの２年間は以下の２つの取組と教育課程のつながりを図ってきた。

１．全校研究において

全校研究においては、知的障害特別支援学校の国語、算数・数学の系統性とともに、小・中・高等学校の各教科との関連、系統性について整理した。

これまで知的障害のある児童生徒の教育課程において、各教科等を併せていた指導が行われていたが、国語及び算数・数学については、教科として内容を取り扱うことができるのではないかということで、教育課程編成の中で教科として位置づけて取り組んでいくこととなった。

資料等で示しているように知的教科の目標・段階・内容の系列について整理したことで、児童生徒の実態把握や適切な目標設定各教科との関連を整理することにつながった。

２．自立活動について

自立活動の時間においては、実態把握から課題関連と学びの履歴、身に付けさせたい力をふまえて、中心となる課題を導き出す。そして、自立活動の時間における指導内容を設定していく。この一連の流れを共有していく中、自立活動と教科の目標や指導内容設定の手続きを整理することができた。

このことは、自立活動の時間の学習内容の見直しや、重度の児童生徒の教育課程における自立活動と各教科を整理することにもつながった。

３．教育課程の改善・充実について

教師一人一人の授業実践はその後の学習評価を行い、次の授業改善はかり、次の授業につなげていくようにした。それを教育課程へのつなげていきたいと考えている。そこで、下記に示しているような流れで取り組んでいる。

まずは、１学期の各教科等の授業については、教育課程検討委員会で次年度に向けた教育課程の編成として検討していく。このようにすることで、個々の児童生徒の現在の指導を授業の学習評価にとどまらず、教育課程の評価･改善に活かすことができる。また、日々の授業と教育課程改善をつなげる取組を見える表にして、学習グループ、学部、各校務分掌でいつ何をどのように検討していくか明らかにした。

次に２、３学期については、個々の学習評価を集約し、次年度の教育課程編成につなげていくようにした。教育課程を検討するに当たっては下に示した流れに従って進めていった。

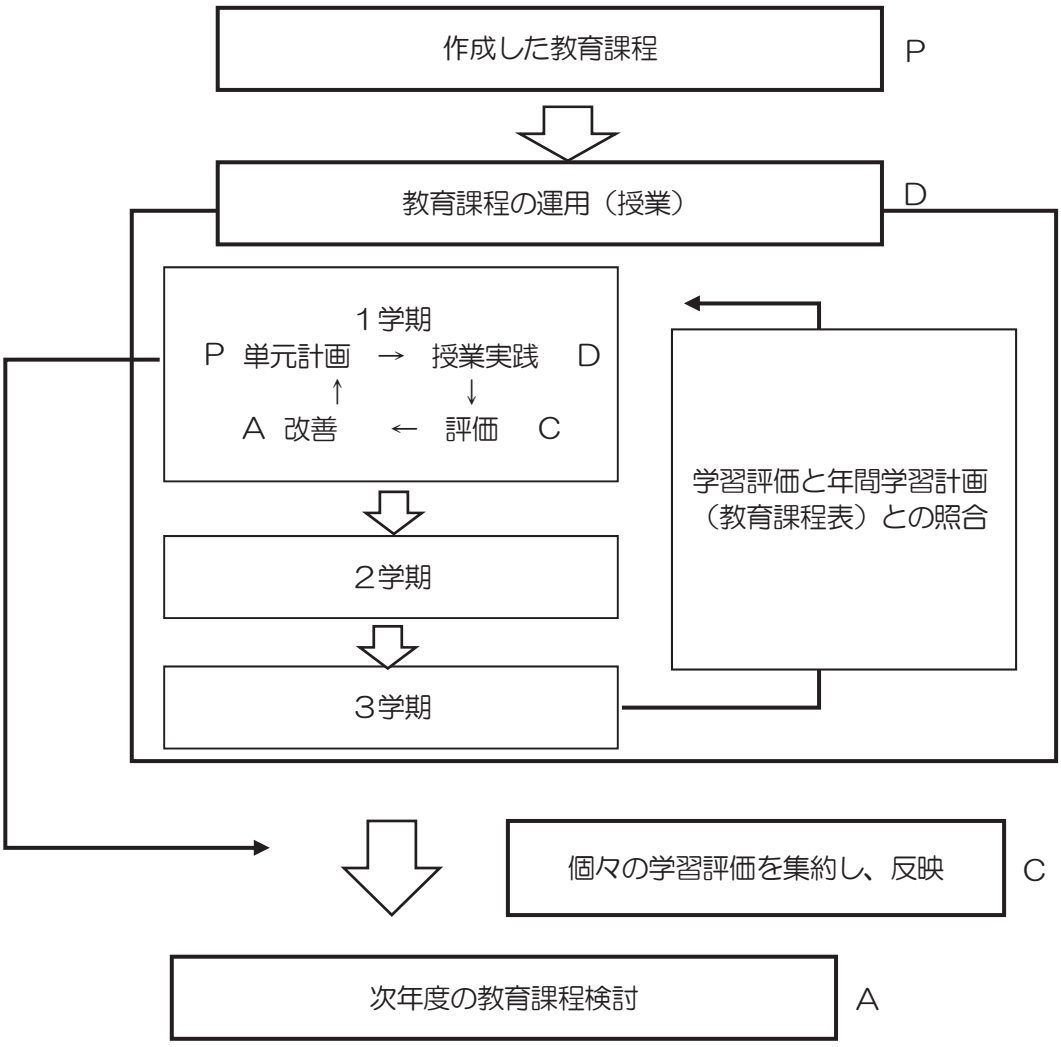
このようにすることで、教職員も日々の授業実践が、教育課程の充実につながっていくように感じている。

教育課程編成に向けた教員に対してのアンケート調査では、各教員の教育課程と日々の授業との

つながりや手ごたえについて聞くと、「目標や授業を考える際に学びの履歴、卒業までに身に付けてほしい力という話題が良くあがるようになってきた」という意見があり、日々の授業と身に付けてほしい力の意識が高まってきた。

また、教科別の指導においては、「教科の内容の相互の関連や系統性を明らかにして、児童生徒の習得と障害特性に応じた指導を実践した」と答えた先生が多くいた。

次年度においても、身体の動きの困難からくる感覚や認知の特性、経験の不足など障害の特性等からくる学習上の困難に際し、学び方に配慮した授業と学習評価を適切に行い、学習評価、指導評価を教育課程編成の改善・充実に活かすことができるＰＤＣＡサイクルを行っていきたい。



Ⅴ　資料

資料１　諫早特別支援学校版　「身に付けさせたい力」

マトリクス１

○心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒

高等部	①自己の能力や適性を分析して理解し、それを受け入れて、自分の良さなどを伸ばすことができる。	②できないと思うことでもできる方法を模索したり、周囲の人に相談したりして取り組むことができる。	③身近な問題に目を向け、探求心や目的を持って学習に取り組むことができる。	④自分の障害や病気を理解し、障害や病気の進行を予防する方法を理解し、実践することができる。	⑤自分の健康状態や障害の状態、体力に応じて運動量を調節し、体力の維持や向上に継続的に取り組むことができる。	⑥望ましい生活をめざし、健康管理に努めたり、生活を改善したりすることができる。
中学部	⑦自分の得意なことや不得意なことを理解することができる。	⑧失敗経験から学んだり、周囲の人に教えてもらったりして取り組むことができる。	⑨見通しや予想を持って進んで学習に取り組むことができる。	⑩自分の障害や病気を理解し、健康・安全に留意した生活や不調時の対応を考えることができる。	⑪自分の健康状態や体力に合わせて、適度な運動に取り組むことができる。	⑫基本的な生活習慣を身に付けるとともに、病気の予防を行うことができる。
小学部	⑬自分の好きなことや得意なこと、苦手なことに気付くことができる。	⑭苦手なことや難しいことにも繰り返し取り組むことができる。	⑮知りたいことや分からないことを進んで調べることができる。	⑯自分の身体のことに気付き、健康で丈夫な身体をつくる方法を知ることができる。	⑰身体を動かすことを楽しんだり、運動に親しんだりすることができる。	⑱早寝早起き、偏りのない食事、手洗いやうがい、歯磨き、入浴など、基本的な生活習慣を身に付けることができる。
身に付けさせたい力	自分を知る	あきらめずに取り組む	学習への意欲をもつ	健康や障害について理解する	体力の維持や向上を図る	望ましい生活習慣を身に付ける
大項目	たくましく生きる心			たくましく生きる身体		

○心豊かで思いやりのある児童生徒

高等部	⑲芸術や文化についての理解を深め、芸術的、文化的活動に進んで取り組んだり、生活に生かしたりすることができる。	⑳自然や社会の現象について幅広く情報収集を行い、広い視野に立って物事を考えたり、知識や経験を生活に生かしたりすることができる。	㉑自分のできることや課題、働くことの意義を見いだして取り組んだり、任された仕事は責任を持ってやり遂げたりすることができる。	㉒自他の違いを認め、自分を取り巻く人々を大切に思って接し、互いに支え合い、分かり合える仲間づくりに励んだり、集団の一員として活躍したりすることができる。
中学部	㉓表現や鑑賞に親しみ、芸術や文化のよさ、美しさを感じ取ったり味わったりすることができる。	㉔自然や社会の現象について進んで学習し、知識や経験を増やしたり、自分のものの見方や考え方を広げたりすることができる。	㉕学校生活や家庭生活において、自分の役割を果たしたり、互いに協力しながら物事に取り組んだりすることができる。	㉖他人の意見を尊重したり、周囲の人を気遣ったりして、自分の悩みをお互いに話し合える友達を持つことができる。
小学部	㉗表現や鑑賞を楽しみ、自分の思いや感じたことを表現したり、つくりだす喜びを味わったりすることができる。	㉘自然や社会の出来事や様子について興味や関心をもって聞き、自分の知りたいことを得たり、体験したりすることができる。	㉙係の仕事や手伝いを一生懸命に取り組み、自分で決めたことは最後までやり通すことができる。	㉚相手の気持ちを考えて友達を大切にしたり、進んで集団の中に入って人と関わったりすることができる。
身に付けさせたい力	芸術や文化への関心をもつ	自然や社会への関心をもつ	奉仕の心や責任感をもつ	自他の違いを知り、よりよい人間関係をつくる
大項目	心豊かに生きる		思いやりのある関わり	

○夢や願いに向けて挑戦する児童生徒

高等部	㉛周囲の人に自分から働き掛けて必要な話や依頼をしたり、問題について話し合って解決したりすることができる。	㉜目的や意図に応じ、伝えたい事柄や意見などが相手に分かりやすく伝わるように、具体例などを加えながら説明することができる。	㉝社会の制度や障害者を支援する各種サービスの利用方法を理解し、実生活で活用することができる。	㉞報告、連絡、相談やTPOに合わせた振る舞いができる。	㉟職業・就労・進学に関する理解や認識を深め、自己の価値観や職業観・勤労観を持ち、将来設計や進路希望の実現に向けて取り組むことができる。
中学部	㊱話題や話の流れに応じて話すことや、人の考えを受容したり自分の考えを修正したりしながら話すことができる。	㊲目的や意図に応じ、自分の考えをまとめ、根拠を明確にして書いたり話したりすることができる。	㊳学校生活のきまりや地域社会のルールを理解し、生活に生かすことができる。	㊴目上の人に対して、敬語の使用や立場を踏まえた接し方ができる。	㊵体験を通して、様々な職業があることを知り、自分の将来や進路について描き、自分の努力目標を考えることできる。
小学部	㊶相手の気持ちや話の内容をとらえながら聞いたり、考えや伝えたいことをまとめて自分の言葉で話したりすることができる。	㊷相手や目的に応じ、調べたことや自分の考えが伝わるように、書いたり話したりすることができる。	㊸身近なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動することができる。	㊹返事や挨拶、ていねいな言葉遣いができる。	㊺自分が将来就きたい職業や夢について考えることができる。
身に付けさせたい力	コミュニケーション	言葉で表現する	生活を営む	態度・言葉遣い	進路を選択する
大項目	自己表現力		環境への適応		

マトリクス2

○心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒

高等部	①身の回りのことをある程度自分で決め、反省を行動の変容につなげ、見通しを持って主体的に行動することができる。	②日課に沿って行動ができ、急な予定の変更にも落ち着いた心で対処ができる。	③体調不良時には周囲にいる人に伝え、体調不良時の対処の仕方について知ることができる。	④安全に生活したり、学習したりするために危険を回避し、安全な環境をつくることができる。	⑤自分に必要な運動に自主的に取り組み身体の状態を維持しようとすることができる。	⑥規則正しい生活・自律的な生活を送ることができる。
中学部	⑦自分の得意、不得意が分かり、反省したことを工夫して行動することができる。	⑧日課に沿って行動ができ、事前の連絡があれば急な予定の変更にも落ち着いて対処ができる。	⑨体調不良時には教師に伝えたり、病気になってしまった原因を考えたりすることができる。	⑩危険な場所や危険な行動が分かり、判断することができる。	⑪自分に必要な運動を理解し、体を動かす習慣を身に付け運動することができる。	⑫基本的な生活習慣を自ら実行したり、周りの人に依頼したりすることができる。
小学部	⑬教師と一緒に失敗などの自分の行動を振り返り、目標をもって活動に取り組むことができる。	⑭教師と一緒に日課に沿って行動でき、急な予定の変更にも落ち着いて対処することができる。	⑮体調が悪い時は教師に伝え休養をとったり、病気にならないように予防の仕方を知ったりすることができる。	⑯生活の中で、危険な場所や危険な行動が分かる。	⑰教師の援助によって自分に必要な運動を理解しながら体を動かすことができる。	⑱睡眠・食事・排泄等を教師や保護者の援助を受けながら実行することができる。
身に付けさせたい力	自己を振り返って行動する	状況の変化に対応し落ち着いて行動する	自分の心身の状態を理解し対応する	状況を判断して危険を回避する	体を動かす習慣を身に付ける	基本的生活習慣を身に付ける
大項目	たくましく生きる心			たくましく生きる身体		

○心豊かで思いやりのある児童生徒

高等部	⑲自分の好きなことや興味のあること、趣味をもち、それらで楽しむことができる。	⑳自然や社会について広く学んで考えたり、芸術を楽しんで様々な感想をもったりすることができる。	㉑様々な人との関わりの中で、自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見を尊重し、場の状況に合わせた行動をとることができる。	㉒友だち以外の人でも周囲の状況を見て、自分から声をかけたり、手助けをしたりすることができる。
中学部	㉓様々な活動を行う中で、自分の好きなことや楽しめることを見つけ、自覚することができる。	㉔自然や社会について考えたり、芸術を自分なりに楽しんだりすることができる。	㉕学校などの場での人との関わりの中で、相手の表情などから気持ちを理解し、その気持ちに共感することができることができる。	㉖困ったり、悩んだりしている友だちの状況を見て「どうしたの?」などと声をかけたり、手助けをしたりすることができる。
小学部	㉗教師と一緒に様々な活動に参加して、それらを受け入れて楽しむことができる。	㉘身近な自然や社会の出来事に気づいたり、芸術に親しんだりすることができる。	㉙家族以外の身近な存在である友人や教師に関心をもち、その人たちの表情などを見て、感情を理解することができる。	㉚友だちが泣いている時などにその変化に気付き、心配したり、教師に教えたりすることができる。
身に付けさせたい力	自分の好きなことややりたいことを楽しむ	自然・社会について考えたり楽しんだりする	相手の気持ちを理解して関わる	相手の様子から体調や心情の変化に気づき、働きかける
大項目	心豊かに生きる		思いやりのある関わり	

○夢や願いに向けて挑戦する児童生徒

高等部	㉛要求、依頼、悩み、感情等を自ら適切に伝え、解決しようとすることができる。	㉜芸術や文化を楽しんだり、進んで取り組み生かしたりすることができる。	㉝人や場面など状況に応じた挨拶や返事ができる。	㉞集団活動を通して、自分の役割を判断し、集団の一員としてその役割を果たすことができる。	㉟新しい場所や初めて会う人の前でも、自分の役割を判断し、行動することができる。	㊱社会の慣習や生活に関係の深い福祉的な制度やサービスを知り、周囲のサポートを受けながら生活に生かすことができる。	㊲これまでの経験や体験的な学習、周囲の人の助言から、現実を視野に入れ、卒業後の生活や進路を決定することができる。
中学部	㊳困ったこと、手伝ってほしいこと自分の気持ちや悩みなどを近くにいる人を見つけて伝えることができる。	㊴芸術や文化に親しみ、それらを取り入れて自分なりに表現することができる。	㊵初めて会う人や年上の人など誰とでも挨拶ができる。	㊶集団活動を通して、その状況から自分の役割を何となく理解できる。	㊷新しい場所や初めて会う人の前でも落ち着いて行動できる。	㊸社会のしくみやきまりが分かり、生活に関係の深いことについて経験の幅を広げることができる。	㊹体験的な学習や様々な経験を通して、様々な職業があることに関心をもち、将来なりたい職業について考えることができる。
小学部	㊺困ったことや手伝ってほしいこと、喜びや悲しみなどの自分の気持ちを近くにいる知っている人に伝えることができる。	㊻芸術や文化に興味を持ち、自分なりに関わることができる。	㊼友達や教師に自分から挨拶ができる。	㊽集団活動を通して、友達や教師といった他者との関わりを楽しむことができる。	㊾新しい場所や初めて会う人の前でもその場の雰囲気を受け入れることができる。	㊿生活の中の簡単なマナーやきまりが分かったり、大人と一緒に利用したりすることができる。	(51)様々な学習や生活上の体験から、いろいろな仕事があることを知り、興味をもつことができる。
身に付けさせたい力	要求や依頼、悩み、感情などを伝える	芸術・文化的な事柄で自分を表現する	状況に応じて挨拶や返事をする	集団の中で人と関わり役割を遂行する		社会のしくみやきまりを理解する	社会や仕事に関心をもち、考え行動する
大項目	自己表現力			環境への適応			

マトリクス３

○心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒

高等部	①いろいろな物事に積極的に取り組み、決められたことを自ら行うことができる。	②安定した気持ちで学習活動に参加し、場に合った行動をとることができる。	③声や身振り、言葉など、分かりやすい方法で体調不良を周囲の人に伝えることができる。	④危険なものや場面を察知し、安全に行動することができる。	⑤教師の師範を参考に、自分の意思で身体を動かすことができる。	⑥身の周りのことを、手順に沿って自分で行うことができる。
中学部	⑦学習の中で興味・関心の幅を拡げ、集中して最後まで取り組むことができる。	⑧教師の少ない支援で、様々な学習の場面や集団の中でも落ち着いて活動することができる。	⑨体調が悪いことを自覚し、自分にできる方法で教師に訴えることができる。	⑩教師の声かけを受けて、自分で危険を回避し、安全な道具の使い方に慣れる。	⑪決まった手順に沿って、教師の声かけや手本があれば自分で身体を動かすことができる。	⑫教師の声かけで身の周りのことを自分でしたり、必要な時に支援を求めたりすることができる。
小学部	⑬好きなものや活動を見つけて、生き生きと取り組むことができる。	⑭身近な教師や友達と一緒に、学習に落ち着いて参加することができる。	⑮泣いたり簡単な身振りをしたりして、不快な様子を身近な教師に伝えることができる。	⑯ごく身近なものや場面での危険が分かり、一人でまたは教師と一緒に回避することができる。	⑰興味のある活動を通して、教師と一緒に身体を動かすことができる。	⑱教師の援助を受けながら、身の周りのことを自分ですることができる。
身に付けさせたい力	すすんで取り組む	落ち着いて活動する	心身の不調をサインや声などで伝える	安全に行動する	自分の意思で体を動かし、体力をつける	身の回りのことを自分で行う
大項目	たくましく生きる心			たくましく生きる身体		

○心豊かで思いやりのある児童生徒

高等部	⑲自ら好きな活動を選択し、一定時間、続けて楽しむことができる。	⑳自然や社会など知的な事柄を自分から学んだり、芸術を楽しんだりすることができる。	㉑誰からの働きかけも受け入れることができる。	㉒相手の思いを感じとり、行動をコントロールすることができる。
中学部	㉓さらに多くの経験から、好きなことを増やし、やりたいことを選ぶことができる。	㉔自然や社会など知的な事柄を深く学んだり、芸術を味わったりすることができる。	㉕グループの友だちや先生の働きかけを受け入れることができる。	㉖関わりの中で、相手の反応の変化に気づくことができる。
小学部	㉗いろいろな活動を経験し、好きなことを見つけ楽しむことができる。	㉘自然や社会など知的な事柄を広く知ったり、芸術に関心を持ったりすることができる。	㉙身近な大人の働きかけを受け入れることができる。	㉚他者に目を向け、関わろうとすることができる。
身に付けさせたい力	自分の好きなことや興味のあることを見つける	自然・社会に関心をもつ	相手の働きかけを受け止める	相手の気持ちや場の雰囲気を感じとる
大項目	心豊かに生きる		思いやりのある関わり	

○夢や願いに向けて挑戦する児童生徒

高等部	㉛サインや身振り、発声、VOCA など伝える手段を増やすことにより、自分の意思をいろいろな人に伝えることができる。	㉜多くの芸術や文化的な事柄に関心をもち、感じたことを自分なりに表現することができる。	㉝いろいろな人と関わることができる。	㉞手順やマナーを意識して活動に参加することができる。	㉟相手が伝えようとしていることや周囲の状況を理解し、周りの人の気持ちを感じ取ることができる。
中学部	㊱サイン、声、動作などで気持ちや要求を伝えることができる。	㊲身近な芸術や文化に関心をもち、自分なりに表現することができる。	㊳自分から身近な人と関わることができる。	㊴一日の大まかな見通しをもって生活することができる。	㊵周囲の状況を理解して行動したり、教師の指示に従ったりすることができる。
小学部	㊶身振りやサイン、カードなどで自分の要求を伝えることができる。	㊷自分の周りの芸術や文化に関心をもつことができる。	㊸教師を介しながら友達と関わることができる。	㊹簡単な事柄の見通しをもって行動することができる。	㊺周囲の状況に目を向けたり、簡単な指示を理解したりすることができる。
身に付けさせたい力	自分の意思や要求を伝える	芸術・文化的なことに関心をもつ	人と関わる	活動の見通しをもつ	周りの人や環境を理解し行動する
大項目	自己表現力		環境への適応		

マトリクス4

○心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒

高等部	①日常生活の中で自発的な要求を出し、人と関わる楽しさを感じとり、充実した生活を過ごすことができる。	②生活リズム（睡眠、食事、排泄）を確立し、学校生活を楽しく過ごし、周りに関心を示して学習に参加することができる。	③日常生活に必要な基本動作や姿勢を身に付け、主体的な動きを出すことができる。
中学部	④日常生活の中で快の表情を多く出しながら自分の要求を伝え、心地よい生活を送ることができる	⑤生活リズム（睡眠、食事、排泄）を身に付け、学校生活の中で楽しい時間を増やし、学習に参加することができる。	⑥日常生活に必要な基本動作や姿勢に慣れ、いくつかの主体的な動きを出すことができる。
小学部	⑦日常生活の中で働きかけに応じ、快・不快の表情を出すことができる。	⑧生活リズム（睡眠、食事、排泄など）を整え、元気に登校することができる。	⑨日常生活に必要な基本動作や姿勢を知り、受け入れることができる。
身に付けさせたい力	人や物とかかわる	生活リズムを整える	自分に合った動作や姿勢をとる
大項目	たくましく生きる心	たくましく生きる身体	

○心豊かで思いやりのある児童生徒

高等部	⑩自分の気持ちを相手に伝え、周囲の働きかけにより気持ちをコントロールすることができる。	⑪興味の対象を認識し、自ら楽しむことができる。	⑫たくさんの人を意識し、自発的に関わることができる。
中学部	⑬自分の気持ちを相手に伝えることができる。	⑭興味の対象をさらに増やすことができる。	⑮様々な活動を通して人を意識し、表情や発声、身振りなどで働きかけることができる。
小学部	⑯自分の気持ちを表情や発声、身振りなどで表現することができる。	⑰様々な刺激を受け入れ、好きな人・物を見つけることができる。	⑱（高）身近な人に表情や発声、身振りなどで働きかけることができる。 （低）身近な人の働きかけに気付いたり、興味をもったりすることができる。
身に付けさせたい力	情緒の安定をはかる	興味や楽しみを持つ	人と関わりを求める
大項目	心豊かに生きる		思いやりのある関わり

○夢や願いに向けて挑戦する児童生徒

高等部	⑲誰からの関わりに対しても、自分の思いを表情や発声、身振りなど自分なりの方法で伝えることができる。（卒業後の進路先の人にも）	⑳人や環境が変わっても落ち着いた気持ちで活動に取り 組むことができる。
中学部	㉑コミュニケーション手段のバリエーションを増やし、日常と違う場面でも自ら関わることができる。（担任以外の教師にも）	㉒人や環境の変化に気づき、それを表すことができる。
小学部	㉓自分の発声や動きで周囲に変化が起きることに気付いたり、その力を使って身近な人と関わることを楽しんだりすることができる。（親や担任）	㉔集団での学習に慣れ、様々な刺激や感触を受け入れることができる。
身に付けさせたい力	自ら発信する	落ち着いた気持ちで環境に適応する
大項目	自己表現力	環境への適応

資料２①　小学校各教科目標一覧

教科	目標	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。	（1）　相手に応じ，身近なことなどについて，事柄の順序を考えながら話す能力，大事なことを落とさないように聞く能力，話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 （2）　経験したことや想像したことなどについて，順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに，進んで書こうとする態度を育てる。 （3）　書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。		（1）　相手や目的に応じ，調べたことなどについて，筋道を立てて話す能力，話の中心に気を付けて聞く能力，進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 （2）　相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら書こうとする態度を育てる。 （3）　目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。	（1）　目的や意図に応じ，考えたことや伝えたいことなどについて，的確に話す能力，相手の意図をつかみながら聞く能力，計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに，適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 （2）　目的や意図に応じ，考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに，適切に書こうとする態度を育てる。 （3）　目的に応じ，内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。	
社会	社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。			（1）　地域の産業や消費生活の様子，人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし，地域社会の一員としての自覚をもつようにする。 （2）　地域の地理的環境，人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし，地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。 （3）　地域における社会的事象を観察，調査するとともに，地図や各種の具体的資料を効果的に活用し，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。	（1）　我が国の国土の様子，国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし，環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め，国土に対する愛情を育てるようにする。 （2）　我が国の産業の様子，産業と国民生活との関連について理解できるようにし，我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。 （3）　社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味について考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。	（1）　国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに，我が国の歴史や伝統を大切にし，国を愛する心情を育てるようにする。 （2）　日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし，平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。 （3）　社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し，社会的事象の意味をより広い視野から考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。
算数	算数的活動を通して，数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え，表現する能力を育てるとともに，算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。	（1）　具体物を用いた活動などを通して，数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに，加法及び減法の意味について理解し，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 （2）　具体物を用いた活動などを通して，量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね，量の大きさについての感覚を豊かにする。 （3）　具体物を用いた活動などを通して，図形についての理解の基礎となる経験を重ね，図形についての感覚を豊かにする。 （4）　具体物を用いた活動などを通して，数量やその関係を言葉，数，式，図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。	（1）　具体物を用いた活動などを通して，数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに，加法及び減法についての理解を深め，用いることができるようにする。また，乗法の意味について理解し，その計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 （2）　具体物を用いた活動などを通して，長さや体積などの単位と測定について理解できるようにし，量の大きさについての感覚を豊かにする。 （3）　具体物を用いた活動などを通して，三角形や四角形などの図形について理解できるようにし，図形についての感覚を豊かにする。 （4）　具体物を用いた活動などを通して，数量やその関係を言葉，数，式，図，表，グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。	（1）　加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに，乗法についての理解を深め，適切に用いることができるようにする。また，除法の意味について理解し，その計算の仕方を考え，用いることができるようにする。さらに，小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにする。 （2）　長さ，重さ及び時間の単位と測定について理解できるようにする。 （3）　図形を構成する要素に着目して，二等辺三角形や正三角形などの図形について理解できるようにする。 （4）　数量やその関係を言葉，数，式，図，表，グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。	（1）　除法についての理解を深め，適切に用いることができるようにする。また，小数及び分数の意味や表し方についての理解を深め，小数及び分数についての加法及び減法の意味を理解し，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。さらに，概数について理解し，目的に応じて用いることができるようにする。 （2）　面積の単位と測定について理解し，図形の面積を求めることができるようにするとともに，角の大きさの単位と測定について理解できるようにする。 （3）　図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し，平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について理解できるようにする。 （4）　数量やその関係を言葉，数，式，図，表，グラフなどに表したり調べたりすることができるようにする。	（1）　整数の性質についての理解を深める。また，小数の乗法及び除法や分数の加法及び減法の意味についての理解を深め，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 （2）　三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を求めることができるようにする。また，測定値の平均及び異種の二つの量の割合について理解できるようにする。 （3）　平面図形についての理解を深めるとともに，角柱などの立体図形について理解できるようにする。 （4）　数量の関係を考察するとともに，百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることができるようにする。	（1）　分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。 （2）　円の面積及び角柱などの体積を求めることができるようにするとともに，速さについて理解し，求めることができるようにする。 （3）　縮図や拡大図，対称な図形について理解し，図形についての理解を深める。 （4）　比や比例について理解し，数量の関係の考察に関数の考えを用いることができるようにするとともに，文字を用いて式に表すことができるようにする。また，資料の散らばりを調べ統計的に考察することができるようにする。
理科	自然に親しみ，見通しをもって観察，実験などを行い，問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに，自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り，科学的な見方や考え方を養う。			（1）　物の重さ，風やゴムの力並びに光，磁石及び電気を働かせたときの現象を比較しながら調べ，見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して，それらの性質や働きについての見方や考え方を養う。 （2）　身近に見られる動物や植物，日なたと日陰の地面を比較しながら調べ，見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して，生物を愛護する態度を育てるとともに，生物の成長のきまりや体のつくり，生物と環境とのかかわり，太陽と地面の様子との関係についての見方や考え方を養う。	（1）　空気や水，物の状態の変化，電気による現象を力，熱，電気の働きと関係付けながら調べ，見いだした問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して，それらの性質や働きについての見方や考え方を養う。 （2）　人の体のつくり，動物の活動や植物の成長，天気の様子，月や星の位置の変化を運動，季節，気温，時間などと関係付けながら調べ，見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して，生物を愛護する態度を育てるとともに，人の体のつくりと運動，動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり，気象現象，月や星の動きについての見方や考え方を養う。	（1）　物の溶け方，振り子の運動，電磁石の変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べ，見いだした問題を計画的に追究したりものづくりをしたりする活動を通して，物の変化の規則性についての見方や考え方を養う。 （2）　植物の発芽から結実までの過程，動物の発生や成長，流水の様子，天気の変化を条件，時間，水量，自然災害などに目を向けながら調べ，見いだした問題を計画的に追究する活動を通して，生命を尊重する態度を育てるとともに，生命の連続性，流水の働き，気象現象の規則性についての見方や考え方を養う。	（1）　燃焼，水溶液，てこ及び電気による現象についての要因や規則性を推論しながら調べ，見いだした問題を計画的に追究したりものづくりをしたりする活動を通して，物の性質や規則性についての見方や考え方を養う。 （2）　生物の体のつくりと働き，生物と環境，土地のつくりと変化の様子，月と太陽の関係を推論しながら調べ，見いだした問題を計画的に追究する活動を通して，生命を尊重する態度を育てるとともに，生物の体の働き，生物と環境とのかかわり，土地のつくりと変化のきまり，月の位置や特徴についての見方や考え方を養う。
生活	具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，自立への基礎を養う。	（1）　自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などとのかかわりに関心をもち，地域のよさに気付き，愛着をもつことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，安全で適切な行動ができるようにする。 （2）　自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち，自然のすばらしさに気付き，自然を大切にしたり，自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。 （3）　身近な人々，社会及び自然とのかかわりを深めることを通して，自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活することができるようにする。 （4）　身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて，言葉，絵，動作，劇化などの方法により表現し，考えることができるようにする。				
音楽	表現及び鑑賞の活動を通して，音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに，音楽活動の基礎的な能力を培い，豊かな情操を養う。	（1）　楽しく音楽にかかわり，音楽に対する興味・関心をもち，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。 （2）　基礎的な表現の能力を育て，音楽表現の楽しさに気付くようにする。 （3）　様々な音楽に親しむようにし，基礎的な鑑賞の能力を育て，音楽を味わって聴くようにする。		（1）　進んで音楽にかかわり，音楽活動への意欲を高め，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。 （2）　基礎的な表現の能力を伸ばし，音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。 （3）　様々な音楽に親しむようにし，基礎的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽を味わって聴くようにする。	（1）　創造的に音楽にかかわり，音楽活動への意欲を高め，音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。 （2）　基礎的な表現の能力を高め，音楽表現の喜びを味わうようにする。 （3）　様々な音楽に親しむようにし，基礎的な鑑賞の能力を高め，音楽を味わって聴くようにする。	
図工	表現及び鑑賞の活動を通して，感性を働かせながら，つくりだす喜びを味わうようにするとともに，造形的な創造活動の基礎的な能力を培い，豊かな情操を養う。	（1）　進んで表したり見たりする態度を育てるとともに，つくりだす喜びを味わうようにする。 （2）　造形活動を楽しみ，豊かな発想をするなどして，体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。 （3）　身の回りの作品などから，面白さや楽しさを感じ取るようにする。		（1）　進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに，つくりだす喜びを味わうようにする。 （2）　材料などから豊かな発想をし，手や体全体を十分に働かせ，表し方を工夫し，造形的な能力を伸ばすようにする。 （3）　身近にある作品などから，よさや面白さを感じ取るようにする。	（1）　創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに，つくりだす喜びを味わうようにする。 （2）　材料などの特徴をとらえ，想像力を働かせて発想し，主題の表し方を構想するとともに，様々な表し方を工夫し，造形的な能力を高めるようにする。 （3）　親しみのある作品などから，よさや美しさを感じ取るとともに，それらを大切にするようにする。	
家庭	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに，家庭生活を大切にする心情をはぐくみ，家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。					（1）　衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して，自分の成長を自覚するとともに，家庭生活への関心を高め，その大切さに気付くようにする。 （2）　日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，身近な生活に活用できるようにする。 （3）　自分と家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい，家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	
体育	心と体を一体としてとらえ，適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り，楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	（1）　簡単なきまりや活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに，その基本的な動きを身に付け，体力を養う。 （2）　だれとでも仲よくし，健康・安全に留意して意欲的に運動をする態度を育てる。		（1）　活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに，その基本的な動きや技能を身に付け，体力を養う。 （2）　協力，公正などの態度を育てるとともに，健康・安全に留意し，最後まで努力して運動をする態度を育てる。 （3）　健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし，身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。	（1）　活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに，その特性に応じた基本的な技能を身に付け，体力を高める。 （2）　協力，公正などの態度を育てるとともに，健康・安全に留意し，自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。 （3）　心の健康，けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし，健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。	

資料２②　中高各教科目標一覧

教科	目標		1年	2年	3年	教科	目標	科目	
国語	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		（1） 目的や場面に応じ，日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力，話し手の意図を考えながら聞く能力，話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。 （2） 目的や意図に応じ，日常生活にかかわることなどについて，構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに，進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。　（3） 目的や意図に応じ，様々な本や文章などを読み，内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに，読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	（1） 目的や場面に応じ，社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力，考えを比べながら聞く能力，相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。 （2） 目的や意図に応じ，社会生活にかかわることなどについて，構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに，文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。 （3） 目的や意図に応じ，文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力，広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに，読書を生活に役立てようとする態度を育てる。	（1） 目的や場面に応じ，社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力，表現の工夫を評価して聞く能力，課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。 （2） 目的や意図に応じ，社会生活にかかわることなどについて，論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに，文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。 （3） 目的や意図に応じ，文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。	国語	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	国語総合	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
								国語表現	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，言語感覚を磨き，進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
								現代文A	近代以降の様々な文章を読むことによって，我が国の言語文化に対する理解を深め，生涯にわたって読書に親しみ，国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
								古典A	古典としての古文と漢文，古典に関連する文章を読むことによって，我が国の伝統と文化に対する理解を深め，生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。
社会	広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	地理的分野	（1） 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め，広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ，地理的な見方や考え方の基礎を培い，我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。 （2） 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ，それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し，地域的特色や地域の課題をとらえさせる。 （3） 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し，それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること，また，それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。 （4） 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め，様々な資料を適切に選択，活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる			地理歴史	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。	地理A	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景，日常生活との関連を踏まえて考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
		歴史的分野	（1） 歴史的事象に対する関心を高め，我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解させ，それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに，我が国の歴史に対する愛情を深め，国民としての自覚を育てる。 （2） 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を，その時代や地域との関連において理解させ，尊重する態度を育てる。 （3） 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ，我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに，他民族の文化，生活などに関心をもたせ，国際協調の精神を養う。 （4） 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め，様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。						世界史A	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
		公民的分野	（1） 個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ，民主主義に関する理解を深めるとともに，国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。 （2） 民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて，個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め，現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに，社会の諸問題に着目させ，自ら考えようとする態度を育てる。 （3） 国際的な相互依存関係の深まりの中で，世界平和の実現と人類の福祉の増大のために，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。 （4） 現代の社会的事象に対する関心を高め，様々な資料を適切に収集，選択して多面的・多角的に考察し，事実を正確にとらえ，公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。			公民	広い視野に立って，現代の社会について主体的に考察させ，理解を深めさせるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を育て，平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。	現代社会	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて，広い視野に立って，現代の社会と人間についての理解を深めさせ，現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
数学	数学的活動を通して，数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め，数学的な表現や処理の仕方を習得し，事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに，数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し，それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。		（1） 数を正の数と負の数まで拡張し，数の概念についての理解を深める。また，文字を用いることや方程式の必要性と意味を理解するとともに，数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり，一元一次方程式を用いたりする能力を培う。 （2） 平面図形や空間図形についての観察，操作や実験などの活動を通して，図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに，論理的に考察し表現する能力を培う。 （3） 具体的な事象を調べることを通して，比例，反比例についての理解を深めるとともに，関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。 （4） 目的に応じて資料を収集して整理し，その資料の傾向を読み取る能力を培う。	（1） 文字を用いた式について，目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに，連立二元一次方程式について理解し用いる能力を培う。 （2） 基本的な平面図形の性質について，観察，操作や実験などの活動を通して理解を深めるとともに，図形の性質の考察における数学的な推論の必要性と意味及びその方法を理解し，論理的に考察し表現する能力を養う。 （3） 具体的な事象を調べることを通して，一次関数について理解するとともに，関数関係を見いだし表現し考察する能力を養う。 （4） 不確定な事象を調べることを通して，確率について理解し用いる能力を培う。	（1） 数の平方根について理解し，数の概念についての理解を深める。また，目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を伸ばすとともに，二次方程式について理解し用いる能力を培う。 （2） 図形の相似，円周角と中心角の関係や三平方の定理について，観察，操作や実験などの活動を通して理解し，それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに，図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 （3） 具体的な事象を調べることを通して，関数　について理解するとともに，関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。 （4） 母集団から標本を取り出し，その傾向を調べることで，母集団の傾向を読み取る能力を培う。	数学	数学的活動を通して，数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め，事象を数学的に考察し表現する能力を高め，創造性の基礎を培うとともに。数学のよさを認識し，それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。	数Ⅰ	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
								数Ⅱ	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。
								数A	場合の数と確率，整数の性質又は図形の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
理科	自然の事物・現象に進んでかかわり，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な見方や考え方を養う。	第1分野	（1） 物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり，その中に問題を見いだし意欲的に探究する活動を通して，規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。 （2） 物理的な事物・現象についての観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，身近な物理現象，電流とその利用，運動とエネルギーなどについて理解させ，これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。 （3） 化学的な事物・現象についての観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，身の回りの物質，化学変化と原子・分子，化学変化とイオンなどについて理解させ，これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。 （4） 物質やエネルギーに関する事物・現象を調べる活動を行い，これらの活動を通して科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め，科学的に考える態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。			理科	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め，科学的な自然観を育成する。	科学と人間生活	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察，実験などを通して理解させ，科学的な見方や考え方を養うとともに，科学に対する興味・関心を高める。
		第2分野	（1） 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり，その中に問題を見いだし意欲的に探究する活動を通して，多様性や規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。 （2） 生物や生物現象についての観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，生物の生活と種類，生命の連続性などについて理解させ，これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。 （3） 地学的な事物・現象についての観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，大地の成り立ちと変化，気象とその変化，地球と宇宙などについて理解させ，これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。 （4） 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象を調べる活動を行い，これらの活動を通して生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を育て，自然を総合的に見ることができるようにする。						化学基礎	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を育てるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。
								生物基礎	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。
音楽	（1） 活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに，その特性に応じた基本的な技能を身に付け，体力を高める。 （2） 協力，公正などの態度を育てるとともに，健康・安全に留意し，自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。 （3） 心の健康，けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし，健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。		（1） 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 （2） 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身に付け，創意工夫して表現する能力を育てる。 （3） 多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	（1） 音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を高め，音楽によって生活を明るく豊かなものにし，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 （2） 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，表現の技能を伸ばし，創意工夫して表現する能力を高める。 （3） 多様な音楽に対する理解を深め，幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。	芸術	芸術の幅広い活動を通して，生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，芸術の諸能力を伸ばし，芸術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。	音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。
								音楽Ⅱ	音楽の諸活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。
美術	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，美術の基礎的な能力を伸ばし，美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。		（1） 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い，心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 （2） 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め，豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け，意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 （3） 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ，美術文化に対する関心を高め，よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。	（1） 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め，心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 （2） 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め，独創的・総合的な見方や考え方を培い，豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し，創造的に表現する能力を伸ばす。 （3） 自然の造形，美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め，心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち，よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。			美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して，美的体験を豊かにし，生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし，美術文化についての理解を深める。
								美術Ⅱ	美術の創造的な諸活動を通して，美的体験を豊かにし，生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし，美術文化についての理解を深める。
保健体育	心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。	体育	（1） 運動の合理的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに，知識や技能を身に付け，運動を豊かに実践することができるようにする。 （2） 運動を適切に行うことによって，体力を高め，心身の調和的発達を図る。 （3） 運動における競争や協同の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに，健康・安全に留意し，自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。	（1） 運動の合理的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを味わうとともに，知識や技能を高め，生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。 （2） 運動を適切に行うことによって，自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て，心身の調和的発達を図る。 （3） 運動における競争や協同の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画するなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。		保健体育	心と体を一体としてとらえ，健康・安全や運動についての理解と運動の合理的，計画的な実践をして，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。	体育	運動の合理的，計画的な実践を通して，知識を深めるとともに技能を高め，運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし，自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て，公正，協力，責任，参画などに対する意欲を高め，健康・安全を確保して，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
		保健	個人生活における健康・安全に関する理解を通して，生涯を通じて自らの健康を適切に管理し，改善していく資質や能力を育てる。					保健	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし，生涯を通じて自らの健康を適切に管理し，改善していく資質や能力を育てる。
技術家庭	生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して，生活と技術とのかかわりについて理解を深め，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。	技術分野	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。			情報	情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ，情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに，社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ，社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。	社会と情報	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ，情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集，処理，表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い，情報社会に積極的に参画する態度を育てる。
		家庭分野	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。			家庭	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに，生活に必要な知識と技術を習得させ，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。	家庭総合	人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
外国語	外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。		（1） 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 （2） 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。 （3） 英語を読むことに慣れ親しみ，初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。 （4） 英語で書くことに慣れ親しみ，初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。			外国語	外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	コミュニケーション英語基礎	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどの基礎的な能力を養う。
								コミュニケーション英語Ⅰ	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
								英語表現Ⅰ	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
								英語表現Ⅱ	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
								英語会話	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，身近な話題について会話する能力を養う。

資料３

知的教科の目標・段階・内容の系列一覧

生活

小学部１段階

日常生活の基本的な習慣を身に付け，集団生活への参加に必要な態度や技能を養うとともに，自分と身近な社会や自然とのかかわりについて関心を深め，自立的な生活をするための基礎的能力と態度を育てる。

(1) 日常生活に必要な身辺処理を求めたり，教師と一緒に行ったりする。
(2) 教師と一緒に健康で安全な生活をする。
(3) 教師や友達と同じ場所で遊ぶ。
(4) 教師と一緒に身近な人に簡単なあいさつをする。
(5) 教師と一緒に集団活動に参加する。
(6) 教師と一緒に簡単な手伝いや仕事をする。
(7) 教師と一緒に日常生活の簡単なきまりに従って行動する。
(8) 教師と一緒に日課に沿って行動する。
(9) 教師と一緒に簡単な買い物をする。
(10) 身近な自然の中で，教師と一緒に遊んだり，自然や生き物に興味や関心をもったりする。
(11) 家族や家の近所などの様子に興味や関心をもつ。
(12) 身近な公共施設や公共物などを教師と一緒に利用する。

小学部２段階

(1) 教師の援助を受けながら日常生活に必要な身辺処理をする。
(2) 教師の援助を受けながら健康で安全な生活をする。
(3) 教師や友達と簡単なきまりのある遊びをする。
(4) 教師の援助を受けながら身近な人にあいさつや話をするなどのかかわりをもつ。
(5) 集団活動に参加し，簡単な係活動をする。
(6) 教師の援助を受けながら簡単な手伝いや仕事をする
(7) 日常生活に必要な簡単なきまりやマナーに気付き，それらを守って行動する。
(8) 教師の援助を受けながら，日課に沿って行動する。
(9) 決まった額の買い物をして，金銭の必要なことが分かる。
(10) 身近な自然の中で遊んだり，動植物を育てたりして自然や生き物への興味や関心を深める。
(11) 家族の役割や身近な地域の様子に興味や関心をもち，自分と家庭や社会とのかかわりに気　付く。
(12) 教師の援助を受けながら身近な公共施設や公共物などを利用する。

小学部３段階

(1) 日常生活に必要な身辺処理を自分でする。
(2) 健康や身体の変化に関心をもち，健康で安全な生活をするように心掛ける。
(3) 友達とかかわりをもち，きまりを守って仲良く遊ぶ。
(4) 身近な人と自分とのかかわりが分かり，簡単な応対などをする。
(5) 進んで集団生活に参加し，簡単な役割を果たす。
(6) 日常生活で簡単な手伝いや仕事を進んでする。
(7) 日常生活に必要な簡単なきまりやマナーが分かり，それらを守って行動する。
(8) 日常生活でのおよその予定が分かり，見通しをもって行動する。
(9) 簡単な買い物をして，金銭の取扱いに慣れる。
(10) 身近な自然の事物・現象に興味や関心を深め，その特徴や変化の様子を知る。
(11) 家庭や社会の様子に興味や関心を深め，その働きを知る。
(12) 身近な公共施設や公共物などを利用し，その働きを知る。

中学部段階

社会

社会の様子，働きや移り変わりについての関心と理解を深め，社会生活に必要な基礎的な能力と態度を育てる。

(1) 集団生活の中での役割を理解し，自分の意見を述べたり，相手の立場を考えたりして，互いに協力し合う。
(2) 社会生活に必要ないろいろなきまりがあることを知り，それらを守る。
(3) 日常生活に関係の深い公共施設や公共物などの働きが分かり，それらを利用する。
(4) 日常生活で経験する社会の出来事や通信，メディアなどに興味や関心をもち，生産，消費などの経済活動に関する初歩的な事柄を理解する。
(5) 自分が住む地域を中心に，我が国のいろいろな地域の様子や社会の移り変わりに関心をもつ。
(6) 外国の様子や世界の出来事などに興味や関心をもつ。

理科

日常生活に関係の深い自然の仕組みや働きなどに関する初歩的な事柄についての理解を図り，科学的な見方や考え方を養うとともに，自然を大切にする態度を育てる。

(1) 人の体の主なつくりや働きに関心をもつ。
(2) 身近な生物の特徴，その成長及び活動の様子に関心をもつ。
(3) 日常生活に関係の深い事物や機械・器具の仕組みと扱いについての初歩的な知識をもつ。
(4) 自然の事物・現象についての興味を広げ，日常生活との関係を知る。

職業・家庭

明るく豊かな職業生活や家庭生活が大切なことに気付くようにするとともに，職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識と技能の習得を図り，実践的な態度を育てる。

(1) 働くことに関心をもち，作業や実習に参加し，働く喜びを味わう。
(2) 職業に就くためには，基礎的な知識と技能が必要であることを理解する。
(3) 道具や機械，材料の扱い方などが分かり，安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。
(4) 自分の役割を理解し，他の者と協力して作業や実習をする。
(5) 産業現場等における実習を通して，いろいろな職業や職業生活，道路に関心をもつ。
(6) 家族がそれぞれの役割を分担していることを理解し，楽しい家庭づくりをするために協力する。
(7) 家庭生活に必要な衣服とその着方，食事や調理，住まいや暮らし方などに関する基礎的な知識と技能を身に付ける。
(8) 職業生活や家庭生活で使われるコンピュータ等の情報機器の初歩的な扱いに慣れる。
(9) 家庭生活における余暇の過ごし方が分かる。

高等部１段階

社会

社会の様子，働きや移り変わりについての関心と理解を一層深め，社会生活に必要な能力と態度を育てる。

（1）相手や自分の立場を理解し，互いに協力して役割や責任を果たす。
（2）社会や国にはいろいろなきまりがあることを知り，それらを適切に守る。
（3）生活に関係の深い公共施設や公共物などの働きを理解し，それらを適切に利用する。
（4）政治，経済，文化などの社会的事象や情報メディアなどに興味や関心をもち，生産，消費などの経済活動に関する基本的な事柄を理解する。
（5）我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子を理解し，社会の変化や伝統に関心をもつ。
（6）外国の自然や人々の生活の様子，世界の出来事に関心をもつ。

理科

自然の仕組みや働きなどについての理解を深め，科学的な見方や考え方を養うとともに，自然を大切にする態度を育てる。

（1）人の体の主なつくりや働きを理解する。
（2）生物の特徴，その成長や活動の様子について理解し，生命の大切なことを知る。
（3）生活に関係のある物質の性質や機械・器具の構造及び働きについて理解し，適切に取り扱う。
（4）自然の事物・現象についての初歩的な理解を図るとともに，自然と生活との関係を理解する。

職業

勤労の意義について理解するとともに，職業生活に必要な能力を高め，実践的な態度を育てる。

（1）働くことの意義を理解し，作業や実習に取り組み，働く喜びを味わう。
（2）道具や機械の操作に慣れるとともに，材料や製品の扱い方を身に付け，安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。
（3）自分の分担に責任をもち，他の者と協力して作業や実習をする。
（4）適切な進路選択のために，いろいろな職業や職業生活について知る。
（5）産業現場等における実習を通して，実際的な職業生活を経験する。
（6）職業生活に必要な健康管理や余暇の有効な過ごし方が分かる。
（7）職場で使われる機械やコンピュータ等の情報機器などの簡単な操作をする。

家庭

明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め，実践的な態度を育てる。

（1）家族がそれぞれの役割を果たしていることを理解し，楽しい家庭づくりのための自分の役割を果たす。
（2）家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方が分かる。
（3）家庭生活で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり，安全や衛生に気を付けながら実習をする。
（4）被服，食物，住居などに関する実習を通して，実際的な知識と技能を習得する。
（5）保育や家庭看護などに関心をもつ。

情報

コンピュータ等の情報機器の操作の習得を図り，生活に必要な情報を適切に活用する基礎的な能力や態度を育てる。

（1）日常生活の中で情報やコンピュータ等の情報機器が果たしている役割に関心をもつ。
（2）コンピュータ等の情報機器に関心をもち，簡単な操作をする。
（3）各種のソフトウェアに関心をもち，実習をする。
（4）コンピュータ等の情報機器を利用した情報の収集，処理及び発信に関心をもつ。
（5）情報の取扱いに関するきまりやマナーがあることを知る。

高等部２段階

社会

（1）個人と社会の関係が分かり，社会の一員としての自覚をもつ。
（2）社会の慣習，生活に関係の深い法や制度を知り，必要に応じて生活に生かす。
（3）公共施設や公共物などの働きについての理解を深め，それらを適切に利用する。
（4）政治，経済，文化などの社会的事象や情報メディアなどに興味や関心を深め，生産，消費などの経済活動に関する事柄を理解する。
（5）地図や各種の資料などを活用し，我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子，社会の変化や伝統を知る。
（6）各種の資料を活用し，外国の自然や人々の生活の様子，世界の出来事について知る。

理科

（1）人の体の主なつくりや働きについての理解を深めるとともに，人の成長や環境とのかかわりについて関心をもつ。
（2）生物とそれを取り巻く自然環境についての理解を深め，生命の大切なことを知る。
（3）様々な物質の性質や機械・器具の種類，構造及び働きについて理解し，適切に取り扱う。
（4）自然の事物・現象についての理解を図るとともに，自然と生活との関係について理解を深める。

職業

（1）働くことの意義について理解を深め，積極的に作業や実習に取り組み，職場に必要な態度を身に付ける。
（2）いろいろな道具や機械の仕組み，操作などを理解し，材料や製品の管理を適切に行い，安全や衛生に気を付けながら正確に効率よく作業や実習をする。
（3）作業の工程全体を理解し，自分の分担に責任をもち，他の者と協力して作業や実習をする。
（4）職業生活に必要な実際的な知識を深める。
（5）産業現場等における実習を通して，職業生活に必要な事柄を理解する。
（6）職業生活に必要な健康管理や余暇の計画的な過ごし方について の理解を深める。
（7）職場で使われる機械やコンピュータ等の情報機器などの操作をする。

家庭

（1）家庭の機能や家族の役割を理解し，楽しい家庭づくりのために積極的に役割を果たす。
（2）家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方について理解を深める。
（3）家庭生活で使用する道具や器具を効率的に使用し，安全や衛生に気を付けながら実習をする。
（4）被服，食物，住居などに関する実習を通して，健康で安全な生活に必要な実際的な知識と技能を習得する。
（5）保育や家庭看護などに関する基礎的な知識と技能を習得する。

情報

（1）生活の中で情報やコンピュータ等の情報機器が果たしている役割を知り，それらの活用に関心をもつ。
（2）コンピュータ等の情報機器の扱い方が分かり，操作する。
（3）各種のソフトウェアの操作に慣れ，実習をする。
（4）コンピュータ等の情報機器を利用した情報の収集，処理及び発信の方法が分かり，実際に活用する。
（5）情報の取扱いに関するきまりやマナーを理解し，それらを守って実習する。

国語

小学部１段階

日常生活に必要な国語を理解し，伝え合う力を養うとともに，それらを表現する能力と態度を育てる。

(1) 教師の話を聞いたり，絵本などを読んでもらったりする。
(2) 教師などの話し掛けに応じ，表情，身振り，音声や簡単な言葉で表現する。
(3) 教師と一緒に絵本などを楽しむ。
(4) いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。

小学部２段階

(1) 教師や友達などの話し言葉に慣れ，簡単な説明や話し掛けが分かる。
(2) 見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。
(3) 文字などに関心をもち，読もうとする。
(4) 文字を書くことに興味をもつ。

小学部３段階

(1) 身近な人の話を聞いて，内容のあらましが分かる。
(2) 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。
(3) 簡単な語句や短い文などを正しく読む。
(4) 簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。

中学部段階

日常生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを活用する能力と態度を育てる。

(1) 話のおよその内容を聞き取る。
(2) 見聞きしたことや経験したこと，自分の意見などを相手に分かるように話す。
(3) 簡単な語句，文及び文章などを正しく読む。
(4) 簡単な手紙や日記などの内容を順序立てて書く。

高等部１段階

生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

（1）話の内容の要点を落とさないように聞き取る。
（2）目的や場に応じて要点を落とさないように話す。
（3）いろいろな語句，文及び文章を正しく読み，内容を読み取る。
（4）手紙や日記などを目的に応じて正しく書く。

高等部２段階

（1）話し手の意図や気持ちを考えながら，話の内容を適切に聞き取る。
（2）自分の立場や意図をはっきりさせながら，相手や目的，場に応じて適切に話す。
（3）目的や意図などに応じて文章の概要や要点などを適切に読み取る。
（4）相手や目的に応じていろいろな文章を適切に書く。

算数

小学部１段階

具体的な操作などの活動を通して，数量や図形などに関する初歩的なことを理解し，それらを扱う能力と態度を育てる。

(1) 具体物があることが分かり，見分けたり，分類したりする。
(2) 身近にあるものの大小や多少などに関心をもつ。
(3) 身近にあるものの形の違いに気付く。

小学部２段階

(1) 身近にある具体物を数える。
(2) 身近にあるものの長さやかさなどを比較する。
(3) 基本的な図形や簡単な図表に関心をもつ。
(4) 一日の時の移り変わりに気付く。

小学部３段階

(1) 初歩的な数の概念を理解し，簡単な計算をする。
(2) 身近にあるものの重さや広さなどが分かり，比較する。
(3) 基本的な図形が分かり，その図形を描いたり，簡単な図表を作ったりする。
(4) 時計や暦に関心をもつ。

中学部段階

日常生活に必要な数量や図形などに関する初歩的な事柄についての理解を深め，それらを扱う能力と態度を育てる。

(1) 日常生活における初歩的な数量の処理や計算をする。
(2) 長さ・重さなどの単位が分かり，測定する。
(3) 図形の特徴や図表の内容を理解し，作成する。
(4) 金銭や時計・暦などの使い方に慣れる。

高等部１段階

生活に必要な数量や図形などに関する理解を深め，それらを活用する能力と態度を育てる。

（1）日常生活に必要な数量の処理や計算をする。
（2）長さ・重さなどの単位の関係が分かり，測定する。
（3）図形を正しく作図したり，表やグラフを工夫して作ったりする。
（4）金銭や時計・暦などの正しい使い方が分かる。

高等部２段階

（1）生活に必要な数量の処理や計算をする。
（2）長さ・重さ・量などの測定方法を理解し，活用する。
（3）様々な図形，表やグラフを理解し，工夫して使う。
（4）生活に必要な金銭や時計・暦などを工夫して使う。

音楽

小学部１段階

表現及び鑑賞の活動を通して，音楽についての興味や関心をもち，その美しさや楽しさを味わうようにする。

(1) 音楽が流れている中で体を動かして楽しむ。
(2) 音の出るおもちゃで遊んだり，扱いやすい打楽器などでいろいろな音を鳴らしたりして楽しむ。

小学部２段階

(1) 好きな音や音楽を聴いて楽しむ。
(2) 友達や教師とともに簡単なリズムの特徴を感じ取って身体を動かす。
(3) 打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする。
(4) 好きな歌ややさしい旋律の一部分を楽しく歌う。

小学部３段階

(1) 身近な人の歌や演奏などを聴き，いろいろな音楽に関心をもつ。
(2) 音楽に合わせて簡単な身体表現をする。
(3) 旋律楽器に親しみ，簡単な楽譜を見ながらリズム合奏をする。
(4) やさしい歌を伴奏に合わせながら，教師や友達などと一緒に歌ったり，一人で歌ったりする。

中学部段階

表現及び鑑賞の能力を培い，音楽についての興味や関心を深め，生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。

(1) いろいろな音楽を楽器の音色などに関心をもって聴く
(2) 音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり，リズムに合わせて身体表現をしたりする。
(3) 打楽器や旋律楽器などを使って，自由に演奏したり，合奏や独奏をしたりする。
(4) 歌詞やリズムなどに気を付けて，独唱，斉唱，簡単な輪唱などをする。

高等部１段階

表現及び鑑賞の能力を伸ばし，音楽活動への意欲を高めるとともに，生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。

（1）いろいろな音楽をその美しさなどを感じ取りながら鑑賞する。
（2）音楽を聴いて曲の特徴などを感じ取り，創造的に身体の動きで表現したりする。
（3）打楽器や旋律楽器などに親しみ，その演奏の仕方に慣れ，気持ちを込めて合奏や独奏をする。
（4）歌詞の内容を感じ取って，独唱，斉唱，簡単な合唱などをする。

高等部２段階

（1）いろいろな音楽をその美しさなどを味わいながら鑑賞する。
（2）音楽を聴いて感じたイメージを創造的に身体表現する。
（3）打楽器，旋律楽器などの演奏の仕方に慣れ，楽器の特色や音色を生かしながら合奏や独奏をする。
（4）独唱，斉唱，二部合唱，オペレッタなどによる表現に慣れ，歌詞の内容や曲想などを味わいながら歌う。

図画工作

小学部１段階

初歩的な造形活動によって，造形表現についての興味や関心をもち，表現の喜びを味わうようにする。

(1) かいたり，つくったり，飾ったりすることに関心をもつ。
(2) 土，木，紙などの身近な材料をもとに造形遊びをする。

小学部２段階

(1)見たことや感じたことを絵にかいたり，つくったり，それを飾ったりする。
(2) 粘土，クレヨン，はさみ，のりなどの身近な材料や用具を親しみながら使う。

小学部３段階

(1) 見たこと，感じたことや想像したことを，工夫して絵にかいたり，つくったり，それを飾ったり，使ったりする。
(2) いろいろな材料や用具を工夫しながら，目的に合わせて使う。
(3) 友達と作品を見せ合ったり，造形品などの形や色，表し方の面白さなどに気付いたりする。

中学部段階

造形活動によって，表現及び鑑賞の能力を培い，豊かな情操を養う。

(1) 経験や想像をもとに，計画を立てて，絵をかいたり，作品をつくったり，それらを飾ったりする。
(2) いろいろな材料や用具などの扱い方を理解して使う。
(3) 自然や造形品の美しさなどに親しみをもつ。

高等部１段階

造形活動によって，表現及び鑑賞の能力を高め，豊かな情操を養う。

（1）経験や想像をもとに創造的に絵をかいたり，作品をつくったり，それらを飾ったりする。
（2）いろいろな材料の性質や用具などの扱い方を理解し，工夫して使う。
（3）自然や優れた造形品を鑑賞し，その美しさなどを味わう。

高等部２段階

（1）経験や想像をもとに，様々な技法などを用いて，創造的に絵をかいたり，作品をつくったり，それらを飾ったりする。
（2）いろいろな材料の性質や用具などの扱い方を理解し，適切に使う。
（3）自然や優れた造形品を鑑賞し，美しさなどを味わうとともに，地域の伝統工芸品に関心をもつ。

体育

小学部１段階

適切な運動の経験を通して，健康の保持増進と体力の向上を図り，楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

(1) 教師と一緒に，楽しく手足を動かしたり，歩く，走るなどの基本的な運動をしたりする。
(2) いろいろな器械・器具・用具を使った遊び，表現遊び，水遊びなどを楽しく行う。
(3) 簡単な合図や指示に従って，楽しく運動をする。

小学部２段階

(1) 歩く，走る，跳ぶなどの基本的な運動に慣れる。
(2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動，表現運動，水の中での運動などに親しむ。
(3) 簡単なきまりを守り，友達とともに安全に運動をする。

小学部３段階

(1) 歩く，走る，跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを変えるなどしていろいろな方法で行う。
(2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動，表現運動，水の中での運動などをする。
(3) いろいろなきまりを守り，友達と協力して安全に運動をする。

中学部段階

適切な運動の経験や健康・安全についての理解を通して，健康の保持増進と体力の向上を図るとともに，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

(1) 体つくり運動，簡単なスポーツ，ダンスなどの運動をする。
(2) きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り，友達と協力して安全に運動をする。
(3) 自分の発育・発達に関心をもったり，健康・安全に関する初歩的な事柄を理解したりする。

高等部１段階

適切な運動の経験や健康・安全についての理解を通して，心身の調和的発達を図り，明るく豊かな生活を営む態度と習慣を育てる。

（1）体つくり運動，いろいろなスポーツ，ダンスなどの運動をする。
（2）きまりやいろいろなスポーツのルールなどを守り，友達と協力して安全に運動をする。
（3）心身の発育・発達に関心をもち，生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解する。

高等部２段階

（1）体つくり運動，いろいろなスポーツ，ダンスなどの運動を通して，体力や技能を高める。
（2）きまりやいろいろなスポーツのルールなどを守り，友達と協力し，進んで安全に運動をする。
（3）心身の発育・発達に応じた適切な行動や生活に必要な健康・安全に関する事柄の理解を深める。

外国語

中学部段階

外国語に親しみ，簡単な表現を通して，外国語や外国への関心を育てる。

(1) 身近な生活の中で見聞きする英語に興味や関心をもつ。
(2) 簡単な英語を使って表現する。
(3) 簡単な英語を使って表現する。

高等部１段階・２段階

外国語でコミュニケーションを図る基礎的な能力や態度を育てるとともに，外国語や外国への関心を深める。

（1）簡単な英語を使って表現したり，やりとりしたりする。
（2）簡単な語，句，文に興味や関心をもつ。
（3）日常生活の中で見聞きする語や句の意味を知る。

（1）初歩的な英語を使って簡単な会話をする。
（2）簡単な語，句，文を書いたり読んだりする。
（3）簡単な語，句，文の意味を知る。

資料４　学習指導案について

①学習指導案に記載する内容

本校の学習指導案は、教科の実態把握から目標設定、評価の設定に至る流れ及び授業の展開を対象とする児童生徒に焦点化して記述することで、グループの研究内容を検証しやすくしている。以下に本校の学習指導案に記載する事項を記す。

項目	記載事項
１　対象の児童生徒について	（１）所属学部　学年　対象者名（イニシャル） （２）障害の状態 ・特に研究授業と関連のある実態を記述する。 （３）各種検査結果とその解釈 ・検査名とその結果及び結果の解釈を記す。 （４）学習到達度について ・学習到達度チェックリストのスコア及びその解釈をスコアの根拠となる行動を基に記す。 ・学習指導要領の段階と内容に照らし合わせてその習得度を記す。 （５）卒業までに身につけてほしい力 ・個別の教育支援計画に記載している、本校の「卒業までに身に付けてほしい力」マトリクスの項目を記す。
２　対象児童生徒の週時程	・対象者の週時程表（時間割）を示し、研究授業で取り上げた教科等の学びの場や時数を明らかにする。
３　指導方針	・２までに記述した内容を踏まえて、該当授業の指導方針を記述する。
４　年間指導計画	・対象の所属する類型の教育課程表を添付する。必要に応じて、単元構成表、学習内容表などの資料も添付する。
５　単元（題材）について	（１）単元（題材）名 （２）単元（題材）設定の理由 ・取り扱う単元（題材）の特徴、学習指導要領における位置づけについて記述する。 ・対象者が所属する学習グループの実態とこれまでの指導の様子を記述する。 ・単元（題材）の指導方針や配慮事項を記述する。 （３）単元の目標 ・本単元において主に取り扱う内容のまとまりを明らかにしつつ、単元の目標を設定する。 （４）単元の指導計画 ・本単元の指導計画及び本時の位置や時間数、各時間にどのような指導を行うか分かるように記述する。 ・一定の期間を通じて同単元で繰り返し指導している内容については、年間指導計画の添付に替える。

６　本時について	（１）本時の目標 ・単元の目標を受け、本時の目標を設定する。 （２）本時の対象者の目標及び評価 ・本時に取り扱う主な内容に対応して目標と評価を設定する。 ・評価は目標に準拠して評価の観点ごとに評価規準と評価基準を設定する。 ・評価の観点は、学習指導要領（例　話す、読む）や学習到達度チェックリスト、本校の学習内容表等で使われている文言を使う。（例：受け止め・対応、操作　など） ・評価基準は A、B、C の基準を設け、客観的に判断することができる記述に努める。 （３）本時の展開 ・本時の展開は、対象者に焦点化して記述する。 ・時間の配分（導入～展開～まとめ）を明らかにし、区切って記述する。 ・学習活動を児童生徒の視点から記述する。 ・学習活動においての評価のポイントを評価規準と評価基準をもとに児童生徒の具体的な姿として記述する。 ・学習活動上必要であったり、評価規準に記載された姿にせまるために必要だったりする指導上の手立てや配慮を記述する。手立てや配慮は特に評価基準と関連する。 ・その他、活用する教材等については、備考欄に記述する。 （４）配置図 ・対象児の学習環境や指導者の配置を記述する。（本報告書の資料では省略）

②指導案の様式

国語科 学習指導案

日　　時　　平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）
　　００：００～００：００（〇校時）
場　　所　　〇〇部〇年〇組教室（〇棟〇階）
対象生徒　　〇〇部〇年〇課程〇類型
　　（男子〇名、女子〇名　計〇名）
指 導 者　　〇〇〇〇（T１）〇〇〇〇（T2）
　　〇〇〇〇（T3）

１　対象の児童生徒について

（１）〇〇部〇年　〇〇

（２）障害の状態

（３）各種検査結果とその解釈

（４）学習到達度について

〇学習到達度チェックリスト

例

	観点	スコア	スコアの根拠となる行動 （スコアを判断した行動を段階・意義に照らして記述する）
国語	受け止め・対応		
	表現・要求		
	見ること		
	操作		

〇学習指導要領の段階と内容

例

（国語）１－（１）教師の話を聞いたり（〇）、絵本などを読んでもらったりする（〇）。
　　１－（２）教師などの話しかけに応じ（△）、表情（△）、身振り（〇）、簡単な音声や言葉で表現する（×）。
　　１－（３）教師と一緒に絵本などを楽しむ（△）。
　　１―（４）いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ（×）。

（5）卒業までに身に付けてほしい力（個別の教育支援計画より）

○

○

2　本児童（生徒）の週時程

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					

3　指導方針

4　年間指導計画

5　単元（題材）について

（1）単元名「　　」

（2）単元設定の理由

（3）単元の目標

例

単元の目標	○

（4）単元の指導計画

例

単元の計画	全　　時間
	時間
	時間
	時間（本時）
	時間

６　本時について

（１）本時の目標

①

②

（２）本時の〇〇さんの目標及び評価

例１

〇〇さんの本時の目標	① ②

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く
評価規準		
評価基準	A B C	A B C

例２

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力 （受け止め・対応、表現・要求）
評価規準		
評価基準	A B C	A B C

（３）本時の展開

例

時間	学習活動	評価のポイントとなる児童生徒の姿	対応した手だてや配慮事項	備考・準備
導入分	①	・ （関心・意欲・態度）	・	
展開分	② ③ ④	・ （受け止め・対応、表現・要求）	・	
まとめ分	⑤ ⑥	・ ・	・ ・	

資料５　研究授業指導案集

○国語：注意・やりとりグループ

国語科 学習指導案

日　　時　　平成２８年１１月　２日（水）
　　１３：３０～１４：０５（６校時）
場　　所　　中学部３年１組教室（３棟１階）
対象生徒　　中学部３年Ⅲ課程Ｃ類型
　　（男子２名、女子１名　計３名）
指 導 者

１　対象の生徒について

（１）中学部３年　A（女）

（２）障害の状態

両上下肢の著しい障害、呼吸器機能の障害、てんかん

本生徒は、気管切開部管理、痰の吸引、経鼻経管栄養の医療的ケアを実施している。気管への痰の流れ込みが多く、自力排痰が難しいときは、学校看護師による吸引が必要である。栄養注入中に眠ることが多く、午後の学習には継続的に取り組むことができていない。学習時は、座位保持車椅子を利用しており、自力で頭部を保持することができる。右手に棒状の物を持たせると握り続けることができるが、自分から手を伸ばして働きかけることは難しい。絵本の読み聞かせをすると、見ることはできるが数秒間で視線を外してしまい、注意の持続が難しい。

（３）各種検査結果とその解釈

検査名：遠城寺式乳幼児分析的発達検査（平成２８年５月１２日実施）

移動運動	０：４．５	手の運動	０：４．５	基本的習慣	０：２．５
対人関係	０：４．５	発　　語	０：０	言 語 理 解	０：０．５

＜解　釈＞

・おおよそ２カ月の発達段階にある。気管切開をしているため、発語は見られず、言語理解については、特に遅れが見られる。

（４）学習到達度について

○本生徒の学習指導要領の段階と内容

（国語）１－（１）教師の話を聞いたり（△）、絵本などを読んでもらったりする（○）。
１－（２）教師などの話しかけに応じ（△）、表情（△）身振り（×）、簡単な音声や言葉で表現する（×）。
１－（３）教師と一緒に絵本などを楽しむ（△）。
１－（４）いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ（×）。

（数学）１－（１）具体物があることが分かり（○）、見分けたり（×）、分類したりする（×）。
１－（２）身近にあるものの大小や多少などに関心をもつ（×）。
１－（３）身近にあるものの形の違いに気付く（×）。

本学習は、国語と数学を１コマ内で指導しているため国語及び数学の実態把握、目標設定、評価を実施した。

○学習到達度チェックリスト

	観点	スコア	スコアの根拠となる行動
国語	受け止め・対応	4	・あやされると笑う（○） →教師が目の前で「わっ」と言って顔を近付けると笑う。 ・声をかけられると表情で応じる（○） →名前を呼ばれた方へ顔を向ける。 ・特定の声によく反応する（○） →母親の呼びかけに笑顔で応じる。
	表現・要求	2	・働きかけられると微笑む（○）→一本橋こちょこちょで笑う。 ・手をわずかに動かす（○）→でんでん太鼓を振って鳴らす。 ・むずかるように泣く（×）
	見ること	2	・人の顔を３秒ほどじっと見る（○） ・物を３秒ほど見る（○） →名前を呼ばれると、呼んだ人をじっと見る。手に持った物をじっと見る。 ・おもちゃを差し出すとそれを見る（○） →目の前でおもちゃを見せるとそれを見る。
	操作	4	・手に触れた物をつかむ（○）→右手で棒状の物をつかむ。 ・さわられると緊張するが、声をかけながらだと緊張しない（○） →教師が「３、２、１」とカウントダウンして体を揺すると笑う。 ・親しい人へ手を伸ばす（×）
数学	外界の知覚認知	2	・音や動き、光に視線・注意を向ける。（○） ・音や光の変化で、行動が止まる。（○） ・目の前の物に焦点が合うと注視をする。（○ →教師が手を叩くと、音がする方へ顔を向ける。光る物を注視する。

＜他生徒の学習到達度チェックリスト＞

	国語				数学
	受け止め･対応	表現・要求	見ること	操作	外界の知覚認知
B	2	2	1	2	2
C	6	6	8	6	6

（５）卒業までに身に付けてほしい力（個別の教育支援計画より）

○日常生活の中で支援を受けながら、楽な姿勢で身近な人と関わり、楽しみを増やす。

2　本生徒の週時程

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	自立活動				
3	美術	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	保健体育
4	音楽	音楽	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習
5	自立活動（食事の指導）				
6	日常生活の指導				
	国語／数学	国語／数学	国語／数学	国語／数学	国語／数学
7		保健体育	特別活動	総合	

3　指導方針

（1）学習到達度チェックリストの目標となるスコアと実態

観点	スコア	スコアの根拠となる行動
受け止め・対応 （聞くこと）	6	・「１、２の３」で３の前で期待する表情をする。（○） →一本橋こちょこちょのこちょこちょの前に期待して笑う。 ・「いけません」などの声で動きがとまるか、表情が変わる。（×） →発声で返事はしないが、教師の手をタッチするなどの行為で返事をすることがある。 ・アーなど簡単な音であれば真似するような行動をする。（×）
表現・要求 （話すこと）	4	・名前を呼ばれると応じる（○）→名前を呼ばれた方へ顔を向ける。 ・「アー」「オー」「ウー」など声を出す（×） ・親しい人やおもちゃなどに向かって、声を出す又は手を伸ばす（×） →棒状のおもちゃを右手の前に提示すると、手を前に出してつかむ。
見ること （読むこと）	4	・親しい人に微笑むなど持続的に注意を集中し見る（△）→母親の顔を見つめる。 ・母親や身近な人を見て、手を伸ばす（×） ・自分の手を見つめる（○）→おもちゃを持っていないときに、自分の右手を見つめる。
操作 （書くこと）	6	・目の前のおもちゃに手を伸ばしつかむ（△）→棒状のおもちゃを右手の前に提示すると、手を前に出してつかむ。 ・握らせるとガラガラ等を握る（○）→棒状のおもちゃを握る。 ・顔にかけられたタオル等を取る（×）

＜他生徒の学習到達度チェックリストの目標となるスコア＞

	国語				算数
	受け止め・対応	表現・要求	見ること	操作	外界の知覚認知
B	4	4	2	2	4
C	6	6	１２	8	8

（2）学びの履歴（国語の内容のまとまり）

	スコア	学習内容	習得状況
聞くこと （指示の理解）	4	③抱いたり話しかけたりしてくれる大人の存在に対して泣き止んだり、顔を向けたりする。 ⑤人が歌っているとじっと聞き入り歌っている人を見つめる。	③目の前で名前を呼ばれると、笑うことがある。 ⑤教師の声がする方へ顔を向け、見つめる。
話すこと （意思の伝達）	2	④関わられている人の方へ視線を向けたり顔を動かしたりする。	④教師が手をたたきながら「こっちだよ」と声掛けをすると、目の前で顔を動かして視線を向ける。
読むこと （視覚刺激への注意）	2	②目の前で関わられている人の顔を３秒ほど見る。 ③目の前で光ったり動いたりする物を３秒ほど見る。	②目の前で名前を呼ばれると、呼んだ人を３秒ほど見る。 ③光る玩具をじっと見る。
書くこと （社会参加）	4	⑦手を出して物をつかむ。	⑦確実ではない。本人の手の近くに提示した棒状の物に触れるとつかむ。

（3）国語の内容のまとまりごとの卒業までに身に付けてほしい力

	スコア	スコアごとのめざす姿	学習内容
聞くこと （指示の理解）	6	⑥パターン化した学習を通して、その場に応じた行動を選択する。	目の前で名前を呼ばれると、視線や発声で応じる。
話すこと （意思の伝達）	4	④視線や表情で身近な大人への関心を示す。	身近な人に向かって、笑ったり身体を動かしたりする。
読むこと （視覚刺激への注意）	4	④目の前の人の顔や物をじっと見る。	いろいろな場所にあるものへ視線を移しながら注視する。
書くこと （社会参加）	6	⑥物を扱うこと（押す、振るなど）を繰り返したり、提示された物に手を出してつかもうとしたりする。	・つかんだ物を振ったり、手を出して物をつかんだりする。 ・握っている物を振って、音が出ることが分かる。

（4）国語の学習内容表より選定した内容

観点	目標スコア	目標スコアに対応する学習内容
聞くこと	6	⑥話す人の顔を見続ける。 ⑧「1、2の3」で3の前に期待する表情をする。
話すこと	4	⑥身近な人に向かって、笑ったり身体を動かしたり声を出したりする。
読むこと	4	⑤いろいろな場所にあるものに視線を移しながら注視する。
書くこと	6	⑦手を出して物をつかむ。 ⑨スイッチに働きかけて、そのものとは違うものから何らかの刺激が起こる（スイッチを押して玩具を動かす）ことが分かる。

4　年間指導計画

※別紙参照（本報告書では省略）

5　単元（題材）について

（1）単元名「おむすびころりん」

（2）単元設定の理由

本学習グループは、3名の生徒で構成されている。AとBは国語の初期段階にあり、提示された物を注視、追視することや、差し出された物に手を伸ばしたりおもちゃをつかんだりなど、目的的な手指の動きを高める必要がある。Cは学習到達度チェックリストのおおよそスコア6～8の段階を目標としているため、パターン化した学習を通して、やりとりを予測する力を高めたり、物を扱うことを繰り返すことで、活動と結果の理解を深めたりする必要がある。

1学期の学習では、絵本の読み聞かせを行った後に、物を介したやりとりを繰り返す学習を行った。絵本「だるまちゃんとてんぐちゃん」に登場する「うちわ」や「帽子」に触れさせたり、持たせたりすることで、つかんで振ったり、目の前に提示された物に注視することができるようになった。2学期は、1学期に取り組んできた絵本の読み聞かせは継続し、ボールを転がす活動や、目の前に提示された具体物に手を伸ばしたり、スイッチを使ったりする活動を取り入れる。これらは、国語の学習内容表の書くこと⑦⑨の内容にあたる活動である。

本単元では、絵本の読み聞かせを行いながら、教師が具体物の操作を目の前で行うことで、期待感を持たせ、注視、追視の力を高められるようにしたい。また、「おむすびころりん」で繰り返し出てくるフレーズを音声出力装置に入力しておき、生徒がスイッチを押すことを繰り返すことで、やりとりを予測する力を高めたい。読み聞かせの後に、実際に具体物に触れたり、操作したりすることで、教師の働きかけに適切に応じたり、体を動かして人や物に働きかけたりする力を育てたい。具体物を使った活動の最後には、生徒が好きな物を扱うことができるようにし、最後まで授業に集中できるようにしたい。

（3）単元の目標

単元の目標	○教師の簡単な指示に応じて、スイッチや具体物を押したりつかんだりすることができる。
Aの単元目標	○提示された物に手を伸ばし、つかむことができる。（学習内容表　書くこと⑦）

（4）単元の指導計画

◎単元の指導計画　全（　１０　）時間

時間	学習内容	学習内容表との照合
１０	○絵本の読み聞かせ ○スイッチを使って、音声を出す。 ○具体物を触ったり、つかんだりする。	書：⑤⑥⑦⑨

6　本時について

（1）本時の目標

全員の目標

○教師の簡単な指示に応じて、スイッチや具体物を押したりつかんだりすることができる。

Aの目標

○目の前に提示された物に手を出してつかむ。

（2）本時のAの評価

評価の観点	関心・意欲・態度	書くこと（社会参加）
評価規準	目の前に提示された具体物に視線を向けることができる。	目の前に提示された物に手を伸ばし、自分でつかむことができる。
評価基準	a　顔の前に提示された具体物に自分から視線をむける。 b　教師が「Aさーん」と言葉かけをすると、顔の前に提示された具体物に視線を向ける。 c　教師が「Aさーん」と言葉かけをしたり、具体物を横に振ったりすると、顔の前に提示された具体物に視線を向ける。	a　顔の前に提示された棒状の物へ、右手を動かしてつかむことができる。 b　右手の前に棒状の物を提示されると、前方へ右手を動かしてつかむことができる。 c　教師が生徒の右肘を支えながら、右手に棒状の物を当てると、つかむことができる。

（３）本時の展開

時間	学習活動	評価のポイントとなる生徒の姿	対応した手だてや配慮事項	備考・準備
導入 ２分	①始まりの挨拶をする。	・目の前に出された教師の手に、声かけを受けて、タッチすることができたか。（話すこと）	・号令を担当する生徒に、号令をかけてもらうようにする。	
展開 ２０分	②絵本を見る。（おむすびころりん）	・絵本を近づけたときに注視したり、動かしたときに追視したりすることができたか。（見ること） ・「おむすびころりんすっとんとん。」のフレーズを聴いて、表情や身振りで期待感を表現できたか。（聞くこと）	・生徒が絵本の絵に注目できるように、色のはっきりしたものをする。 ・生徒が集中できるように、絵本を短く簡単にしたものを使用する。 ・音声スイッチを押すと「おむすびころりんすっとんとん。」の音声が出るようにしておく。 ・おむすびとねずみが登場する場面では、Ｔ１が具体物の操作をし、期待感を持つことができるようにする。	・絵本 ・スイッチ ・手袋 ・ボール ・風船
	③具体物を使った活動を行う。	・ボールなどの具体物を差し出したときに、興味をもって見たり、触ったりすることができたか。（書くこと） ・棒状の物を差し出したときに、手を伸ばしてつかむことができたか。（書くこと）	・生徒の実態に応じて、ボールや風船を使い、感触や大きさを感じやすくする。 ・ねずみからのお礼の場面では、顔の前に棒状の物を提示する。 ・右手があがらない場合は、教師が右肘を支える。 ・棒状の玩具へ右手を伸ばす動きがでないときは、右手に教師が玩具を当てて、生徒に気付かせる。	・ボール ・風船 ・スイッチ ・手袋 ・棒状の玩具
まとめ ３分	④本時を振り返る。 ⑤終わりの挨拶をする。	・教師の手に、声かけを受けて、タッチすることができたか。（話すこと）	・号令を担当する生徒に、号令をかけてもらうようにする。	

○国語：役割グループ

国語・数学　学習指導案

日　　時　　平成２８年１１月９日（水）
６校時１３：３０～１４：０５
場　　所　　４棟１階　高等部１年２組
対象生徒　　高等部１年Ⅲ課程Ｃ類型
男子１名
指 導 者

１　対象生徒について

（１）高等部１年　　Ａさん

（２）障害の状態

脳性まひ

身体障害者手帳１種１級（両上肢の著しい機能障害・左まひが強い）

療育手帳Ａ１

本生徒は教師の問いかけに対して単語で答えるなど、自分の意思を表すことができるが、興味のある内容は母の車の色や家に帰る日などに限られている。寄宿舎で生活しているため、家に帰ることができる金曜日は、発言も増え笑顔で過ごすことが多い。

両下肢に麻痺があるが、クラッチを操作して歩くことができる。基本的生活習慣は援助があれば取り組むことができる。友達への自分からの関わりはあまり見られないが、教師を介して関わることができたり、友達の様子を見てまねをしたりすることができる。

（３）各種検査とその解釈

検査名　　遠城寺乳幼児分析的発達検査

移動運動　　１：９．５　　手の運動　２：７．５　　基本的生活習慣　１：５

対人関係　　２：１．５　　発　　語　２：１．５　　言　語　理　解　２：７．５

＜解釈＞

・移動運動や基本的生活習慣が他に比べて低いのは、左上下肢のまひによるものが大きいと思われる。

・発音が不明瞭であるため言語理解に比べ、発語が低いと思われる。

（４）学習到達度について

学習到達度チェックリスト＜国語＞

観　点	スコア	根拠（実態）
聞くこと	２４	△出来事などの簡単な質問に答えるのは難しい。「今日は（家に）帰るの？」や「お母さんの車の色は？」等の内容は答えるが、その他の内容は難しいことがある。 ○「車椅子に座るよ」「今から立つよ」などの２語文の要求や指示に従うことができる。 ○「○○くんどこ？」に指差しで等で答えられる。

話すこと	２４	△「金曜日？」「先生トイレ」などの簡単な質問や要求を教師にするが、それ以外の２語文の要求はない。 △「めがね」「はさみ」「給食」「起立」などの日常使う言葉は促されると言うが、自分から話すことは少ない。１０以上の単語は知っている。 ○思いが人に届かないと怒りの感情を出すことができる。
	１８	○「トイレ」「あけて」などが言える。 ○指差しで伝えようとする △「自分でする」という要求はあまりないが、尋ねられると意思を表現する。
読むこと	２４	○２つのシンボルからひとつを選択できる。例えば、赤と青の中から指示に従って青を選択できる。「めがね」「とり」等の絵と短い平仮名カードを結びつけることができる。 △３つの絵の中から、指示されたものを取ることは、例えば「のり」「はさみ「ボール」などの日常使うものであればできるが、複雑な絵（人が手に持っているものがはさみ・のり・ボールである場合など）は間違えることがある。 ○３枚の写真のなかから自分の写真を見つけることができる。 ※１０個以上の平仮名がわかる（スコア６０）
書くこと	２４	△直線や形をなぞるには、教師が横について一筆一筆指示や確認が必要である。鉛筆の持ち方も時に確認が必要である。 ○筆記用具等に興味があり、教師が手を握って一緒に形や文字をなぞることができる。 ○自分のマークが分かり選んでとる。

○本生徒の学習指導要領の段階と内容（国語）

「聞く・話す」

１段階（１）　教師の話を聞いたり（○）、絵本などを読んでもらったりする。（○）

１段階（２）　教師などの話し掛けに応じ（△）表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。（△）

２段階（１）　教師や友達の話し言葉に慣れ、（△）簡単な説明や話し掛けが分かる。（△）

２段階（２）　見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。（△）

「読む」

１段階（３）　教師と一緒に絵本などを楽しむ。（△）

２段階（３）　文字などに関心をもち、読もうとする。（△）

３段落（３）　簡単な語句（△）や短い文などを正しく読む。（△）

「書く」

１段階（４）　いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。（○）

２段階（４）　文字を書くことに興味をもつ。（△）

・本生徒の段階は「聞く」「話す」「読む」「書く」は１段階を習得しつつあり、２段階に向かっていると考える。

（５）これまでの学び（中学校）

・ひらがな５０音を学習し、１文字１文字は読むことができるようになってきた。
・１語文での会話がほとんどで指さしでの訴えが多いが、相手に聞き取れる発音で話すことができるようになってきた。
・片仮名はまだ読めない。
・なぞり書きはまだ十分でないが、点線の上をなぞろうと努力し、形になってきた。

（６）高等部卒業までに身に付けてほしい力（個別の教育支援計画より）

①日常生活に必要な基本動作や姿勢を身に付け、主体的な動きを出すことができる。
②いろいろな活動を経験し、興味の幅を広げ、自ら楽しむことができる。
③周囲の人に自ら話しかけ、トイレや水分補給の要求をわかりやすく言葉や動作で伝えることができる。

国語の学習は③の内容が主に関連すると思われる。また、②についても、語彙が豊富になれば、体験したことを単語の形でも相手に伝えることができ、思いを共有することに喜びを感じることができると思われる。

２　本生徒の週時程

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
2	総合的な学習の時間	音楽	自立活動	自立活動	生活単元学習
3	LHR	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	自立活動
4	自立活動	生活単元学習	体育	生活単元学習	体育
5	自立活動（給食）	自立活動（給食）	自立活動（給食）	自立活動（給食）	自立活動（給食）
6	日常生活の指導 国語・数学	日常生活の指導 国語・数学	日常生活の指導 国語・数学	日常生活の指導 国語・数学	日常生活の指導 国語・数学
7		自立活動	音楽	自立活動	

３　　指導方針

本生徒の「高等部卒業までに身に付けてほしい力」には、「周囲の人に自ら話しかけ」という文言がある。本生徒は「トイレ（に行きたい）」「寒い」などの自分の要求や気持ちは、言葉や動作で表現できる時があるが、言えないこともあり、排泄の失敗が続いてしまうこともある。

そこで、国語科の授業では「話す」「聞く」「読む」ことに重点を置き、話した内容が通じた喜びを感じ達成感を味わうとともに、より多くの言葉を知って自分から表現してほしいと考えている。また、中学校で学習してきたなぞり書きの学習も引き続き行い、自分の名前の１～２筆で書ける文字「し」「う」の習得をめざしたい。

そのために、国語科の学習では小学部用の教科書（「こくご☆☆」小学部２段階）や絵本を用い、教師の言葉掛けによる援助を受けたり、教師が示したことばや動きを模倣したりするなどして、生徒が言葉の意味を理解することをねらいとしていくことにした。

授業では学習指導要領の知的障害特別支援学校の小学部２段階の内容を学習し、学習到達度チェックリストの「国語」のスコア２４の全ての項目を習得することを目標とし、以下の目指す姿を引き出す学習に取り組んでいくこととした。

観点	目標スコア	めざす姿
聞くこと	２４	道具の片付けや活動において２～３語文での要求や指示に応じて行動したり発言したりできる。
話すこと	２４	主語と述語のある２語や修飾語を含んだ３語文を話すことができる。自分が体験したことを２語文で話すことができる。(そのために語彙数を増やしたり、教師の発問を聞いて答えたりすることができる)
読むこと	２４	文字に興味をもち、単語カードから指示されたカードを選択できる。 （そのために、教師の指示や発問をおおよそ理解できる）
書くこと	２４	形や直線パターンをなぞることができる。(そのために、線を指示通りに描くことができる)

４　年間指導計画（本報告書では省略）

５　　主に使う単元について

（１）単元名　「でんしゃにのって」

（２）単元設定の理由

本生徒は、乗り物に大変興味がある生徒である。本単元で使用する教材は電車にいろいろな動物が乗ってくる話である。「誰が」「次に誰が」乗ったのかを確認させたり、少女が何を持って電車に乗ったのかを確認させたりすることで、生徒と教師の会話をしたいと考える。また、平仮名が少し読める生徒であるので、絵ばかりでなく、平仮名を手がかりにできるように平仮名も教材に記したいと考える。

指導にあたっては、本生徒イメージを補ったり、聞かれている内容の手がかりにしたりするために視覚的な教材を用意して行う。

この単元では教育課程表の１「話やものを聞く、見る」の２「友達からの働きかけや呼びかけに応じる」を中心にして扱っていきたい。教師と本生徒の１対１なので友達からの働きかけではなく、教師からの働きかけや呼びかけに応じて指さしでも言葉でも何らかの答えを教師に向けて表現してほしいと考える。

（３）単元の目標

教師からの働きかけや呼びかけに応じる。(聞くこと)

（４）指導計画　　全１０時間

①「でんしゃにのって」を読もう・・・１時間

②どんな動物が電車に乗ったか、考えよう・・・９時間（本時７／９）

6　本時について

（1）本時の目標

①教師からの働きや呼びかけに応じる。（聞くこと）

（2）本時の目標及び評価

評価の観点	関心・意欲・態度	聞くこと
評価規準	教師が読んでいる本を見たり、教師の話に注意を向けたりすることができる。	教師の「何（の動物）がどうしたの？」の問いに２語文で答えることができる。
評価基準	Ａ教師が読み聞かせを行う間、絵本に注目できた。 Ｂ教師が読み聞かせを行う間、他に関心が向いたたが、教師が注意を促すと絵本を見ることができた。 Ｃ教師が読み聞かせを行う間、教師が注意を促しても、他に関心が向いたままだった。	Ａ「何（の動物）がどうしたの？」の問いに主語と述語のある２語文で１回以上答えた。 Ｂ「何（の動物）がどうしたの？」の問いに主語のみで答え、促されると述語を添えた。 Ｃ「何が」「どうした」と質問を細分化すると答えた。

（3）本時の展開

時間	学習活動	評価のポイントとなる生徒の姿	教師の手立て	備考・準備
導入 1分	始まりの挨拶をする	「号令をお願いします」の1回の声かけで号令をかけることができる。(聞くこと)	視線が教師に向いているかを確認してから声かけを行う。	
展開 27分	今日の月日・曜日を確認する。 なぞり書きの練習をする。 絵本「でんしゃにのって」の読み聞かせを聞く。 教師の質問に答える。 動物と平仮名のマッチングをする。 動物と乗り物を区別する。	(関心・意欲・態度) 絵本や語り手を見て聞くことができているか。 (聞くこと) 教師の「何の動物がどうしたの？」の問いに2語文で答えることができているか。	何も見せずに尋ねる。数字を見せる。分からない場合は数を一緒に数える。 最初に指でなぞる場所を確認させて、次に鉛筆で書くように援助する。 絵本をゆっくり読む。 絵本を見ていない場合は、絵本を見るように促す。 絵本をめくり、誰が乗ってきたかを順に確認する。動物の名前を本生徒が言ってから列車に見立てた箱に動物を立てるよう指示する。動物の絵カードを電車に立てる時に、必要な場合は補助的な支援のみ行う。 文字カードを先に提示する。 カードを声に出して読まない場合は声を出すように促す。	カレンダーのプリント プリント 絵本 車 絵カード 絵カード 単語カード 箱 カード
まとめ 2分	本時の学習を振り返る。 終わりの挨拶をする		がんばったことやよかったことを伝える。	

〇国語：習慣グループ

国語科　学習指導案

日　　時　平成２８年１０月２７日（木）
　　１１：３５～１２：２０（４校時）
場　　所　小学部３年教室
対象児童　小学部Ⅱ課程３年生男子２名
　　小学部ⅢB 課程４年生女子１名
指 導 者

１．対象の児童について
（１）小学部３年男子児童　A

（２）障害の状態
・筋力低下による運動機能障害
本児童は、身体面について徒歩での移動など、ほぼ生活に必要な身体活動を自分で行うことができる。しかし進行性の疾患により、全身の筋力低下が見られるようになり、長時間の歩行や姿勢保持、立ち上がり動作などに困難さが見られるようになった。認知面では文字の視写などの力は向上し、図工でもはさみで細かなところまで切り熱心に取り組んでいる。

（３）検査結果と解釈
検査名：田中ビネーⅤ（平成２８年5月１３日実施）
結　果：ＣＡ９歳０ヶ月　ＭＡ４歳８ヶ月　ＩＱ５２
解　釈：聴覚からの情報について、短文の復唱では一部しか記憶していないなど、聞いたことを記憶することが苦手な傾向がある。視覚的な情報については理解や記憶を得意とする傾向があるので、言葉での指示や説明は簡潔に行い、視覚的な教材を併用することで学習効果が上がると思われる。数の概念について、順番に数唱はできるが、分解や合成はまだ難しい状況である。

（４）学習到達度について
〇学習到達度チェックリストより
国語に関するスコア　　聞く・話す（６０）　読む（６０）　書く（６０）
＜解釈＞
＜聞く・話す＞については、出来事の順序や時間、場所の曖昧さはあるものの、出来事や自分の気持ちなどを４語以上の言葉で話したり、日常的な会話ではこちらの質問に受け答えすることが出来たりすることから６０以上の段階にあると思われる。＜読む＞についても平仮名清音は「ね」と「わ」、「は」や「ほ」など似た文字での読み間違いはあるが２０文字以上確実に読めており、平仮名で書かれ名前や献立、色の名前など自分で読んでその意味を理解していることから６０以上の段階にあると考えられる。＜書く＞ことについて、自分の名前を平仮名で書くことができる。また遊びの中で、手紙やメッセージを書く場面がよく見られることから、スコア６０は達成していると考えられる。

○本児童の学習指導要領（知的障害学習指導要領）の段階と内容

３段階（１）身近な人の話を聞いて、内容のあらましが分かる。（○）

・時間や場所などについて曖昧ではあるが、教師や友達の話を聞いて内容を理解し、気になることを質問している。

３段階（２）見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。（○）

・（１）と同様に、時間や場所の不正確さはあるが、どんなことをしてどんな気持ちになったか喜怒哀楽をはっきりと伝えることが出来る。

３段階（３）簡単な語句や短い文などを正しく読む。（△）

・「とりがとぶ」「みずをのむ」といった３語文程度は自分で読んでその意味を理解することが出来る。挿絵などがあれば、それを参考にして「バスは　たくさんのおきゃくをのせて　はこびます。」といった文を理解することが出来る。それより長い文では、時間をかけると音読することはできるが、内容の読み取りは難しい。

３段階（４）簡単な語句や短い文を平仮名で書く。（△）

・自分の名前を平仮名で書くことが出来る。確実に書ける字は平仮名で１０文字程度だが、「いか」「たこ」「かえる」といった単語を、書けない文字については５０音表を見ながら書くことができる。また、文を書くことについて、書く内容を教師と話をしながらまとめると、ipad の文字入力アプリケーションで平仮名５０音表を使い「うみ　いた（行った）たのしかた（楽しかった)」といった文を打ち込むことが出来る。

（５）卒業までに身に付けてほしい力（個別の教育支援計画より）

○自分の「意見を伝えたり、相手の意見を聞きながら友達と仲良く遊んだり、学習することができる。

２　本児童の週時程

	月	火	水	木	金
1	国語	自立活動	国語	国語	国語
2	図工／算数	国語	総合	算数	算数
3	図工／社会	体育／理科	総合	体育	理科／総合
4	国語	算数	音楽／算数	国語	音楽
5	自立活動（食事の指導）				
6	自立活動		理科	道徳	自立活動
7			社会		

○１時間目の国語は個別学習で、平仮名、片仮名の読み書きや、短い文を打ち込む個別学習を行っている。網掛けされた時間はグループで学習を行っている。

３　指導方針

学習到達度や、知的障害学習指導要領の目標の達成状況から＜聞く・話す＞の本児の発達状況はスコア６０と７２、及び知的障害学習指導要領３段階と４段階の境界辺りになると考えられる。＜読む＞＜書く＞についても、本文を読み上げてもらう、ICT 機器を使い文字入力を行うなどの手だてがあれば目標

を達成していると見なすことができることより、学習指導要領３段階の目標を継続しながらも、一部次の目標を取り入れる段階にあると思われる。しかし４段階の目標は中学部を想定したものであり、そのまま移行することは難しい。また、スコア７２についても、そのままの内容では現時点で達成は困難である。そこで、現在準じている知的障害学習指導要領３段階の目標に、小学校学習指導要領国語科１、２年の目標を一部引用して段階的に引き上げていくことで、より発達段階に適した目標が設定できると思われる。

＜話す・聞く＞について従来の目標に加え、出来事の順序を整理して話すことや、必要なことを聞き出し合意形成を図る力を高める必要がある。相手に応じて丁寧な言葉を使い分ける指導も必要であるが、現時点では話したいことを順序立てて構成することに重点を置きたいため、今回は盛り込まない。これらを考慮し、以下のような目標を設定する。

身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

＜書く＞について、現在の書字能力では文を書くことは難しい。しかし、様々な場面で大事な言葉をメモすることは、記憶の保持が難しい本児にとって必要なことであり、単語程度の文字が書けるようになることは目標に盛り込みたい。文については、現在の単語を並べる文から、順序を整理して簡単な構成を考えて文を打ち込むことを目標にしたい。これらのことより次のように目標を設定する。

簡単な語句を平仮名で書き、伝えたいことの順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を打ち込む能力を身につけさせる。

＜読む＞について、３～４語分ずつ区切りながらであれば読むことは可能である。しかしそれでは書かれている全体像や文のリズムが掴めず、内容の面白さが伝わって来ない。現段階では、挿絵と読み聞かせの組み合わせから作品の全体像を読み取る能力を高めていき、様々な作品の面白さを気付かせ、読書への関心を広げていきたい。自分で読むことについては、文章の中から重要な場面を抜粋して読んで理解したり、ごく短い文章で書かれた絵本の朗読や、分かりやすい言葉で書かれた問題文や質問を読んで答える課題に取り組めるようになることや、身の回りにある様々な文字に関心を持ち必要なものを探したり、情報を得たりすることをねらい次のように目標を設定した。

短い文を正しく読んだり、読み聞かせで書かれている事柄の順序や場面の様子に気付き、想像を広げる能力を身につけさせたりするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

４　年間指導計画（本報告書では省略）

５　題材について

（１）題材名「きつねのおきゃくさま」

（２）題材設定の理由

本学習グループはⅡ課程３年児童２名、ⅢB 課程４年児童１名の３名で構成される。現在の所属課程が３年生と４年生で違っているが、いずれの児童も学習到達度チェックリストでスコア４８～６０を達成し、田中ビネーの検査結果も５０前後の数値が出ており、３人共に次年度ⅢA 課程所属に変更になる。次

年度の課程変更に向けて、試行的に週に国語３時間、音楽１，５時間、算数０，５時間を共に学習している。

本学習グループの児童は、平仮名はおおよそ読めるが、文として読み取ることはまだ難しい。しかし、読み聞かせで話の大筋を理解したり、場面ごとなど文章を区切りその中の数行を読んだり、指示された言葉を文中から見つけ出すことなどができるようになってきた。また、事象だけではなく、その心情についても読み取ろうとする姿勢も見られるようになってきた。読める字や、知っていることを手がかりとして必要な情報、相手の考えや気持ちを探っていくことは、読書の世界を広げるためだけではなく、今後の社会生活を送る上で主体的に生きていくための大事な力となる。

本題材は、小学校２年生教科書上巻で取り扱う「くりかえしのあるお話を作ろう」という単元中の題材である。繰り返しのあるお話を何度も読み、そのパターン覚え書くことにつなげていく単元である。今回はその中の題材を使った＜読む＞ことの学習である。本題材は、繰り返し構造を持つ物語であり、主人公のきつねは食べるためにやさしくひよこに接しているが、続けてあひる、うさぎにも親切にふるまう。きつねは、ひよこから「やさしい」「親切」「神様みたい」と発展的に評されるたびに、心が動かされていく話である。変化をしながら展開が繰り返される物語は昔話などに多く取り入れられ、今までに同様の展開をする話に親しんできた学習者にとっては先を予想しやすい教材である。今回の学習では、まず、物語の全体像を掴ませるため、ペープサートを使って読み聞かせを行う。視覚的な情報を手がかりに、本作品への興味を高め話の概要を掴ませておきたい。続いて各段落では、登場人物の台詞を読んだり、きつねの心情を表す言葉を探したりし、きつねの心情の変化に気付かせる学習に取り組み、悪役のきつねが、善良なきつねに変化していく楽しさを味あわせたい。

指導に当たっては、長い文章に対しまだ抵抗感があるため、ペープサートを使った読み聞かせの導入でまずは話を楽しませたい。そして、自分たちも登場人物を演じたいという気持ちを高めた後に、各段落での登場人物の気持ちを表す言葉に注目させ、その気持ちになって台詞を読み、好きな登場人物を演じていくことを繰り返しながら作品の世界に入り、きつねの真情の変化に気付かせていきたい。

（３）　単元の目標

単元の目標	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

評価の観点	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・技能・理解
評価規準	・登場人物の行動や場面展開について想像を広げながら読もうとし､物語に興味を持とうとしている。	・根拠となる言葉を読んで登場人物の気持ちを想像している。	・文の中における主語と述語との関係に注意して文章を読んでいる。

（４）単元の指導計画

単元の計画	全７時間
全体を通読してもらい、初感を発表しよう。	１時間
ひよことであったきつねの気持ちを考えよう。	１時間
あひるとであったきつねの気持ちを考えよう。	１時間
うさぎとであったきつねの気持ちを考えよう。	１時間
三匹とであったきつねの気持ちの変化を考えよう。	１時間（本時）
おおかみと戦ったきつねの気持ちを考えよう。	１時間
ひよこたちからきつねに手紙を書こう。	１時間

６　本時について

（１）本時の目標

〇場面ごとに、根拠になる表現をもとにきつねの気持ちを想像する。

（２）本時のＡさんの目標及び評価

〇場面ごとに、根拠になる表現をもとにきつねの気持ちを想像する。

評価の観点	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・技能・理解
評価規準	・物語に描かれている世界に浸りながら、登場人物の行動や場面展開について想像を広げながら読もうとしている。	・読み聞かせやストーリーテリングを聞いて、登場人物の行動が変化していくことを大まかに把握した上で、根拠となる言葉を読んで登場人物の気持ちを想像している。	・文の中における主語と述語との関係に注意して文章を読んでいる。
評価基準	Ａ自分から好きな部分を読んで、その様子を想像しようとしている。 Ｂ指示された部分を読んで、その様子を想像しようとしている。 Ｃ読み聞かせから、その様子を想像しようとしている。	Ａ３～４行抜粋された文章を読んで、心情を表す言葉を自分で見つけ、登場人物の気持ちを想像している。 Ｂ３～４行抜粋された文章から心情を表す言葉を指示されて読み、登場人物の気持ちを想像している。 Ｃ心情を表す言葉の説明を聞いて、登場人物の気持ちを想像している。	Ａ自分で３～４行抜粋された文章を読んで、主語や述語などを読み取ることができる。 Ｂ教師と一緒に３～４行抜粋された文章を読んで、主語や述語などを読み取ることができる。 Ｃ文章を読んでもらい、誰が、どうしたという質問に答える。

（3）本時の展開

時間	学習活動	評価のポイントとなる児童生徒の姿	対応した手だてや配慮事項	備考・準備
導入5分	①始まりの挨拶をする。 ②本時の学習内容を知る。	・姿勢を正して挨拶をすることができる。	・必要に応じて前を見るよう声をかける。	
展開37分	③教師のペープサートを視聴し、大筋を思い出す。 ④きつねの心情を場面ごとに考える。 ・ひよことの出会い ・あひるとひよこの会話を聞く ・ひよことあひるとうさぎの会話を聞く ⑤3つの場面でどのように気持ちが変わっていったかをワークシートに記入する。	・ペープサートを視聴しながら、感想や気付いたことを話している。 ・各場面ごとに3～4行粋した文章を読むことができたか。 ・文章を読んで、きつねの気持ちを想像することができたか。また、なぜそう考えたか根拠となる表現をみつけることができたか。 ・3つの場面を同時に提示し、それぞれの場面できつねは「食べたい」という気持ちがどんな気持ちになったか、その度合いをバロメーターに記入することができたか。	・ペープサートを操作しながら、誰がなんと言っているのか理解しやすいようにする。 ・読みたい人を尋ね、自主的に読むことを促す。手があがらない場合には、読む順番を指示する。 ・どんな気持ちか挿絵の吹き出しに書き込む言葉を考えさせる。 ・なぜそう思ったか、文中の言葉を発表させる。発言が無いときには、教師が言葉を読み、それがどんな意味か一緒に考えながら、根拠となる言葉に印を付けさせる。 ・黒板に3つの場面の挿絵と、「食べたい」と「自分が考えたきつねの気持ち」を表すバロメーターを提示し、きつねの気持ちの強さの度合いを考えさせる。	・ペープサート ・児童用抜粋文書 ・児童用挿絵（バロメーター入り） ・提示用場面挿絵、バロメーター
まとめ3分	⑤本時を振り返る。 ⑥終わりの挨拶をする。	・本時の学習でよく出来た所を尋ねられ、答えることができたか。 ・姿勢を正して挨拶できたか。	・自らのよかった所を発表できない場合には、教師が良い所を伝える。	

〇算数・数学：注意・やりとりグループ

国語・数学 学習指導案

日　　時　　平成２８年１１月１０日（木）
　　１３：３０～１４：０５（６校時）
場　　所　　高等部３年学習室（４棟２階）
対象生徒　　高等部３年Ⅲ課程Ｃ類型
　　（男子３名、女子１名　計４名）
指 導 者

１　対象の生徒について

（１）高等部３年　Ａさん

（２）障害の状態

身体の動きとして右股関節が内旋しており、特に右足首の内旋からその顕著さが見られる。歩行の際は、調子がいいときは、走るようにすばやく移動することがあるが、斜面や段差のあるところでは不安定さがある。中腰、くぐる、またぐ等の四肢を使った活動で身体をうまく使うことが苦手である。そのため階段を嫌がることがある。コミュニケーションや心理面では、簡単な指示理解はできるが、その時の情緒の具合で反応は異なる。情緒が不安定な時は座り込んで動かなくなったり、普段はできていることを自発的にできなくなることがある。情緒の安定を図る手段として、手に紙やタオルを持ってひらひらさせるなど常同行動がよく見られる。一方、自分の好きな活動（絵本の読み聞かせや音楽）に関しては比較的積極的であり、自分で絵本を選び教師の所まで持ってきて、手をたたいてお願いすることができるが、自分の気持ちを伝える手段は、ほぼこの一つに限られている。興味のない物や活動には無反応で、教師と一緒に取り組もうと働きかけると、情緒が不安定になることもある。

（３）各種検査結果とその解釈

検査名：遠城寺乳幼児分析的発達検査（平成２８年７月２１日実施）

移動運動　１：１０．５	手の運動　０：１０．５	基本的生活習慣　１：３
対人関係　０：７．５	発　　語　０：７．５	言　語　理　解　１：１

＜解　釈＞

これらの項目の中では移動運動、基本的生活習慣が高くなっており、言語理解も１歳１ヵ月程度まで発達している。しかし、発語と対人関係においては、低い数値になっており、体を動かすことはできても、言葉で自分の要求を伝えることが難しいことからうまく相手と関わりをとることが苦手だと思われる。

（4）学習到達度について

○学習到達度チェックリスト

	観点	スコア	スコアの根拠となる行動
数学	数と計算	8	好きなおもちゃや手にしているハンカチなど目の前で隠すと被せた物を払いのけて取ることができる。「あっちにあるよ」など目の前でその方向を指すと見ることができる。本を読むなど好きなことが終わると、もう一度読んでと手をたたいて要求することができる。
	量と測定	8	絵本を2種類準備し、どちらを読むか提示すると自分の好きな本（読んでもらいたい本）を選ぶことができる。CDプレイヤーの前に来て歌や曲のリズムに合わせて身体を前後に揺らし、楽しむことができる。飲んでいるコップの中のお茶がなくなると手で払いのけるしぐさを示すことがある。
	図形	8	箱の中にボールなど入れたり、箱の中からボールを取ったりすることができる。飲み終わった牛乳パックなど少ない援助でゴミ箱にすてることができる。目の前や横にお気に入りの物があると座った状態で手を伸ばして取ることができる。

○本生徒の学習指導要領の段階と内容

（数学）１－（１）具体物があることが分かり（○）、見分けたり（△）、分類したりする（×）。

１－（２）身近にあるものの大小や多少などに関心をもつ（×）。

１―（３）身近にあるものの形の違いに気付く（×）。

（5）卒業までに身に付けてほしい力（個別の教育支援計画より）

○指示を理解し体のバランスをとって周辺を見る力を身に付け、安定して歩行を行うことができる。

○自分の要求を他者へ伝える手段を増やし、伝えることができる。（欲しいもの、食べたい物を触るなど）

2　本生徒の週時程

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	総　　合	自立活動	自立活動	生活単元学習	自立活動
3	Ｌ Ｈ Ｒ	生活単元学習	自立活動	生活単元学習	音　　楽
4	自立活動	生活単元学習	体　　育	音　　楽	体　　育
5	自立活動（食事の指導）				
6	日生/国数				
7		生活単元学習	生活単元学習	自立活動	

3　指導方針

本生徒の「高等部３年生の終わりまでにめざす姿」には「簡単な指示を理解して移動したり、大人と一緒に落ち着いて行動したりすることができるようになる」「欲しい物やしたいことを声や表情、手の動きなどで伝えられるようになる」とあり、そのめざす姿の達成に向けてこれまで自立活動や日常生活の指導を中心に、段差に応じた身体の使い方、指示理解、要求を伝える手段を増やすことを目標に取り組んできた。これらの取組と数学の「具体物があることが分かり、指差しや声かけされた物を見分けたり、分別したりすることができる」という目標に照らし合わせて考えると、将来、事業所の職員や他の利用者との人間関係を円滑に築けるように、身体を使った体験的な活動を通して、「自分の要求を、視線や身振り、発声などの手段で身近な人に伝えること」や「呼名や簡単な言葉を理解し、それに応じた行動をする」「人や提示された物に注目する」など感覚的要素を広げていくことが必要だと思われる。

このことを踏まえ、数学の学習においては、以下の２点を目標に取り組んでいくことにした。

①小集団の中で順番を意識し、いくつかの選択から自分の好きな物を選ぶことができる。

②提示された物を見たり、持ったり、操作したりすることができる。

4　年間指導計画（本報告書では省略）

5　単元（題材）について

（1）単元名「すごろくゲーム」

（2）単元設定の理由

本学習グループは、４名の生徒で構成されている。国語・数学の力を導き出し、コミュニケーションの基礎を学び、社会性を高めていきたいと考えた。人と人とが円滑な人間関係を形成し、周囲の環境を意識し、その中で自己表現する力を付けていけるよう願って設定した。

本単元は、上記３の①②の目標を達成するために「すごろくゲーム」を通して学習に取り組むものである。青色、水色、白色、グレー色、カード（紫色）の紙に設問をたて、ルールや順番のきまりを守って、すごろくをしていく。ますの色に意味をもたせたのは、数学的活動の場面を増やすようにしたからである。青色では、握手やハイタッチなど対人との関わることを設定した。水色は、手拍子するなど自活的な活動ができるように設定した。白色は、サイコロをふってサイコロの色や数を見聞きすることができるように設定した。グレー色では、身体の表現と発声ができるように設定した。紫色のカードでは、外界の知覚認知に関連する設問をたて、段階に応じて５色のカードを自ら選択し、その力を伸ばせるように工夫した。

本単元では、数と計算、量と測定、図形の数学の学習内容を取り入れたものとなっているが、ゲームの中でサイコロをふって一緒に数唱したり、順番を理解し自分の番になると立ってサイコロを手にするといった一連の行動に移したり、物を示すと注意を向けたりするなど伸ばしたい力として主に数と計算をねらった取組で展開したい。

（3）単元の目標

単元の目標	①順番がわかり、合図を待ってサイコロをふることができる。(数と計算) ②指示された設問に対して、見たり、触ったり、ジェスチャーしたりして人に伝えることができる。(数と計算)
個別の目標 (対象生徒)	①1、2、3の合図でサイコロをふることができ、友達の番の時は友達に注目する。(数と計算) ②指示された設問（カード）に対して、教師の少ない助言で行動に移したり、ちょうだいや自ら選んだりすることができる。(数と計算)

（4）単元の指導計画

1学期	2学期	3学期
○大型カレンダー ・提示されたものをつかむかむ。 ・押して、の合図で手を伸ばす。	○すごろくゲーム ・合図に合わせて持ったり投げたりする。 ・複数の物から気に入ったものを選ぶ。 ・物を入れたり、取ったりする。	○すごろくゲーム ・合図に合わせて持ったり投げたりする。 ・複数の物から気に入ったものを選ぶ。 ・物を入れたり、取ったりする。

6　本時について

（1）本時の目標

順番が分かり、合図を待ってサイコロをふることができる。

（2）本時のＡさんの目標及び評価

評価の観点	興味・関心・意欲	数と計算
評価規準	自分の番がきた時にサイコロに向かうことができたか。	教師の合図の後にサイコロをふることができたか。
評価基準	A順番が回ってきた時に、名前と番がきたことを聞くと、自ら立ってサイコロに向かうことができる。 B順番がきて、教師が「起立」と言って軽く身体に触れると立ってサイコロに向かうことができる。 C教師の援助を受けて一緒に立ってサイコロに向かうことができる。	Ａ1、2、3の合図の後に手にしたサイコロをふることができる。 Ｂ1、2、3の合図と同時に(または合図の途中で)床に落とすことができる。 C教師と一緒に両手で持ち、合図の後にサイコロをふることができる。

（３）本時の展開

時間	学習活動	評価のポイントとなる児童生徒の姿	対応した手だてや配慮事項	備考・準備
導入 ２分	1. 始まりの挨拶をする。	・日直の号令に対して起立・気を付け」の動作をとることができたか。	・最初は言葉だけで自分からの動作を待つ。タイミングがうまく取れなかった場合、教師が近づき声かけを行う。	
展開 ３０分	2. すごろくゲームの順番を決める。 3. すごろくゲームをする。 （自分の番の時） (1)立つ (2)サイコロを持ってふる。 (3)一緒に数唱しコマを進める。 (4)読む (5)トライ (6)座る 4. 本日の順の発表を聞く。	・くじ引きで順番を決める際、４本のくじの中から１本を選ぶことができたか。（数と計算） ・ゲームをしている友達の様子をよく見て、自分の番を着席して待つことができたか。（数と計算） ・自分の番がきた時に，立ってサイコロに向かうことができたか。（関心・意欲・態度） ・教師の合図の後にサイコロをふることができたか。（数と計算）	・生徒がくじを選択しやすいように目の前に差し出し、手に取りやすい位置で声かけする。 ・サイコロをふることが難しい生徒については、サイコロに傾きをつけたり、手の位置を変えたり、できるだけ自分の力で動かすことができるようにする。 ・立つことが難しい状況の時は椅子に座って行う。 ・コマを進めるときは、コマの動きに注目させながら、ゆっくりと数を一緒に数える。 ・カードのマスでは、ボードに５色の課題カードを貼り付け、生徒の目の前に提示して選択しやすいように工夫する。 ・次の人にサイコロを渡すときに、「どうぞ」「ありがとう」等、相手を意識するような声かけを行う。	・くじ ・サイコロ ・すごろく台紙 ・カード ・うちわ ・音の出る絵本 ・マラカス ・鈴 ・風船 ・ボール
まとめ ３分	5. 本時を振り返る。 6. 終わりの挨拶をする。	・日直の号令に対して「起立・気を付け」の動作をとることができたか。	・生徒の取り組む様子を見て、生徒同士が意識し合えるように生徒一人一人の様子で良かったところを伝える。 ・号令の声かけを行う。	

資料6

「国語の学習内容表」

本校のめざす児童生徒像

〇心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒

〇心豊かで思いやりのある児童生徒

〇夢や願いに向けて挑戦する児童生徒

身に付けてほしい力

人や物と関わる

生活リズムを整える

自分に合った姿勢や動作を身につける

情緒の安定を図る

興味や楽しみをもつ

人へ関わりを求める

自ら発信する

落ち着いた気持ちで環境に適応する

高等部卒業までに国語で身に付けてほしい力

呼名や、「ちょうだい」などの簡単な言葉を理解し、それに応じた行動をする。

自分の要求を、視線や身振り、発声、発語などの手段で自ら身近な人に伝える。

人や提示された絵、写真、映像などに一定時間注意を向ける。

手を使ったレクリエーション活動に、手を伸ばすなどして能動的に参加する。

スコア	段階意義	スコアごとの目指す姿	学習内容	スコアごとの目指す姿	学習内容	スコアごとの目指す姿	学習内容	スコアごとの目指す姿	学習内容
12	言語指示への応答、相互的なやりとりの拡大、発語、手指の巧緻性移動	**呼名や、「ちょうだい」などの簡単な言葉を理解し、それに応じた行動をする。**	⑭言葉のみ（おいで、ちょうだいなど）の簡単な要求を理解し応える。 ⑬簡単な言葉を聞いて真似をする。 ⑫自分の名前を呼ばれると返事をする。	**自分なりの要求を、視線や身振り、発声、発語などの手段で自ら身近な人に伝える。**	⑮大人のまねをして、手を合わせるなどの簡単な身振りで要求を伝える。 ⑭欲しいものと、大人の顔を交互に見て要求する。	**人や提示された絵、写真、映像などに一定時間注意を向ける。**	⑭絵本を読んでもらうと、じっと見ながら聞く。 ⑬大人が指さしたものや見た方向を見る。 ⑫身近な人を目で追う。	**手を使ったレクリエーション活動に、手を伸ばすなどして能動的に参加する。**	⑮目の前のボールに手を伸ばし、相手に向け転がそうとする。 ⑭筆やペンで紙をトントンと叩いて、点を書いたり、なぐり書きをしたりする。 ⑬親指と人差し指で物をつまみ、少し動かす。 ⑫玩具の車を手で走らせる。
8	言葉への応答、物を介したやりとりの芽生え、音声や身振りによる働きかけ、活動と結果の理解、探索的操作、姿勢の保持・変換	**その場の文脈を手掛かりにして、簡単な言葉を理解したり、身振りによる働きかけに応じたりする。**	⑪「ちょうだい」の身振りや言葉かけで、物を差し出そうとしたり渡したりする。 ⑩「バイバイ」に手を振ったり「ダメ」に首を振ったりする。 ⑨「こっちだよ」という声をかけられた方を見る。	**視線や身振り、発声などで大人に欲しい物を伝えたり、自分に注意を向けてもらおうとしたりする。**	⑬2つの物から興味のある方を選ぶ（視線・手を伸ばす） ⑫大人の働きかけに、「いや」という自分の気持ちを手や足で押しのける等の方法で表す。 ⑪要求がある時、視線や声、身体の動きなどで、相手の注意を引く。	**目の前で指差された物を見る。（絵本の中の動物などを指差すと注目する。）**	⑪鏡を見て、笑いかけたり話したりする。 ⑩絵本の中の動物などを指さすとそれを見る。	**行動を始める前に、手に持った物を見たり、落としたり、ぶつけたりすることを繰り返し行う。**	⑪棒状の物を持って、叩いたり、打ちつけたりする。 ⑩持っている物を放して置いたり入れたりする。
6	学習による行動変化、やり取りの予測・パターン化 音声や表情の模倣、注意の追従、物のやや複雑な操作、状況に合わせた自体の操作	**パターン化した学習を通して、その場に応じた行動を選択する。**	⑧「1、2の3」で3の前に期待する表情をする。 ⑦「いけません」等の声で動きを止める。 ⑥話す人の顔を見続ける。	**特定の人のパターン化された働きかけから、次の展開を予測して、視線や身振り、発声などの手段で応答する。**	⑩大人の働きかけに「アー」「ウー」など自分なりに声を出す。 ⑨やりとりを予測して期待するような表情や動きをする。 ⑧特定の人とそうでない人を区別する。	**特定の人や見慣れた物、好きな物を目で追う。**	⑨落としたおもちゃなどを見る。 ⑧動く玩具やボールを追って見る。 ⑦親しみと怒った顔が分かる。 ⑥特定の人に対してよく笑いかける。	**物を扱うこと（押す、振るなど）を繰り返したり、提示された物に手を出してつかもうとしたりする。**	⑨スイッチに働き掛けて、その物とは違う物から何らかの刺激が起こる（スイッチを押して玩具を動かす）ことが分かる。 ⑧紙をぐしゃぐしゃにする。 ⑦手を出して物をつかむ。
4	他者への注意と反応、発声、注意の持続、物の単純な操作、自体の操作	**特定の人の働きかけに対して、注意を向け、なんらかの反応をする。**	⑤特定の人の声によく反応する。 ④人が歌っているとじっと聞き入り歌っている人を見つめる。	**視線や表情で身近な大人への関心を示す。**	⑦目の前で自分の名前を呼ばれると、発声で応じたり手足をバタバタさせたりする。 ⑥身近な人に向かって、笑ったり身体を動かしたり声を出したりする。 ⑤意図のある発声をする。	**目の前の人顔や物をじっと見る。**	⑤いろいろな場所にあるものを視線を移しながら注視する。 ④映像をじっと見たり、外の様子をまじまじと見たりする。	**対象に直接触れたり、手を伸ばしたりして向かおうとする。**	⑥つかんだものを振ったり引いたりする。（握ったまま動かす） ⑤持った物を、数秒間、つかんでおく。 ④手に触れたものをつかむ。
2	外界への注意の焦点化と探索、自発運動	**音が鳴る等の外界の変化に気付いて、動きを止める。**	③抱いたり話しかけたりしてくれる大人の存在に対して泣き止んだり、顔を向けたりする。 ②音がしたこと、止まったことに気付いて、動きを止める。	**外界の変化に気付いて、視線や身体を動かす。**	④関わられている人の方へ視線を向けたり顔を動かしたりする。 ③人の声や音、動くものに気づいて、目や身体を動かす。	**目の前の人や顔を少し（3秒ほど）見る。**	③目の前で光ったり動いたりする物を3秒ほど見る。 ②目の前で関わられている人の顔を3秒ほど見る。	**手を動かして口に持っていくなど、自分の身体に向けた感覚運動を繰り返し行う。**	③手を握ったり、開いたり、口に持っていったりする。 ②音や声が聞こえる方向に視線を向けるなどの反応を示す。
1	外界の刺激や活動への遭遇、反射的反応	**音や声などに対して、反射的に目を開いたり、身体に力が入ったりする。**	①大きな音に驚く。	**光や音、姿勢の変化などの外界刺激に反応する。**	②機嫌のよい声を出す。 ①声を出して泣く。	**光の方を見たり、まぶしがったりする。**	①明るさや色の変化に目を閉じようとする。	**受動的な体験が主となり、視覚、聴覚、触覚などの刺激に反応する行動をする。**	①突然の音や光に緊張して身構えたり、身体を急に動かされると驚いたりする。
スコア	段階、意義	スコアごとの目指す姿	学習内容	スコアごとの目指す姿	学習内容	スコアごとの目指す姿	学習内容	スコアごとの目指す姿	学習内容
	児童生徒に備わる必要のある力	聞くこと（指示の理解）		話すこと（意思の伝達）		読むこと（視覚刺激への注意）		書くこと（社会参加）	

教科　国語

資料７

「 算数・数学の 学 習 内 容 表 」

本校のめざす児童生徒像	○心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒			○心豊かで思いやりのある児童生徒			○夢や願いに向けて挑戦する児童生徒	
身につけてほしい力	人や物と関わる	生活リズムを整える	自分に合った姿勢や動作を身につける	情緒の安定を図る	興味や楽しみをもつ	人へ関わりを求める	自ら発信する	落ち着いた気持ちで環境に適応する

高等部卒業までにめざす姿		指示された物を取ったり、渡したりすることや、物の簡単な順番を理解して行動することができる	物の大きさや量などに関心をもち、自分の好きな方を選ぶことができる	物の形に注目し、触れたり、選んだりすることができる。
スコア	段階意義			
12	言語指示への応答、相互的なやりとりの拡大、発語、手指の巧緻性移動	⑦○○をしてから○○をするなど、順番が分かる。	④物の多さの変化や大きさの違いに関心をもつ。	⑥容器から容器へ水を移し変えようとする。
		⑥2つの物で、こっち頂戴に応える。		⑤数枚の絵カードから指示された絵を見つけ、指す。
		⑤2つの物から隠した物を見つける。	③朝昼晩の違いを、日々の生活の中で理解する。	④○、×などの簡単な記号の意味が分かる。
		④簡単な身振りを真似する。		③ビンのふたを開けたり閉めたりする。
8	言葉への応答、物を介したやりとりの芽生え、音声や身振りによる働きかけ、活動と結果の理解、探索的操作、姿勢の保持・変換	③身近にあるものや人の名前を聞いて指さしたりする。	②やりたいことを選ぶことができる。	②いれ物の中から興味あるものを取り出す。
		②こっちこっちと物を示すとそれらをみる。		①動物の型抜きなどの形に関心を持つ。
		①遊びや歌が終わるとやってという行動を示す。	①2つの物からお気に入りのものを選ぶ。	
		数量の基礎、数と計算	量と測定	図形
6	学習による行動変化、やり取りの予測・パターン化、音声や表情の模倣、注意の追従、物のやや複雑な操作、状況に合わせた自体の操作	⑫具体物を指したり、つかんだりする。		
		⑪転がるボールを追視する。		
		⑩ゆっくりと動く物を目で追う。		
4	他者への注意と反応、発声、注意の持続、物の単純な操作、自体の操作	⑨手を出して物をつかむ。		
		⑧提示されたものに手を伸ばす。		
2	外界への注意の焦点化と探索、自発運動	⑦物を持たせると持つ。		
		⑥人の声がする方に向く。		
		⑤手に触れたものをつかむ。		
		④音や動き、光に視線を向けたり注意を向けたりする。		
1	外界の刺激や活動への遭遇、反射的反応	③音や動き、光の変化に気付き何らかの反応をする。		
		②突然の音や光に緊張して身構える。		
		①大きな音に反応する。		
スコア	段階、意義	学習内容		
	児童生徒に備わる必要のある力	外界の知覚認知		
	教科	算数・数学		

資料８　評価規準の設定例（国語：習慣グループ）

中学部Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　中学部段階（４段階）

２　単元名「はっきりと答えましょう」

３　単元の目標

①相手の話すことをよく聞き、その内容に対して的確に受け答えをする。

４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
・進んで話をしたり聞いたりしようとしている。	・相手の話の中心を捉えて必要な事柄を落とさずに聞いたり、話をしたりしている。	・相手や場に応じて言葉の使い方が変わることを意識して話している。

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」の内容

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
・話したい聞きたいという願いをもって、進んで話をしたり聞いたりしようとしている。	・話題に合わせて、必要な事柄を思い出している。 ・相手に応じて、話す事柄を順序立てている。 ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話している。	・敬体で書かれた文章や敬体を用いた話し方に慣れている。 ・相手や場に応じて言葉の使い方が変わることを意識して話している。

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠

国語への関心・意欲・態度	聞く・話す能力	言語についての 知識・理解・技能
盛り込むべき事項の内容を参考にして考えたときに、今回の単元は「面接」の場面を想定した学習を通して指導する単元であるので、相手の話の大事なところを落とさないように聞こうとすることや、相手の話に合わせて事柄の順序を考えながら話そうとすることが具体的な姿であると考えた。また、相手の話を聞いたり、自分が話をしたりする態度として自分から進んで聞くことや話すことが伝え合う力の基礎的な態度ではないかと考えて取り入れた。	「質問に的確に答える」の具体的な姿として、「相手の話に応じて、話す事柄を順序立てて話している」ことが考えられる。「必要な事柄を思い出している」は知的の特性を考えたときに、一度質問に対する答えをワークシートにまとめた上で活動することが望ましいと考えたので今回は取り入れなかった。また、学習指導要領に「ていねいな言葉を使って話すこと」とある。その具体的な姿として、「丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している」と盛り込むべき事項にあるものを取り入れた。	「的確な受け答えをする」ことを考えたときに、相手や場に応じて言葉の使い方に注意をして話すことが必要であると考えた。教科書解説には、相手や場所によって服装や態度も変わることも指導することが大切であると書かれている。ていねいな話し方と合わせて指導していくことが考えられる。この場面では、話すことの中で学習するために「盛り込むべき事項」の「相手や場に応じて言葉の使い方が変わることを意識して話している」を取り入れた。

中学部Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　中学部段階（４段階）

２　単元名「ねぼうしたねこ」

３　単元の目標

①「ねぼうしたねこ」を読み、あらすじを理解したり、情景や登場人物の気持ちを理解したりすることができる。

４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・十二支に興味をもち、場面の様子を押さえながら、想像を広げて読もうとしている。	・場面の変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景等について、事柄や時間的な順序を考えて読んでいる。	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を読んでいる。

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」の内容

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・書かれている事柄の事項の順序や場面の様子に気付いたり、想像を広げたりして読もうとしている。 ・知識を得たり好きなところを紹介したりするために、本を選んで、楽しんで読書しようとしている。 ・物語に描かれている世界に浸りながら、自分の大好きな本や文章、お気に入りの場面などを見付けて、登場人物の行動や場面展開について想像を広げながら読もうとしている。	・場面の変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景等について、叙述を基に想像して読んでいる。（ウ） ・物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などとどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。（オ） ・自分が面白いと思った場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいる。（ウ）	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を読んでいる。（イ）（ウ） ・文の中における主語と述語との関係に注意して文や文章を読んでいる。（イ）（カ） ・相手や場に応じて言葉の使い方が変わることを意識して話している。

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・上記の「事柄の順序に気付く」は、知的障害のある生徒の関心・意欲・態度に入れず、「読む能力」の評価に入れる。 ・☆本の教科書解説にある「十二支に興味をもち、情景や登場人物の気持ち等を考えることができるようになること」の文言を入れ、単元の評価規準を作成した。	・特別支援学習指導要領解説の中学部国語「読むこと」に、「時間的な順序や事柄の順序を考え」とあり、上記の小学校の評価規準の内容と合わせた。	・☆本の教科書解説に「あらすじを理解し」とあり、あらすじを理解するには、上記のことが必要だと思いそのまま使用した。

中学部　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　中学部段階（４段階）

２　単元名「日記・日誌」

３　単元の目標

①身近な出来事や経験、周囲の様子などについて、聞いたこと、感じたことを加えながら文章を書くことができる。

４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・経験したことや思い浮かんだことなどについて、文を書こうとする。 ・自分の思いを書く楽しさを感じて、進んで書こうとする。	・経験したことや思い浮かんだことを文で書く。 ・事柄の順序で文を書く（書いた文を並べる）。 ・書いた文や文章を読み返し、間違いなどに気付き、正している。	・言葉を適切に使って、文や文章を書いている。 ・長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。 ・平仮名及び片仮名を正しく書いている。

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」の内容

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書こうとしている。 ・自分の思いを書いて伝えることのよさを見つけたり楽しさを感じたりしながら、進んで書こうとしている。	・経験したことや想像したことなどから書くことを決めている（ア） ・書こうとする題材に必要な事柄を集めている（ア） ・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている（イ） ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書いている（ウ） ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正している（エ）	・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて文や文章を書いている（イ（ア）） ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を書いている（イ（ウ）） ・長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている（イ（エ）） ・平仮名及び片仮名を正しく書いたり、片仮名で書く語の種類を理解して文や文章の中で使ったりしている（ウ（イ））

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・文章の「構成」や「伝えることのよさ」といった分析的な見方や抽象的な感覚は苦手ではないかと考え、より到達可能な規準を設定した。	・文章を書くことの手順や技能を追求するよりは、普段の会話や話し言葉を文章表現できることを規準に考えた。 ・より伝わりやすいように修正は指導していく。	・言葉の機能分類の意識は難しいと考え、正確に書くことを重視した。 ・最小限で伝わる文字表現でいいのではないのか。 →最小限をどこに設定するのか。

小学部　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　小学部３段階
２　単元名　「みんなのなまえ」
３　単元の目標
　①自己紹介の場面のさし絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。

４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲･態度	話す･聞く能力	言語についての知識･理解･技能
･自分が伝えたいことを話したり、大事なことを落とさないように聞いたりしようとしている。 ･話したい聞きたいという願いをもって、進んで話したり聞いたりしようとしている。	・姿勢や声の大きさに注意して、はっきりした発音で話している。(ウ) ･丁寧な言葉を使うことを意識して「です」「ます」を使って話している(イ②)	･枠に書き入れた言葉を読む作業を通して、文の始めに主語、最後に述語というきまりを知って、注意して話したり聞いたりしている(イ)

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」や「設定例」の内容

国語への関心・意欲･態度	話す･聞く能力	言語についての知識･理解･技能
・相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話し合ったりしようとしている。 ・話したい聞きたいという願いをもって、進んで話したり聞いたりしようとしている。	・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話している。(イ) ・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話している。(ウ) ・大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞いている。(エ)	・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。(イ) ・文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聴いたりしている。(イ)

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠

国語への関心・意欲･態度	話す･聞く能力	言語についての知識･理解･技能
･『相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話し合ったりしようとしている』は、児童の実態から、大事なことや伝えたいことを落とさないように話したり聞いたりすることだけをねらう。	・ウは、まだ話し始めにつまずきがあり、意識して身体を起こすことでようやく大きな声が出る段階であることから、口形や話す速さを意識することは削除する。 ・イ①やオは、事柄の順序や話題に沿った話し合いは今回目標としないため、削除する。 ・イ②やエは変更・削除なし。	・主語の後に述語がくることを知るために、穴埋めの枠に言いたい単語を入れて、読む作業をすることが必要。作業を通して、主語と述語を始めと終わりに言うことで相手に伝わりやすくなることに気付かせる。

小学部　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　小学部３段階

２　単元名「しらせたいことをかこう」

３　単元の目標

①書く相手を決め、題をつけて経験したことを文章に書くことができる。

４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書こうとしている。	・経験したことや想像したことなどから書くことを決めている。（ア） ・自分の考えが明確になるように、文章のテンプレートにあわせて簡単な構成を考えている。（イ） ・語と語や文の続け方に注意をして、つながりのある文章を書いている。（ウ）	・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を書いている。（イ（ア）） ・長音、拗音、促音、撥音の標記ができ、指摘を受けて助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。（イ（エ）） ・文の中における主語と述語との関係に注意して文や文章をタブレットパソコンで書いている。（イ（オ））

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」の内容

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・経験したことや想像したことなどについて、簡単な構成を考えて文や文章を書こうとしている。	・経験したことや想像したことなどから書くことを決めている。（ア） ・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（イ） ・語と語や文のつながりのある文章を書いている。（ウ）	・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を書いている。（イ（ア）） ・長音、拗音、促音、撥音の標記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。（イ（エ）） ・文の中における主語と述語との関係に注意して文や文章を書いている。（イ（オ））

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・誰が、何を、どうした、どんな気持ちかという４語文程度の文章を目標とし、正確な順序等は問わない。	・書く題材については、好みに偏りが出やすいのと、思い出すために写真等を利用することから、題材は教師が出した中からの選択とする。 ・自分の考えが明確になるように、誰が何をどうしてしてどんな気持ちだったかという文章のテンプレートを使って文章を構成させる。	・読むことについては、平仮名の単語を読めるようになってきたが、書くにはまだ困難がある。そのため、口頭で書きたい事を聞き取りながら、テンプレートを使って、下書きを教師と一緒に行い、それを見ながらタブレットパソコンに打ち込んでいく。

高等部　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　高等部１段階

２　単元名「話し合いをしよう」

３　単元の目標

①話し合い活動の中で、相手が話す内容の要点を落とさないように聞き取ることができる。

②互いの意見の共通点や相違点を考えながら、自分の意見を正確に話すことができる。

４　設定した単元の評価規準①

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・話し合うことによって課題を解決したいという意欲をもち、役割を分担しながら、話し合い活動に参加している。	・話し手が話した中心的な内容を正しく聞き取っている。	・意見を伝えたり、共有したりするために、適切な言葉で自分の考えを表すことが大切であることに気付いている。

設定した単元の評価規準②

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・互いの意見を踏まえて一つにまとめていくために、それぞれの意見の良いところなどを認め合いながら話し合おうとしている。	・互いの考えの共通点や相違点を考えながら、必要な内容を話している。 ・敬語で話している。	・言葉には、考えや思ったことを表す働きがあることに気付いて聞いている。

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」や「設定例」の内容①

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・話し合うことによって課題を解決したいという意欲をもち、役割を分担しながら、提案したり意見を整理したり、自分の考えを発言したりしようとしている。	・話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。（エ） ・話題について調べたり考えたりしながら聞きたいことをはっきりさせたり、話し合いの場で聞きたい事柄を質問したりしている。（エ）	・感想や意見を伝えたり、共有したりするために、適切な言葉で自分の考えを表すことが大切であることに気付いている。（イ（ア））

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」や「設定例」の内容②

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・互いの意見を踏まえて一つにまとめていくために、それぞれの意見を尊重しながら話し合おうとしている。	・丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話している。（イ） ・互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合っている。（オ）	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて話したり聞いたりしている。（イ（ア））

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠①

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
①の目標は「聞くこと」に焦点を絞って設定しているため、「話すこと」についての文言部分は削除し、「参加している」と記載した。また、「意見を整理したり」は知的障害のある生徒の関心・意欲・態度に入れることは難しいと考え削除した。	特別支援学校学習指導要領解説の高等部国語「聞く・話す」の内容に、「中心的な内容を正しく聞き取ったりすること」とあり、上記の小学校の評価規準と同じような内容が見られるため、学習指導要領の文言を主として作成した。	①の目標は「聞くこと」に焦点を絞って設定しているため、「話すこと」についての文言部分は削除した。

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠②

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
上記の「尊重しながら」を知的障害のある生徒の関心・意欲・態度に入れることは難しいと考えた。尊重には「十分その価値をみとめて大切にあつかうこと」という意味がある。そのため、生徒が互いの意見の価値を「認め合い」ながら話し合い活動に参加する姿を期待して評価規準を作成した。	①に同じく、解説に「正確に必要な内容を伝えたり、話したりする」「相手に応じて敬語で話したりする」とあり、上記の小学校の評価規準に同じような内容があるため、学習指導要領の文意を主として作成した。ただし、本学校においての「話す」には iPad などの機器や文字盤など道具を用いて伝えることも含めるものであると考慮する。	習得が可能であると考えたので、単元内容の話し合い活動に即して、「感想や」の部分を削除した。

高等部　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　高等部１段階

２　単元名「本に親しもう①　～詩を読もう～」

３　単元の目標

①詩「雨ニモマケズ」の語句、文及び文章を正しく読み、内容を読み取ることができる。

４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
a 自分の感想を述べたり、感じ方の違いに気付いたりしながら、作者の理想や願いを考えようとしている。	b 詩の中の描写を正しく理解し、詩にこめられた作者の願いや生き方を読み取っている。 c 七五調のリズムを意識し、聞き手によく分かるように音読している。	d 中心となる語句に着目し、文相互の関係、段落相互の関係を理解して読んでいる。

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」の内容

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語を読んで、好きなところや心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。① ・自分の感想を述べたり感じ方の違いに気付いたり、好きな詩を見付けたりしながら、楽しんで詩集を読もうとしている。②	・声に出して読みながら詩の内容や情景を想像し、自分の思いと合わせながらよく分かるように音読している。（ア） ・詩を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら読んでいる。（ウ） ・詩集を読んで感じたことを発表し合い、一人一人に伝わってくる情景や印象について違いのあることに気付いている。（オ）	・指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。（イ(ク)）

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準 a は、①を参考とした。単元の目標と想定される学習内容に合わせ、文言を修正した。 ※「読むこと」の関心・意欲・態度の評価は難しい。「楽しんで読もうとしている」など、Ⅲ Ａでは適当な評価方法が想定できないものが多く、あまり参考にならない。	評価規準 b は、（ウ）を主に参考としたが、Ⅲ Ａの生徒には「印象的な表現を捉える」「情景を想像する」といったことが不得手であることが多く、実際の授業では参考となる画像や映像を手掛かりにイメージをもたせることになると想定できるため、語句の意味を正しく理解させて文章を読み取らせると改めた。 評価規準 c は、（ア）を主に参考としたが、b と同様の理由で前半部分を除き、「よく分かる」読み方の評価方法がよりはっきりとするよう「聞き手に」を加えた。また、単元の教材である「雨ニモマケズ」の大きな特徴である「七五調」を加えた。	評価規準 d は、参考にした（イ(ク)）がそのまま使えると考えた。「指示語や接続語」は、単元の教材である「雨ニモマケズ」の「ソウイウモノ」に当たるので、「中心となる語句」と置き換えた。なお、「中心となる語句」は、学習指導要領解説による。

高等部　Ⅲ課程Ａ類型　国語科

１　目標　高等部１段階
２　単元名「手紙を書こう」
３　単元の目標
　①手紙を書くときの大まかなルールが分かり、相手に伝わりやすいように文章や語句などを適切に選ぶことができる
４　設定した単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・誰に向かって、何のために、どのような内容で書くのかを考えようとしている。	・書く相手や目的を実現するために、ふさわしい文章の形態や文体、語句などを考え、適切に選んでいる。 ・伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを明確にして書いている。	・文を読みやすくするために句読点　を打ったり、文相互の関係を理解　しやすくしたりするために指示語や接続語を用いている。

参考にした「小学校国語の評価規準に盛り込むべき事項」や「設定例」の内容

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・自分の書いた手紙が相手にどのように受け止められるかを考えながら書こうとしている。	・誰に、どんな目的で、どんな思いを伝えたいのかを考えて、書こうとする手紙の種類を選んでいる。（ア） ・読み手に伝えたい思いや考えが明確になるように、ふさわしい言葉を選んで文章を書いている。（ウ）	・指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなることを理解し、文脈に沿って指示語や接続語を使っている。（イ（ク）））

評価規準の文言を上記のようにした理由や根拠

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
特別支援学校学習指導要領解説の高等部国語「書く」１段階（４）には「目的に応じて正しく書く」とある。すなわち、誰に、何のために手紙を書くのかが重要になる。	「目的に応じて正しく書く」とは、相手や目的に応じた書式や言葉遣いができるようにするとともに、自分の考えや気持ちを明確に書き表したりできることが意図されている。相手や目的に応じて文章を適切に書くことは、上位の段階にもなるが、手紙を書く上で、自分の考えを伝えるために最低限必要なことは取り上げることとした。	「目的に応じて正しく書く」には、句読点やかぎかっこなどを正しく書き表すことも必要である。自分の考えを順序だてて書くための技術でもある。

資料９　教育課程編成に向けてのアンケート

（調査用紙）

平成 29 年度　教育課程編成に向けてのアンケート

◎所属を教えてください。

小学部　　中学部　　高等部　　訪問教育　　みさかえ分教室

◎おもに指導にかかわられている教育課程の類型を教えてください。（複数回答可）

Ⅰ課程　　Ⅱ課程　　Ⅲ課程 A 類型　　Ⅲ課程 B 類型　　Ⅲ課程 C 類型

ア　平成２８年度の本校教育課程編成の基本的な考え方として示している以下の９項目について、ご自身が該当されるところを教えてください。また、それぞれの項目について、具体例や次年度以降に向けたアイデアを四角枠内にお書きください。

○　児童生徒の障害の状態に関わらず、学校教育として提供する教育内容について、各教科、自立活動、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の学びを成立させることを前提とした教育課程や年間計画を編成する。

実践して手応えがあった	実践したが手応えはこれから	実践は半々程度	実践はほんの少し	全く実践できなかった

○　児童生徒の実態とともに学びの履歴を的確に把握し、卒業までに身につけてほしい力を踏まえて、授業づくりをする。

実践して手応えがあった	実践したが手応えはこれから	実践は半々程度	実践はほんの少し	全く実践できなかった

○　本人・家庭を中心として、医療・福祉・教育・労働の関係諸機関と連携しながら、計画的・系統的に１２年間をとおしたキャリア教育を実践する。

実践して手応えがあった	実践したが手応えはこれから	実践は半々程度	実践はほんの少し	全く実践できなかった

○　教科別の指導においては、教科の内容の相互の関連や系統性を明らかにして、児童生徒の習得度と障害特性に応じた指導を行う。

実践して手応えがあった	実践したが手応えはこれから	実践は半々程度	実践はほんの少し	全く実践できなかった

○　各教科等を合わせた指導においては、児童生徒の実態や経験等に応じて、知的障害特別支援学校の各教科・道徳・特別活動・自立活動の内容を基にして、指導する内容を具体的に設定する。

実践して手応えがあった	実践したが手応えはこれから	実践は半々程度	実践はほんの少し	全く実践できなかった

○　自立活動の指導においては、チェックリストや課題整理表、学習内容一覧等を活用して、６区分２６項目から児童生徒に必要なことを相互に関連付けた指導を展開する。

実践して手応えがあった	実践したが手応えはこれから	実践は半々程度	実践はほんの少し	全く実践できなかった

○　社会体験や自然体験などの活動を通して、豊かな心や生きる力をはぐくみ、人間として調和のとれた児童生徒の育成に努める。

実践して手応えがあった	実践したが手応えはこれから	実践は半々程度	実践はほんの少し	全く実践できなかった

（調査結果）

各質問項目についての傾向や分布、特徴的なことを記す。

（５：実践して手応えがあった、４：実践したが手応えはこれから、３：実践は半々程度、２：実践はほんの少し、１：全く実践できなかった）

○　児童生徒の障害の状態に関わらず、学校教育として提供する教育内容についいて、各教科、自立活動、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の学びを成立させることを前提とした教育課程を編成する。

→　ほぼ３以上。学校として、「教科も自立活動も大切にすること」が定着しつつある。

→　継続。

○　児童生徒の実態とともに学びの履歴を的確に把握し、卒業までに身につけてほしい力を踏まえて、授業づくりをする。

→　２以下の割合が昨年度に比べて大きく減少。目標や授業を考える際に「学びの履歴」「卒業までに身に付けてほしい力」という話題がよく挙がるようになった。諸計画への「学びの履歴」の残し方には改善の余地あり。

→　継続。

○　本人・家庭を中心として、医療・福祉・教育・労働の関係諸機関と連携しながら、計画的・系統的に１２年間をとおしたキャリア教育を実践する。

→　他の項目に比べて２以下の割合が高い。「個別の教育支援計画」の活用や関係機関との連携については手応えあるが、生活年齢が低くなるにつれて「キャリア教育」については実践できず‥という回答が多い。

→　文言要修正。

○　教科別の指導においては、教科の内容の相互の関連や系統性を明らかにして、児童生徒の習得度と障害特性に応じた指導を行う。

→　４以上の割合が昨年度よりも増えている。Ⅲ課程Ｃ類型の教科の指導内容、12 年間の系統性、活用を前提とした妥当性のある教科書の選定などを次年度以降明らかにしていく必要がある。

→　継続。

○　各教科等を合わせた指導においては、児童生徒の実態や経験等に応じて、知的障害特別支援学校の各教科・道徳・特別活動・自立活動の内容を基にして、指導する内容を具体的に設定する。

→　４以上の割合が昨年度よりも増えている。毎日指導をする「日常生活の指導」で取り扱う内容、「生活単元学習」で設定する単元、「作業学習」における種目など、12 年間での系統性が担保できているかの視点で改善を行う必要があることを共有できる文言に。

→　要修正。

○　自立活動の指導においては、チェックリストや課題整理表、学習内容一覧等を活用して、６区分２６項目から児童生徒に必要なことを相互に関連付けた指導を展開する。

→　６区分２６項目からの実態把握や相互に関連付けた目標設定には、まだ改善の余地がある事例が多くある。

→　継続。

○　社会体験や自然体験などの活動を通して、豊かな心や生きる力をはぐくみ、人間として調和のとれた児童生徒の育成に努める。

→　部によって傾向に差がある。指導する内容の結果である「体験」を基本的な考え方に入れてしまうことで、受け止め方がそれぞれになってしまうのではないか。

→　削除。「社会参加」を念頭に置いた基本的な考え方の項目に含める。

○　日々の学習の集大成として、行事を計画的に設定し、学校全体が一丸となって企画・運営に取り組む。

→　学校行事である次年度以降の運動会については検討済み。「学校全体」となると対象がほんのいくつかに限られてしまい、評価の機会が少ない。

→　要修正。

○　地域の人々や他校との交流及び共同学習を計画し、相互に理解を深めるとともに、在学中から児童生徒の社会参加を念頭においた指導を行う。

→　他校との交流及び共同学習は部・教室によって取組体制が異なる。そのことが集計結果に反映されている。

→　要修正。「地域」「社会参加」に重点を置いた表現にする。

資料１０　校内研究アンケート

（調査用紙）

平成２８年度　校内研究について　アンケート

今年度の校内研究を通し先生方が感じられていることをお聞かせいただき、来年度の校内研究へとつなげていきたいと考えています。ご協力のほど、よろしくお願いします。

◎所属を教えてください。

小学部　　中学部　　高等部　　訪問教育

◎校内研究での所属グループを教えてください。

注意やりとり（国語）　　注意やりとり（算数・数学）　　役割　　習慣

〇校内研究を通し、日頃の授業がどのように変わったか、教えてください。ご自身が該当されるところに〇をつけ、それぞれの項目について、具体例等がありましたら、四角枠内にお書きください。

①今年度の校内研究のテーマを理解して、校内研究や日頃の授業に取り組むことができた。

できた　　少しできた　　どちらともいえない　　あまりできなかった　　できなかった

②教科と自立活動の指導の目標設定の違いを理解し、来年度はその違いを明確にした目標が設定できる。

できる　　少しできる　　どちらともいえない　　あまりできない　　できない

③国語、算数および数学の教科指導において、目標設定から評価設定までの手続きを通し、その内容を授業作りに活かすことができた。

できた　　少しできた　　どちらともいえない　　あまりできなかった　　できなかった

④国語、算数および数学の教科指導において、学習評価が児童生徒の変容（段階やスコアの変化）につながった。

つながった　　少しつながった　　どちらともいえない　　あまりつながらなかった　　つながらなかった

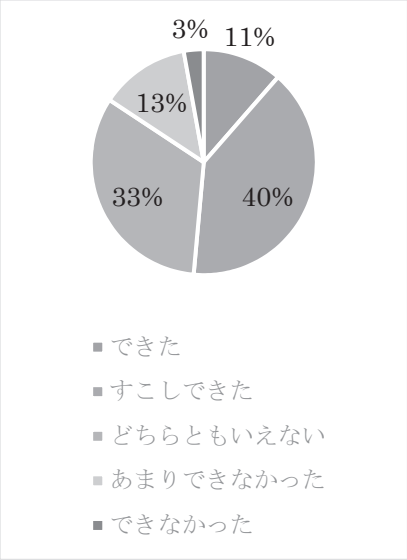
⑤日々の指導やその評価を教育課程改善につなげることができた（予定を含む）。

できた　　少しできた　　どちらともいえない　　あまりできなかった　　できなかった

ご協力ありがとうございました。

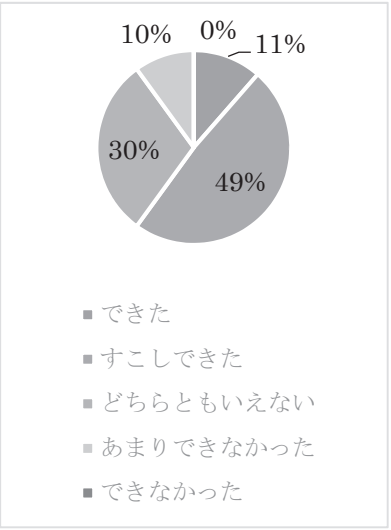
（調査結果）

①校内研究について



〇題材（教科書も含めて）を何をどう使うのか、卒業後に向けて身に付けさせたい力が何かを話す機会を多く持ったことで、日々の個別学習に向かうことができた。

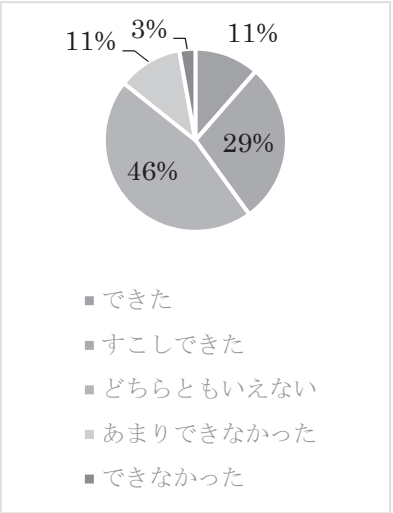
②目標設定について



〇教科指導での目標設定において、系統性を考慮した授業の組立ができた。

△教科と自立活動の目標設定の手続きが違うことは理解できたが、実際に目標を設定することは難しい。

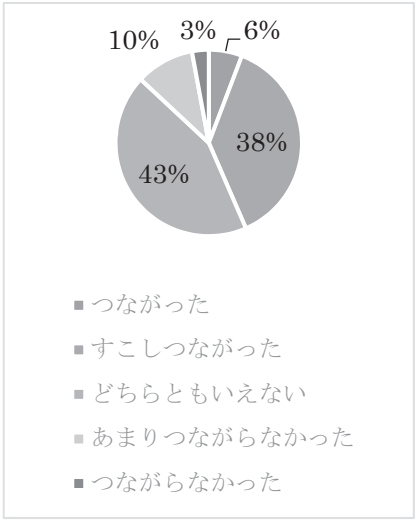
③授業作りについて



△普段の授業では、評価規準と評価基準があいまいなものが多い。個人またはごく少人数での評価基準設定ができていない。

△目標設定は行えたが評価基準設定まではできていない。

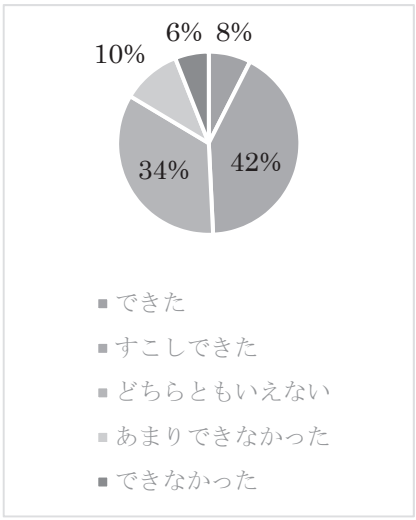
④児童生徒の変容について



〇生徒によっては小さな目標が達成でき、評価に繋がったと思う。
〇スコアの変容はなかったが、昨年の評価に比べると伸びていた。

△評価以前に目標に対する教材作成の工夫が不十分である。
△授業内容そのものの改善が十分に行えていないため、評価だけが変わっても中身がおいついていない。

⑤教育課程について



〇段階やスコアの見方が深まり、実際の授業をイメージしやすくなり、教育課程を検討する際に生かすことができた。

△校内研究の内容を学部及び学年やグループ全体で共有することがあまりできなかった。

おわりに

今年度の研究は知的障害を併せ有する児童生徒における国語および算数・数学の指導に焦点を当て、授業実践をすすめてきました。昨年度までの国語の指導における成果と課題を生かし、小・中・高１２年間を見据えた縦割りグループによる取組や協議を行うことで、目標や評価規準、評価基準の設定や手続きについて、授業実践を通して明らかにすることをめざしてきました。

本研究の成果は、児童生徒の発達段階をふまえ、教科の目標や指導内容を整理していく手順が統一され、「チームいさはや」で教科指導の充実に向けて実践に取り組む体制が整いつつあることです。

一方、課題としては、研究につながる授業実践や事例がまだ少ないため、次年度は研究で明らかにした目標設定の手順や評価規準を、全員の教師が日常の授業に浸透させる体制づくりがあげられます。今後は児童生徒の学力向上や教育課程改善につながるＰＤＣＡサイクルを確立し、児童生徒の学ぶ力や生きる力を高める教育をさらに推進することが必要です。

本研究が児童生徒の学力向上や教育課程改善につながる実践であるかの検証はこれからであり、まだ道半ばではございますが、この１年間小・中・高一貫性、系統性のある指導、根拠のある説明責任を果たせる授業を目指し、授業研究や改善に真摯に取り組んでまいりました。今後もより児童生徒の実態やニーズに合った教育活動をすすめるために、これらの研究・実践が明日への１歩につながるよう努力していきたいと思います。この報告書をご覧いただいた方に、本校教育の充実に向けて忌憚のない意見やご助言をいただければ幸いです。

最後になりましたが、本研究報告書を作成するにあたり、福岡教育大学准教授の一木　薫先生には継続したご指導を賜るとともに、巻頭言をご執筆いただき心よりお礼申し上げます。

長崎県立諫早特別支援学校副校長　柴田　寿恵

平成２８年度　長崎県立諫早特別支援学校　研究報告書

発行者　長崎県立諫早特別支援学校
校長　池田　孝之
長崎県諫早市真崎町 1670-1
TEL　0957-26-1085
http://www2.news.ed.jp/section/isahaya-ss/index.html
発行日　平成２９年３月
印刷所　九州プリント